

奈良市

子ども条例検討に伴うアンケート調査

報 告 書

平成25年 3 月

奈 良 市

目 次

I	調査概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査内容	1
3.	調査設計	1
4.	報告書のみかた	2
II	調査結果の概要	3
1.	子ども調査（小学5年生・中学2年生・17歳）の調査結果の概要	3
2.	20歳以上の調査結果の概要	5
III	調査結果の詳細	7
III-1	子ども調査の結果	7
1.	回答者の属性	7
2.	ふだんの生活状況	13
3.	地域での生活状況	40
4.	相談について	44
5.	自己決定について	53
6.	自由意見	60
III-2	20歳以上の調査の結果	63
1.	回答者の属性	63
2.	ふだんの生活状況	70
3.	地域での生活状況	95
4.	相談について	102
5.	自己決定について	104
6.	自由意見	110
	資料	
	・調査票	111
	・単純集計表	138

I 調査概要

I 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、奈良市子ども条例を検討するにあたり、学校や家庭や地域社会における子どもたちの思いや課題など、また大人の子どもたちへの関わりや子ども観などを把握するために、市内の子ども（小学5年生、中学2年生、17歳の市民）と20歳以上の市民を対象にアンケート調査を実施した。

2. 調査内容

- （1）回答者の属性
- （2）ふだんの生活状況
- （3）地域での生活状況
- （4）相談について
- （5）自己決定について

3. 調査設計

	小学5年生	中学2年生	17歳	20歳以上
調 査 対 象	地区ごとに児童数を比例按分し、抽出した学校の小学5年生と中学2年生の児童・生徒		住民基本台帳から無作為抽出した17歳の市民	住民基本台帳から無作為抽出した20歳以上の市民
調 査 方 法	学校を通じて配布・回収		郵送配布・郵送回収	
調 査 期 間	平成24年12月18日(火)～ 平成25年1月8日(火)		平成24年12月18日(火)～ 平成25年1月7日(月)	
対 象 者 数	485人	558人	1,000人	1,500人
有 効 回 答 数	485人	558人	470人	814人
有 効 回 答 率	100.0%	100.0%	47.0%	54.3%

4. 報告書のみかた

- (1) 図中の n (Number of case) は、設問に対する回答者数のことである。
- (2) 回答比率 (%) は回答者数 (n) を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがある。また、一人の対象者に複数の回答を求める設問では、回答比率 (%) の計は100.0%を超える。
- (3) 図中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問である。
 - ・ MA% (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・ 3 LA% (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
- (4) 図表において、コンピュータの入力の都合上、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。

Ⅱ 調査結果の概要

Ⅱ 調査結果の概要

1. 子ども調査（小学5年生・中学2年生・17歳）の調査結果の概要

■ ふだんの生活状況

- ・ 部活や塾・習い事の有無については、いずれも「している」が7割以上を占め、中学2年生が90.7%で最も高くなっている。その内容は、小学5年生は「習い事」が88.3%で最も高く、中学2年生と17歳は「学校の部活」が8割前後を占め、次いで「学習塾」となっている。
- ・ いずれも保護者との会話時間は「2時間以上」が最も高くなっており、「まったくしない」「15分未満」は中学2年生が最も高くなっている。また、保護者との夕食を、小学5年生は「いつも一緒に食べる」(64.9%)が、中学2年生と17歳は「ほとんど一緒に食べる」(中2：43.7%、17歳：45.1%)がそれぞれ最も高くなっている。「いつも一緒に食べる」と「ほとんど一緒に食べる」をあわせた『一緒に食べる』割合は年齢が上がるにつれて低くなっており、一緒に食べない理由として、小学5年生と中学2年生は「親（保護者）の帰りが遅いから」(小5：41.9%、中2：36.4%)、17歳は「自分の帰りが遅いから」(67.2%)となっている。
- ・ 自分に対する意識については、小学5年生と17歳は“自分のことが好き”に対し、「そう思う」と「やや思う」をあわせた肯定的意見が共に過半数を占める。中学2年生は「あまり思わない」と「思わない」をあわせた否定的意見が64.5%となっている。いずれも“自分はひとりぼっちであると感じる”に対し否定的意見が過半数を占め、年齢が上がるにつれて肯定的意見が高くなっている。また、“自分たちの意見を聞いてくれる大人がほしい”は、肯定的意見が小学5年生で52.5%に対し、中学2年生、17歳は否定的意見が過半数を占める。“あれこれ大人から指図されるより自分らしく生きたい”は、肯定的意見がいずれも8割前後を占める。“今、受験に向けて勉強すれば将来が楽になる”と“学習塾での勉強は進学のために必要である”は、いずれも肯定的意見が過半数を占め、特に中学2年生では8割前後と高くなっている。“塾や習い事よりも思いっきり遊ぶ自由な時間が欲しい”も、いずれも肯定的意見が過半数を占め、中学2年生が83.7%で最も高くなっている。
- ・ 地域に対する意識については、“自分の住んでいるまちが好き”に対し、肯定的意見が、いずれも7割以上を占め、小学5年生が89.1%で最も高くなっている。“将来もこのまちに住みたい”も肯定的意見が小学5年生で63.8%と最も高く、年齢が上がるにつれて低くなっている。“地域の将来を考える機会があっても参加したい”は否定的意見が、いずれも5～6割を占めている。また、“自分たちは、地域によって犯罪から守られている”と“自分の地域は災害に対して安全である”は、いずれも肯定的意見が過半数を占めている。“通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない”は、肯定的意見が小学5年生では51.3%で、年齢が上がるにつれて低くなっており、中学2年生と17歳は否定的意見が過半数を占めている。
- ・ 平日の放課後・自由な時間に過ごす場所は、いずれも「自分の家」が8割以上で最も高く、次いで小学5年生は「友だちの家」(36.5%)、中学2年生と17歳は「学校（ク

ラブ活動・部活動)」(中2:68.1%、17歳:47.2%)となっている。休日の日中過ごす場所では、いずれも「自分の家」が7割以上で最も高く、次いで小学5年生は「祖父母の家」(25.6%)、中学2年生と17歳は「学校(クラブ活動・部活動)」(中2:50.0%、17歳:26.8%)となっている。ホッとする場所では、いずれも「自分の家」が9割前後で最も高く、次いで「祖父母の家」となっており、小学5年生、中学2年生は「友だちの家」、17歳は「学校(クラブ活動・部活動)」がさらに続いている。また、「自分の家」「友だちの家」「祖父母の家」「親せきの家」はいずれも小学5年生が最も高く、年齢が上がるにつれて割合が低くなっている。

■ 地域での生活状況

- ・ 近所の大人が自分の名前を知っている割合は、いずれも過半数を占め、そのうち小学5年生は「いろいろ話をする人がいる」(42.9%)、中学2年生と17歳は「あいさつをする程度の人がいる」(中2:35.8%、17歳:37.0%)が最も高くなっている。『近所で話をしたりする大人がいない』割合は、年齢が上がるにつれて高くなっている。
- ・ 近所の大人たちからほめられたりしなかったり等をした経験は、小学5年生と中学2年生では「ときどきあった」(小5:39.4%、中2:34.9%)が最も高く、17歳は「あまりなかった」(36.6%)が最も高くなっている。
- ・ 祭りやイベント等への参加状況をみると、いずれも「行事の当日だけ参加する(したことがある)」が7割前後で最も高くなっている。年齢が上がるにつれて「参加したことがない」割合が高くなり、17歳では29.8%と最も高くなっている。

■ 相談について

- ・ 保護者への相談状況について、いずれも「自分から話しかけ、いろいろ相談に乗ってくれる」が最も高く、男より女のほうの割合が高くなっている。一方、「親(保護者)の方からいろいろ聞かれて、答える」の割合は、いずれも女より男のほうが高く、中学2年生では「親(保護者)の方からいろいろ聞かれて、答える」(26.0%)や「親(保護者)の方からいろいろ聞かれるが、あまり答えない」(12.9%)、「自分からも親(保護者)からもあまり話しかけることはない」(10.6%)が高くなっている。
- ・ 「他の人から嫌なことをされたことがある」は、小学5年生が58.4%で最も高く、次いで中学2年生が50.5%、17歳は46.8%で、その時の相談相手は、小学5年生は「親」(48.8%)が最も高くなっている。中学2年生・17歳の場合は「友だち」(中2:65.2%、17歳:65.9%)が最も高くなっている。

■ 自己決定について

- ・ “門限など家庭内のルール”は、いずれも「親(保護者)に相談して決めている」が最も高くなっている。“学校に行くか、休むか”は、小学5年生と中学2年生では「親(保護者)に相談して決めている」が約半数を占め、17歳は「自分で決めている」(49.6%)が最も高くなっている。“塾や習い事に行くかどうか”は、小学5年生は「親(保護者)に相談して決めている」(41.2%)が、中学2年生と17歳は「自分で決めて

いる」(中2:38.5%、17歳:46.6%)がそれぞれ最も高くなっている。また、“風呂・食事・勉強などの生活時間”、“服装・髪型・ファッション”、“友だち”、“恋愛”、“仕事・アルバイト”、“将来”は、いずれも「自分で決めている」が最も高く、“将来”を除いた項目では、年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。“将来”は、年齢が上がるにつれて「自分で決めている」割合が低くなり、17歳では「親(保護者)に相談して決めている」の割合が33.0%と高くなっている。

- ・ 将来の夢や目標の有無は、いずれも「ある」が最も高くなっている。小学5年生(75.9%)が最も高いのに対し、中学2年生(52.7%)は最も低くなっている。また、男女別ではいずれも男より女のほうが「ある」の割合が高く、17歳では15.0ポイント差となっている。

2. 20歳以上の調査結果の概要

■ ふだんの生活状況

- ・ 子どもとの会話時間について、男は「15分未満」(26.2%)が最も高く、次いで「30分～1時間未満」(24.6%)となっている。女は「2時間以上」(47.2%)が最も高く、次いで「1時間～1時間30分未満」(15.3%)となっている。
- ・ 子どもとの夕食の共食頻度は、男は「あまり一緒に食べない」(64.6%)が最も高く、一緒に食べない理由として「親(保護者)の帰りが遅いから」(77.8%)が最も高くなっている。一方、女は「いつも一緒に食べる」(62.0%)が最も高くなっている。
- ・ 部活や塾・習い事をしている子どもは全体の76.4%を占める。その内容は「習い事」が62.9%で最も高く、次いで「学習塾」が52.6%、「学校の部活」が43.4%となっている。
- ・ 自分や子ども、地域に対する意識をみると、「そう思う」と「やや思う」をあわせた肯定的意見は“子どもにもひとりの人間としての権利がある”(92.2%)が最も高く、次いで“子どもの安全は地域で守るものだ”(89.3%)、“自分の住んでいるまちが好きだ”(86.5%)となっている。傾向として、“学習塾での勉強は進学のために必要だ”に対する肯定的意見は40歳代を境に減少し、70歳以上(56.1%)で最も低くなっている。一方、“地域で子どもが通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない”の割合は、年代が上がるにつれて高くなっている。また、子どもの有無別でみると、“行政は子どもの声をもっと聞いて施策に反映すべきだ”、“学習塾での勉強は進学のために必要だ”、“子どもにもひとりの人間としての権利がある”は、肯定的意見が子どもがいない人に比べて子どもがいる人のほうが、それぞれ10.0ポイント以上高くなっている。

■ 地域での生活状況

- ・ 近所で会話をする人の有無は、男は「名前を知っていて、あいさつをする程度の人がいる」(36.5%)が最も高く、女は「名前を知っていて、いろいろ話をする人がある」(55.3%)が最も高くなっている。年齢別では、「名前を知っていて、いろいろ話をす

る人がいる」の割合は、年齢が上がるにつれて高くなり、70歳以上（64.5%）が最も高くなっている。

- ・ 近所に話をしたりする子どもの有無は、男は「いない」（49.5%）、女は「名前を知っていて話をする子どもがいる」（46.5%）が最も高く、子どもの有無別でみると、「名前を知っていて話をする子どもがいる」、「話はしないが顔も名前も知っている子どもがいる」、「名前は知らないが話をする子どもがいる」など近所の子どもを認識している割合は子どもがいる人のほうが高くなっている。
- ・ 祭りやイベント等への参加状況は、「話し合いなど準備から参加する（したことがある）」の割合は、年齢が上がるにつれて高くなっている。「参加したことがない」の割合は、20歳代（51.5%）が最も高くなっている。

■ 相談について

- ・ 子どもからの相談への対応状況は、男は「こちらから話しかけて子どもの声を聞く」（40.0%）が最も高く、女は「子どもから悩みや疑問を話しかけてきて、いろいろな相談に乗っている」（46.6%）が最も高くなっている。また、「こちらからいろいろ聞くが子どもはあまり話さない」と「こちらからも子どもからもあまり話しかけることはない」の割合は、男のほうが高くなっている。

■ 自己決定について

- ・ 「子ども自身が決めること」は“友だち”（83.7%）が最も高く、次いで“恋愛”（75.3%）、“将来”（53.8%）となっている。「親（保護者）に相談して決めること」は“風呂・食事・勉強などの生活時間”（56.5%）、“門限など家庭内のルール”（58.2%）、“学校に行くか、休むか”（67.2%）、“塾や習い事に行くかどうか”（68.8%）、“仕事・アルバイト”（51.2%）が過半数を占めている。年齢別では、「子ども自身が決めること」の割合は“服装・髪型・ファッション”と“将来”は20歳代が最も高く、年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。“友だち”は20～50歳代で約9割を占め、“恋愛”、“仕事・アルバイト”は20・30歳代の割合が高くなっている。

Ⅲ 調査結果の詳細

Ⅲ－１　子ども調査の結果

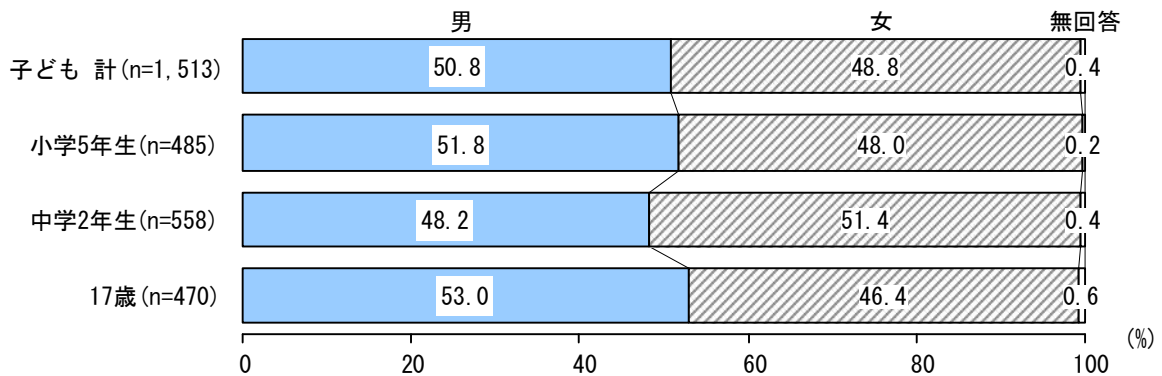
Ⅲ 調査結果の詳細

Ⅲ-1 子ども調査の結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

【図Ⅱ-1-1 性別】

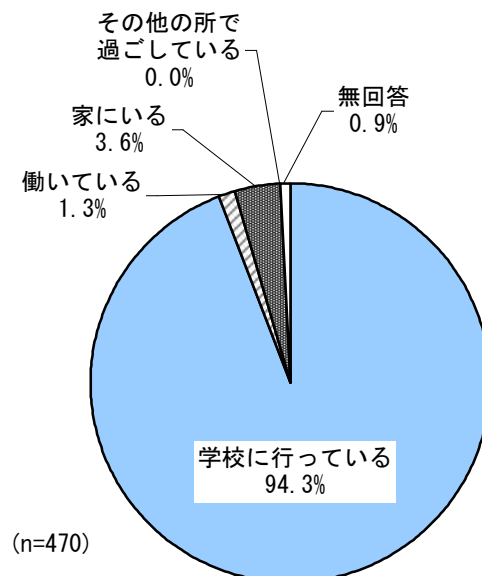


回答者の性別は、「男」が50.8%、「女」が48.8%となっている。

小学5年生は「男」51.8%、「女」48.0%、中学2年生は「男」48.2%、「女」51.4%、17歳は「男」53.0%、「女」46.4%となっている。(図Ⅱ-1-1)

(2) 平日の主な行動 (17歳のみ)

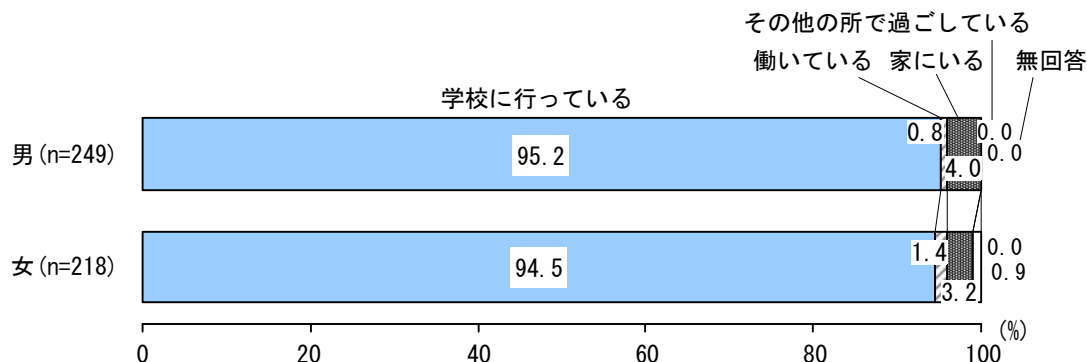
【図Ⅱ-1-2 平日の主な行動】



平日の主な行動は、「学校に行っている」が94.3%で最も高く、次いで「家にいる」が3.6%、「働いている」が1.3%となっている。(図Ⅱ-1-2)

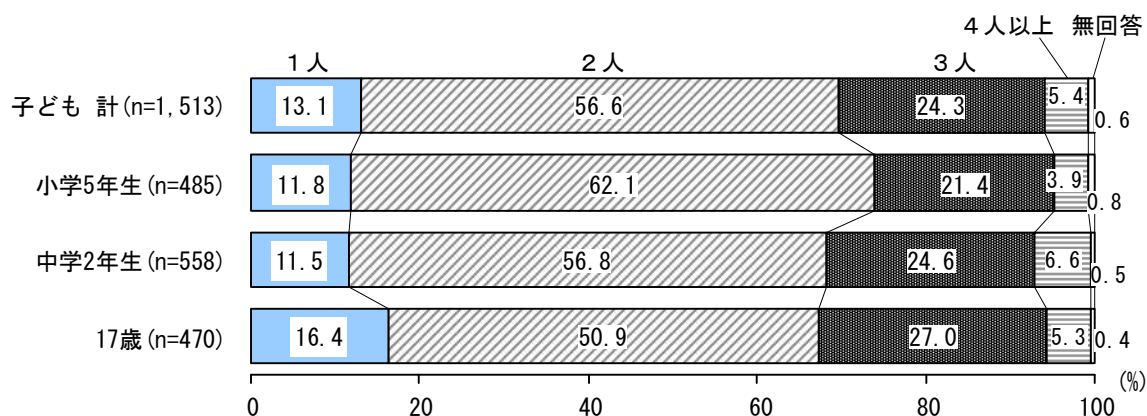
性別でみると、男女とも「学校に行っている」が最も高いが、「家にいる」は女(3.2%)より男(4.0%)のほうがやや高くなっている。(図Ⅱ-1-2-①)

【図Ⅱ-1-2-① 性別 平日の主な行動〔17歳〕】



(3) 兄弟姉妹の人数

【図Ⅱ-1-3 兄弟姉妹の人数】



回答者の兄弟姉妹の人数（回答者を含む）は、「2人」が56.6%で最も高く、次いで「3人」が24.3%、「1人」が13.1%となっている。

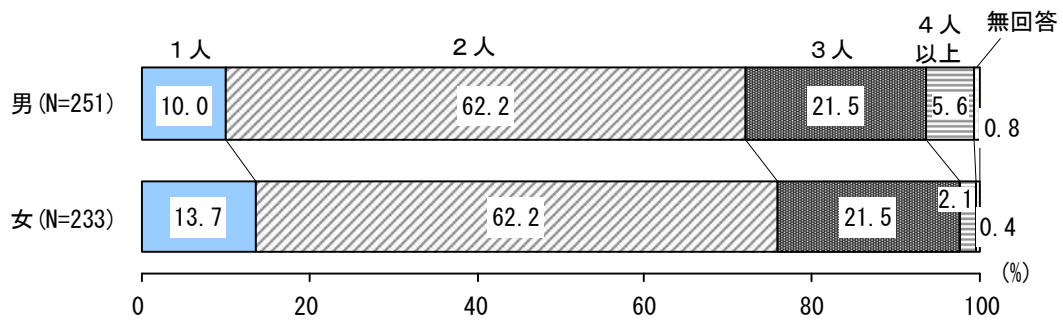
学年・年齢別でも、いずれも「2人」が最も高く、5～6割を占めている。次いでいずれも「3人」となっており、2割台となっている。（図Ⅱ-1-3）

性別でみると、小学5年生は、男女とも「2人」が62.2%で最も高く、「4人以上」は女（2.1%）より男（5.6%）のほうが3.5ポイント高くなっている。（図Ⅱ-1-3-①）

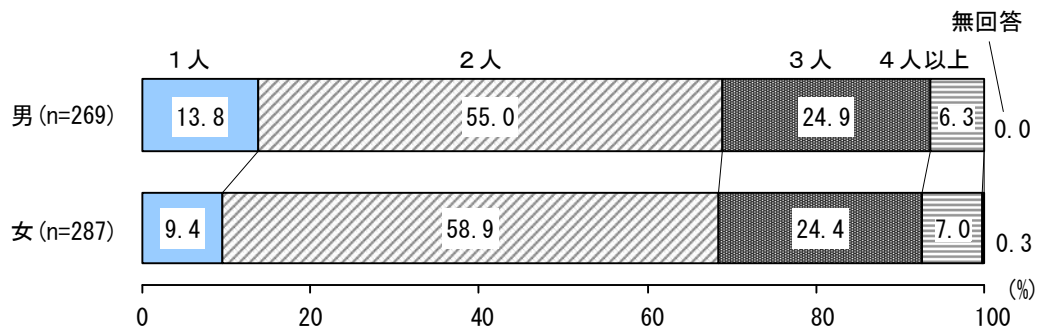
中学2年生は、男女とも「2人」が最も高く、男（55.0%）より女（58.9%）のほうが3.9ポイント高くなっている。（図Ⅱ-1-3-②）

17歳も、男女とも「2人」が最も高く、「1人」は男（14.9%）より女（17.9%）のほうが3.0ポイント高くなっている。（図Ⅱ-1-3-③）

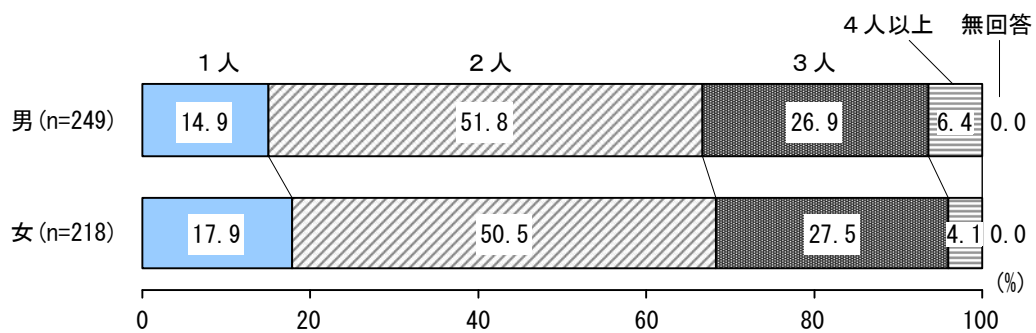
【図Ⅱ-1-3-① 性別 兄弟姉妹の人数〔小学5年生〕】



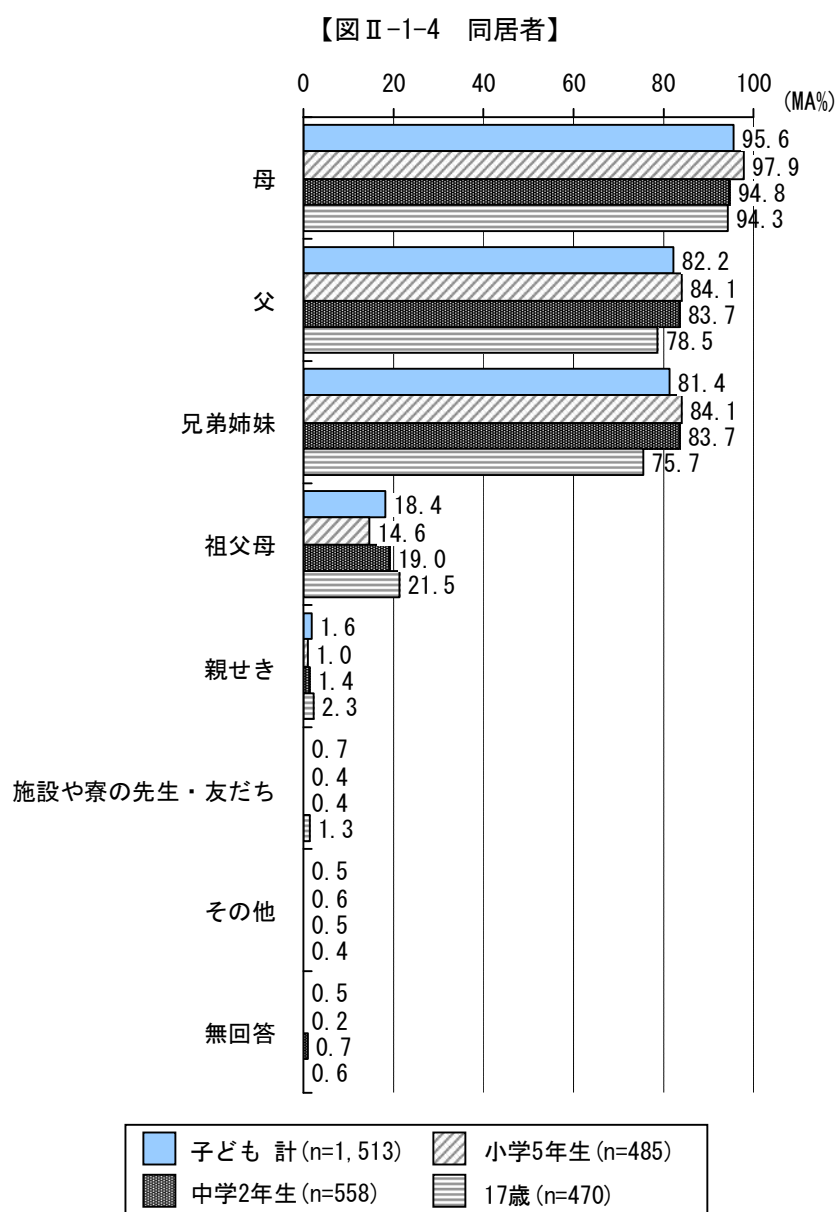
【図Ⅱ-1-3-② 性別 兄弟姉妹の人数〔中学2年生〕】



【図Ⅱ-1-3-③ 性別 兄弟姉妹の人数〔17歳〕】



(4) 同居者



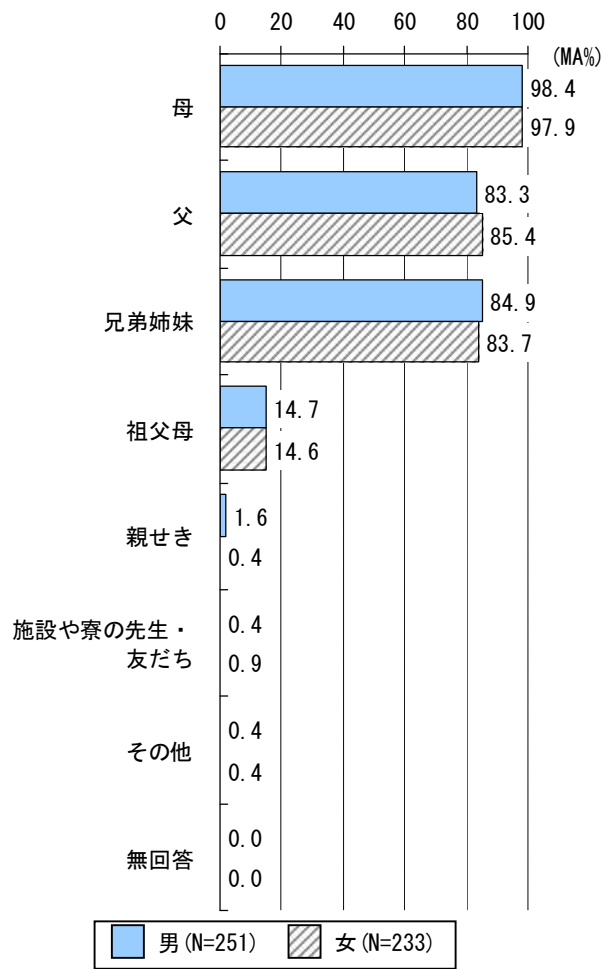
同居者は、「母」が95.6%で最も高く、次いで「父」が82.2%、「兄弟姉妹」が81.4%となっている。

学年・年齢別でみると、いずれも「母」が最も高く、9割以上を占めている。次いで小学5年生と中学2年生は「父」と「兄弟姉妹」(小5:84.1%、中2:83.7%)が同率となっており、17歳は、「父」が78.5%、「兄弟姉妹」が75.7%となっている。(図Ⅱ-1-4)

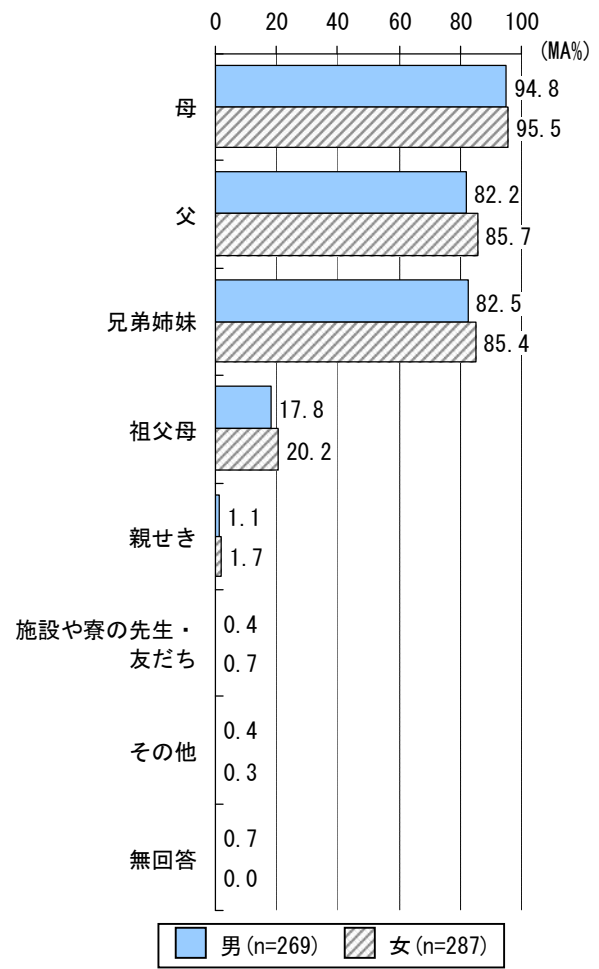
性別でみると、小学5年生は、男女とも「母」が98%前後を占め最も高く、次いで男は「兄弟姉妹」(84.9%)、女は「父」(85.4%)となっている。(図Ⅱ-1-4-①)

中学2年生も、男女とも「母」が95%前後を占め最も高く、次いで男は「兄弟姉妹」(82.5%)、女は「父」(85.7%)となっている。(図Ⅱ-1-4-②)

【図Ⅱ-1-4-① 性別 同居者〔小学5年生〕】



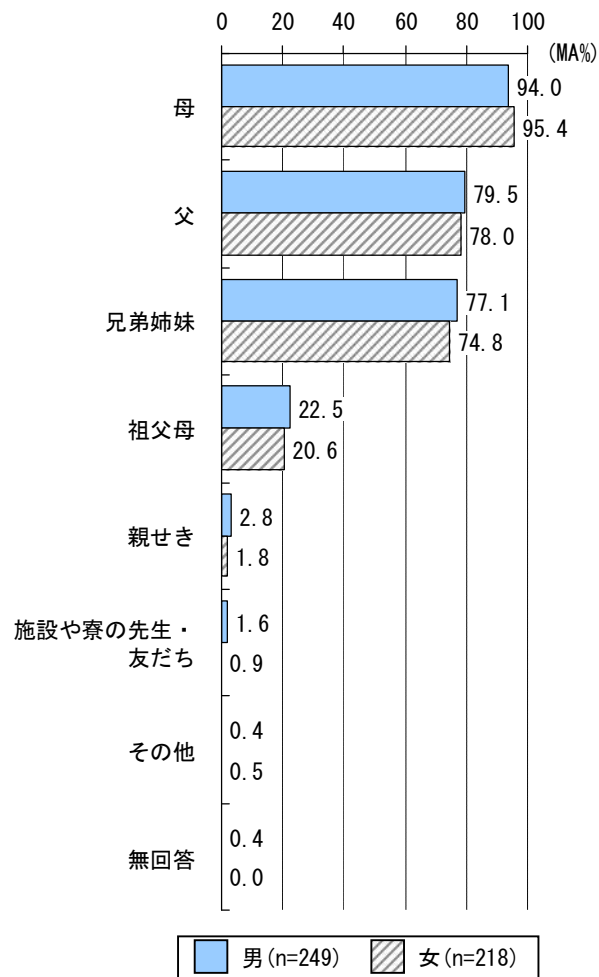
【図Ⅱ-1-4-② 性別 同居者〔中学2年生〕】



Ⅲ-1 子ども調査の結果

17歳も、男女とも「母」が95%前後を占め最も高く、次いで男女とも「父」が79%前後となっている。(図Ⅱ-1-4-③)

【図Ⅱ-1-4-③ 性別 同居者〔17歳〕】

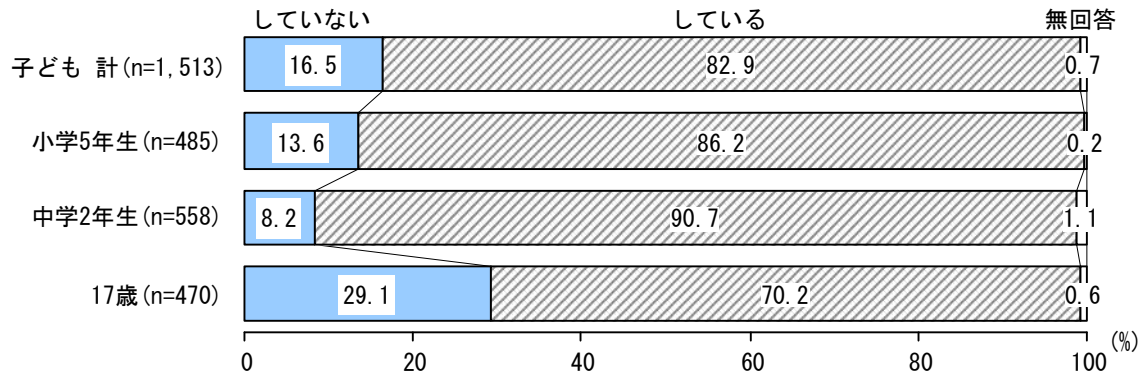


２．ふだんの生活状況

（１）部活や塾、習い事の有無

問 あなたは、部活や塾に行ったり、習い事をしていますか。（どちらかに○）

【図Ⅱ-2-1 部活や塾、習い事の有無】



部活や塾、習い事の有無については、「している」が82.9%に対し、「していない」が16.5%となっている。

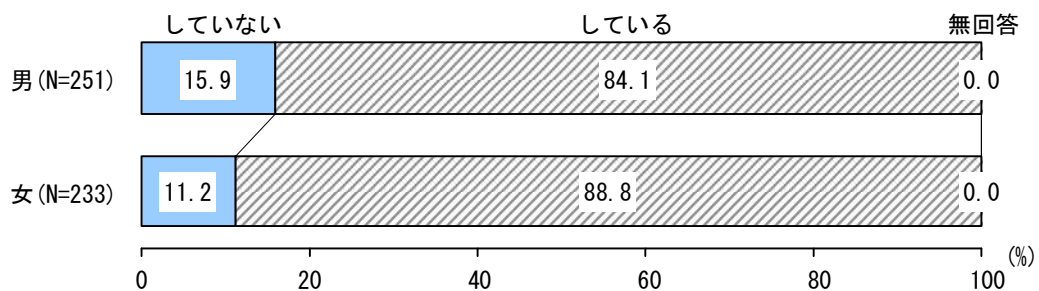
学年・年齢別でみると、「している」は小学5年生が86.2%、中学2年生が90.7%、17歳が70.2%であり、中学2年生の割合が最も高くなっている。（図Ⅱ-2-1）

性別でみると、小学5年生は、「している」は男（84.1%）より女（88.8%）のほうが4.7ポイント高くなっている。（図Ⅱ-2-1-①）

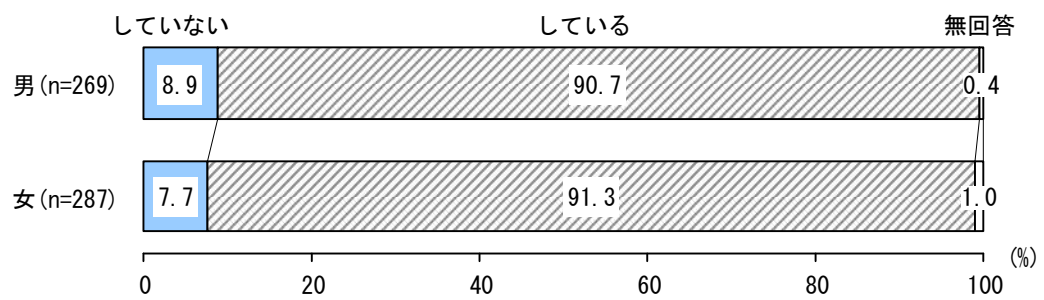
中学2年生は、「している」は男女とも9割を占めており、大きな差はみられない。（図Ⅱ-2-1-②）

17歳は、「している」は男（68.3%）より女（72.9%）のほうが高いが、小学5年生や中学2年生に比べると低い割合となっている。（図Ⅱ-2-1-③）

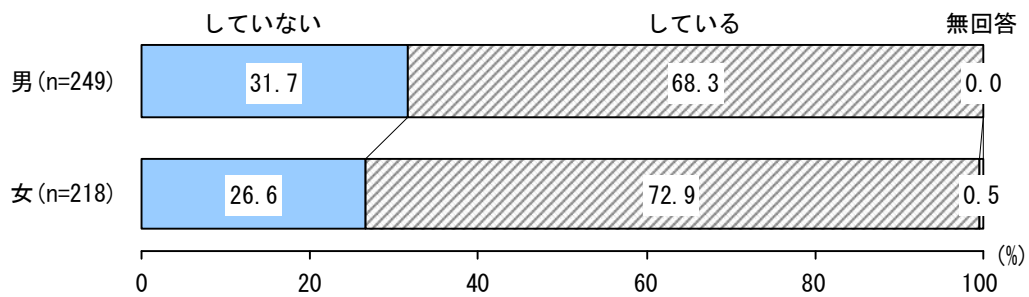
【図Ⅱ-2-1-① 性別 部活や塾、習い事の有無〔小学5年生〕】



【図Ⅱ-2-1-② 性別 部活や塾、習い事の有無〔中学２年生〕】



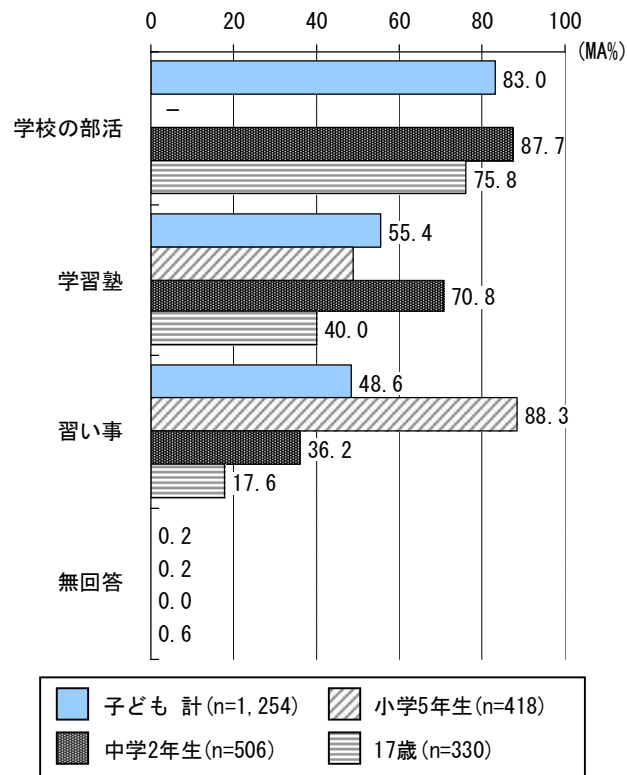
【図Ⅱ-2-1-③ 性別 部活や塾、習い事の有無〔17歳〕】



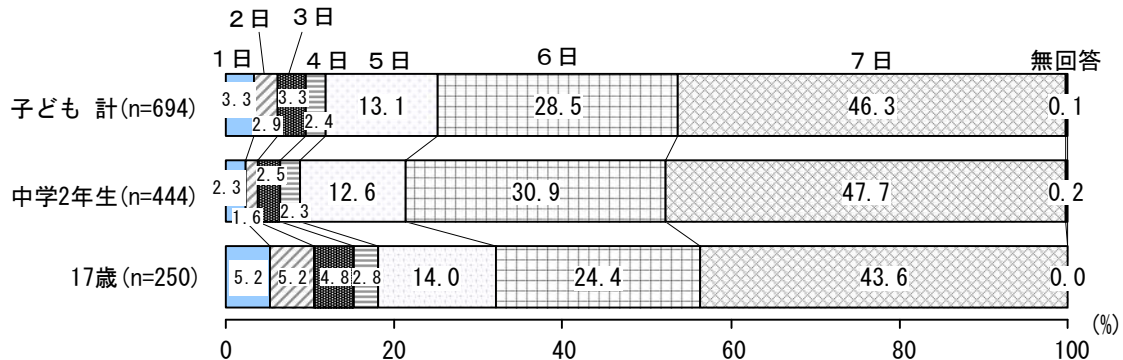
(2) 部活や塾、習い事の内容

付問 何をしていますか。それは、週に何日、合計どれぐらいの時間ですか。

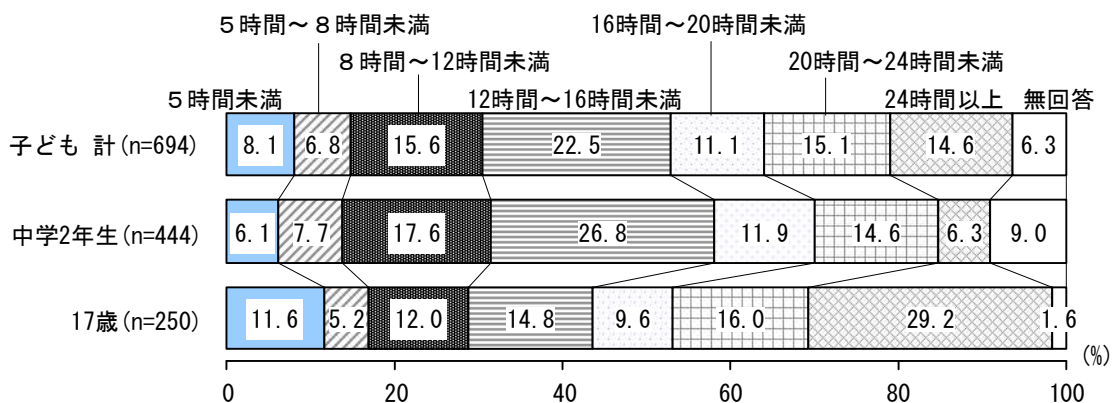
【図Ⅱ-2-2 部活や塾、習い事の内容】



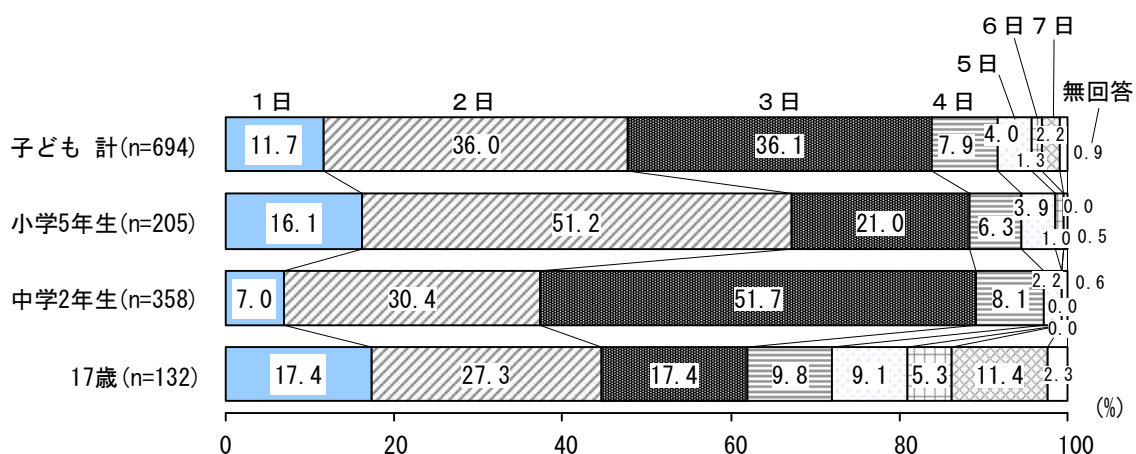
【図Ⅱ-2-2-1 学校の部活の活動日数/週】



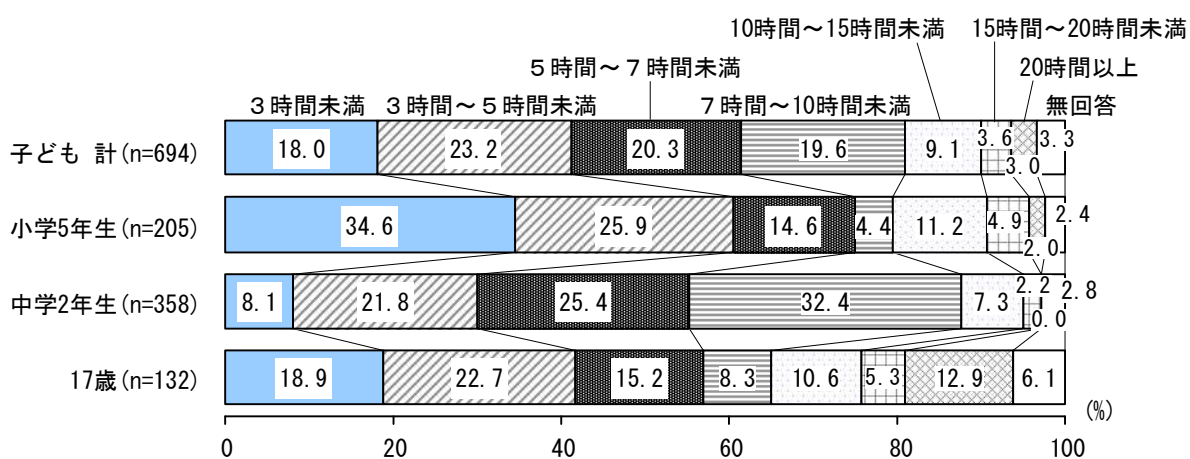
【図Ⅱ-2-2-2 学校の部活の活動時間数/週】



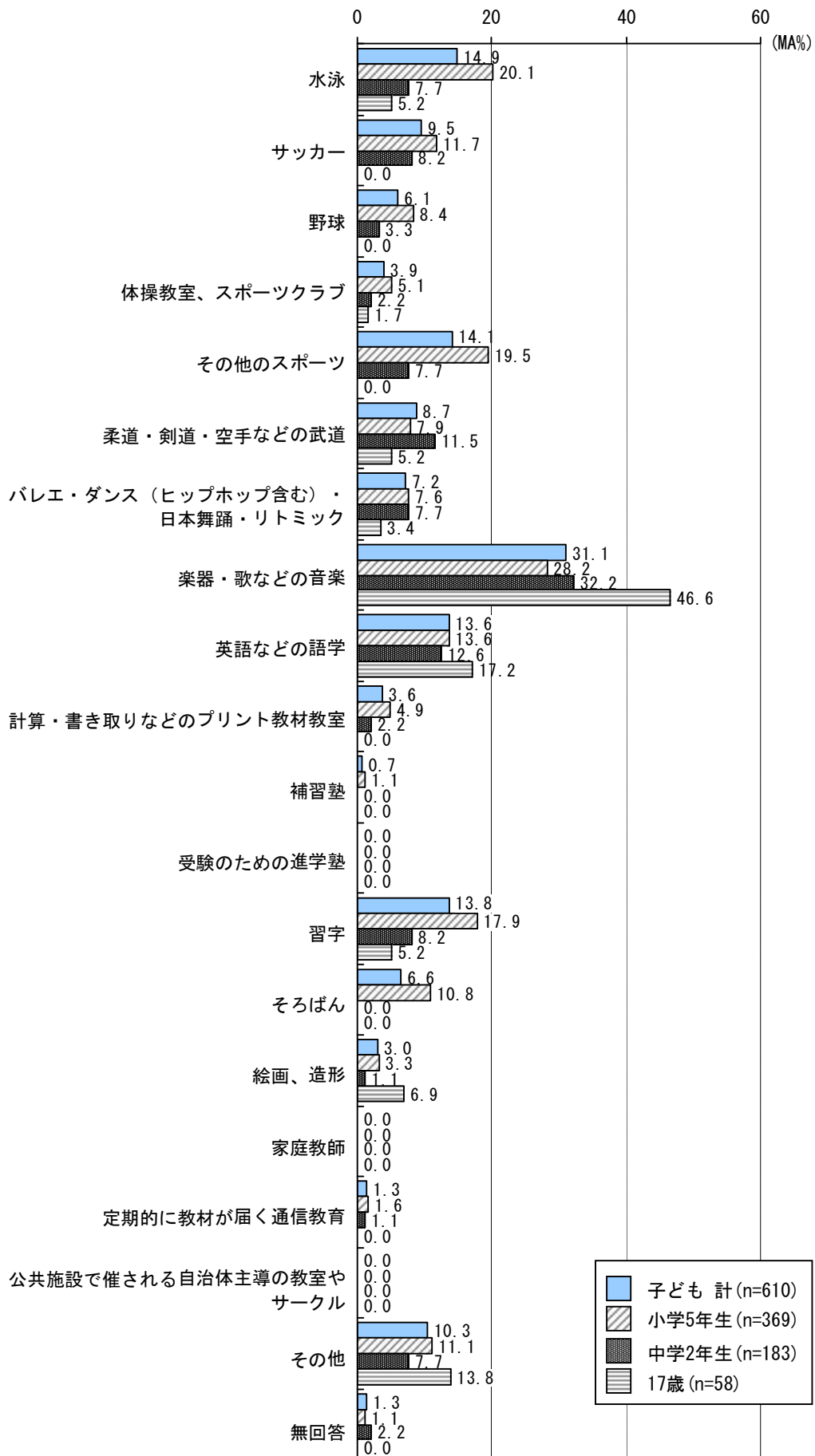
【図Ⅱ-2-2-3 学習塾に通っている日数/週】



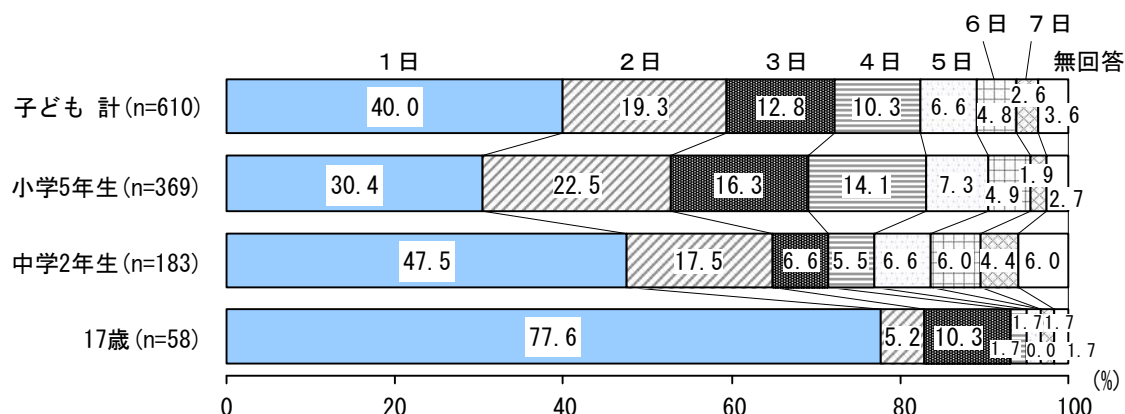
【図Ⅱ-2-2-4 学習塾に通っている時間数/週】



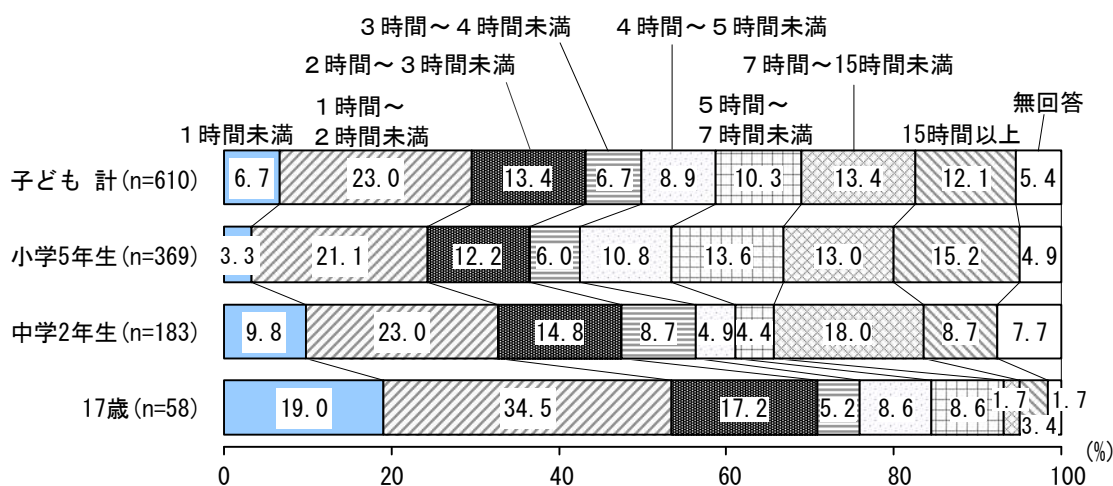
【図Ⅱ-2-2-5 通っている習い事】



【図Ⅱ-2-2-6 習い事に通っている日数/週】



【図Ⅱ-2-2-7 習い事に通っている時間数/週】



部活や塾、習い事をしていると回答した人に、その内容や通っている日数、時間についてたずねた。

内容は、「学校の部活」が83.0%で最も高く、次いで「学習塾」が55.4%、「習い事」が48.6%となっている。学年・年齢別でみると、小学5年生は「習い事」が88.3%で最も高いが、中学2年生と17歳は「学校の部活」が8割前後を占め最も高く、次いで「学習塾」となっている。(図Ⅱ-2-2)

学校の部活の週当たりの活動日数は、「7日」が46.3%で最も高く、次いで「6日」が28.5%となっている。学年・年齢別でみても、中学2年生、17歳とも「7日」(中2:47.7%、17歳:43.6%)が最も高く、6日以上は17歳(68.0%)より中学2年生(78.6%)が約1割高くなっている。(図Ⅱ-2-2-1)

学校の部活の週当たりの活動時間は、「12時間～16時間未満」が22.5%で最も高く、次いで「8時間～12時間未満」が15.6%となっている。学年・年齢別でみると、中学2年生は「12時間～16時間未満」(26.8%)が最も高いが、17歳は「24時間以上」(29.2%)が最も高くなっている。(図Ⅱ-2-2-2)

学習塾に通っている日数は、「3日」が36.1%で最も高く、次いで「2日」が36.0%となっ

ている。学年・年齢別でみると、小学5年生は「2日」が51.2%で最も高く、中学2年生は「3日」(51.7%)、17歳は「2日」(27.3%)が最も高くなっている。(図Ⅱ-2-2-3)

学習塾に通っている時間数は、「3時間～5時間未満」が23.2%で最も高く、次いで「5時間～7時間未満」が20.3%となっている。学年・年齢別でみると、小学5年生は「3時間未満」(34.6%)が最も高いが、中学2年生は「7時間～10時間未満」(32.4%)、17歳は「3時間～5時間未満」22.7%が最も高くなっている。(図Ⅱ-2-2-4)

通っている習い事については、「楽器・歌などの音楽」が31.1%で最も高く、次いで「水泳」が14.9%、「その他のスポーツ」が14.1%となっている。学年・年齢別でみると、いずれも「楽器・歌などの音楽」が最も高く、17歳(46.6%)が最も高い割合となっている。次いで小学5年生は「水泳」(20.1%)、中学2年生と17歳は「英語などの語学」(中2:12.6%、17歳:17.2%)となっている。(図Ⅱ-2-2-5)

習い事に通っている日数は、「1日」が40.0%で最も高く、次いで「2日」が19.3%となっている。学年・年齢別でみると、いずれも「1日」が最も高く、年齢が上がるにつれて割合が高くなり、17歳で77.6%を占めている。(図Ⅱ-2-2-6)

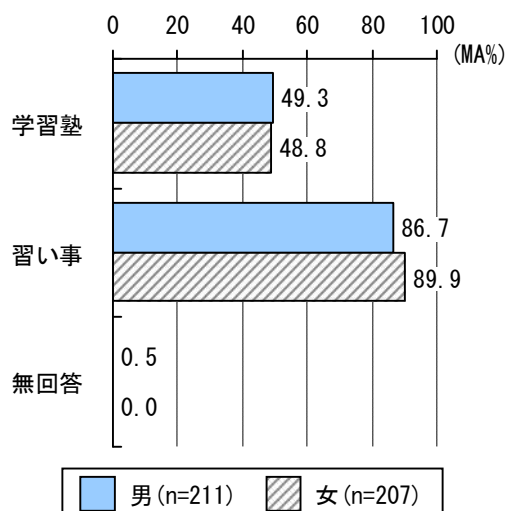
習い事に通っている時間数は、「1時間～2時間未満」が23.0%で最も高く、次いで「2時間～3時間未満」と「7時間～15時間未満」が共に13.4%となっている。学年・年齢別でみると、いずれも「1時間～2時間未満」が最も高く、3時間未満の割合は年齢が上がるにつれて割合が高く、一方で「15時間以上」は小学5年生(15.2%)で最も高くなっている。(図Ⅱ-2-2-7)

性別でみると、小学5年生は、男女とも「習い事」が高く、男(86.7%)より女(89.9%)3.2ポイント高くなっている。(図Ⅱ-2-2-①)

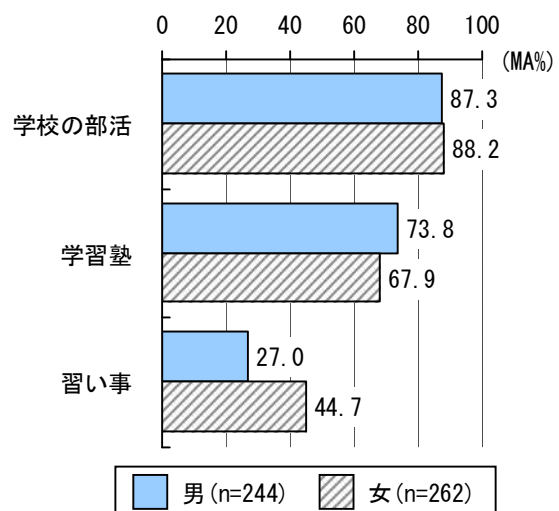
中学2年生は、男女とも「学校の部活」が最も高いが、「習い事」は男(27.0%)より女(44.7%)のほうに17.7ポイント高く、差が大きい。(図Ⅱ-2-2-②)

17歳も、男女とも「学校の部活」が最も高く、男(73.5%)より女(78.0%)のほうに4.5ポイント高く、「習い事」も男(10.0%)より女(25.8%)のほうに15.8ポイント高くなっている。(図Ⅱ-2-2-③)

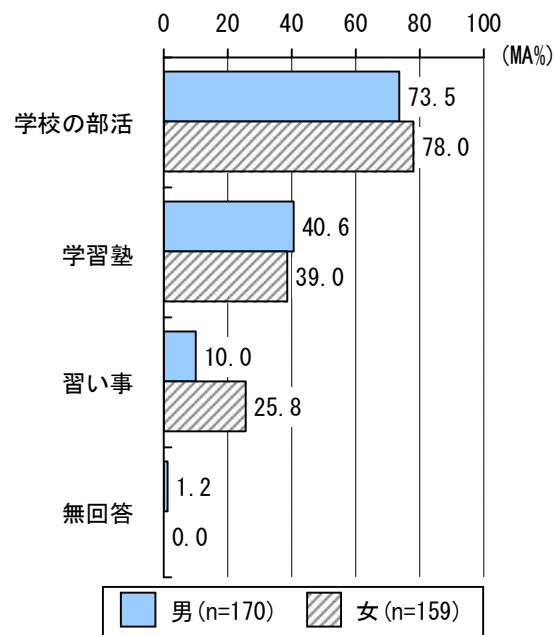
【図Ⅱ-2-2-① 性別 部活や塾、習い事の内容〔小学5年生〕】



【図Ⅱ-2-2-② 性別 部活や塾、習い事の内容〔中学2年生〕】



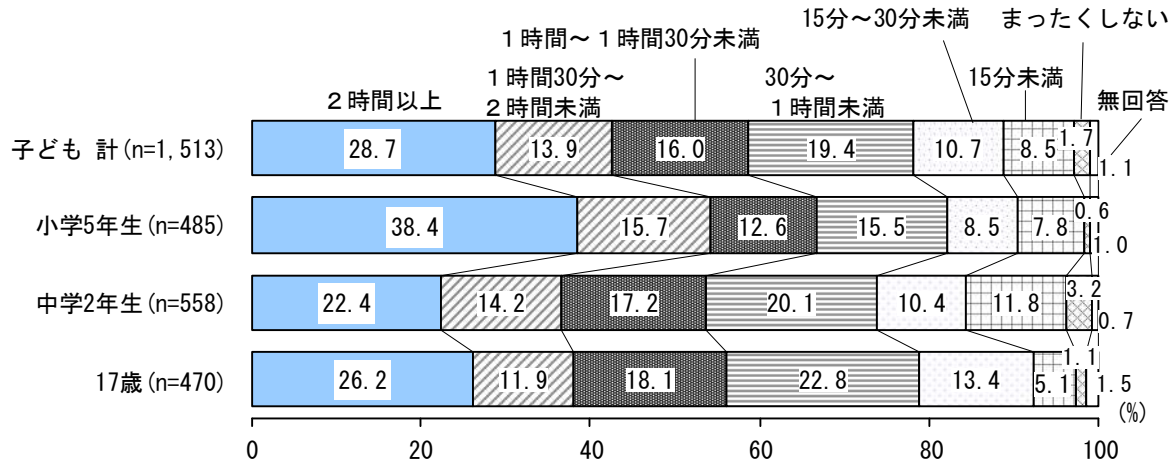
【図Ⅱ-2-2-③ 性別 部活や塾、習い事の内容〔17歳〕】



(3) 保護者との会話時間

問 あなたは、一日の中で、親（保護者）とどれくらい話をしますか。（○は1つだけ）

【図Ⅱ-2-3 保護者との会話時間】



保護者との会話時間については、「2時間以上」が28.7%で最も高く、次いで「30分～1時間未満」が19.4%、「1時間～1時間30分未満」が16.0%となっている。

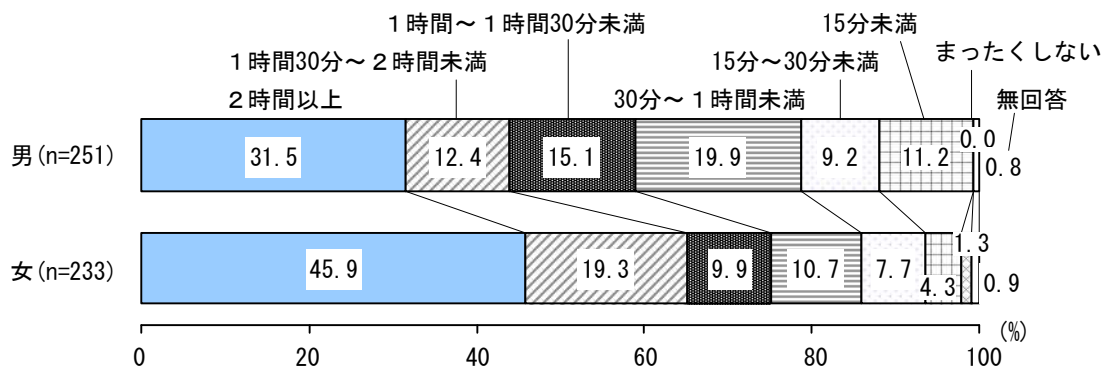
学年・年齢別でも、いずれも「2時間以上」が最も高く、小学5年生が38.4%、中学2年生が22.4%、17歳が26.2%となっている。一方、「まったくしない」「15分未満」は中学2年生が最も高くなっている。（図Ⅱ-2-3）

性別でみると、小学5年生は男女とも「2時間以上」が最も高く、男（31.5%）より女（45.9%）のほうが14.4ポイント高くなっている。（図Ⅱ-2-3-①）

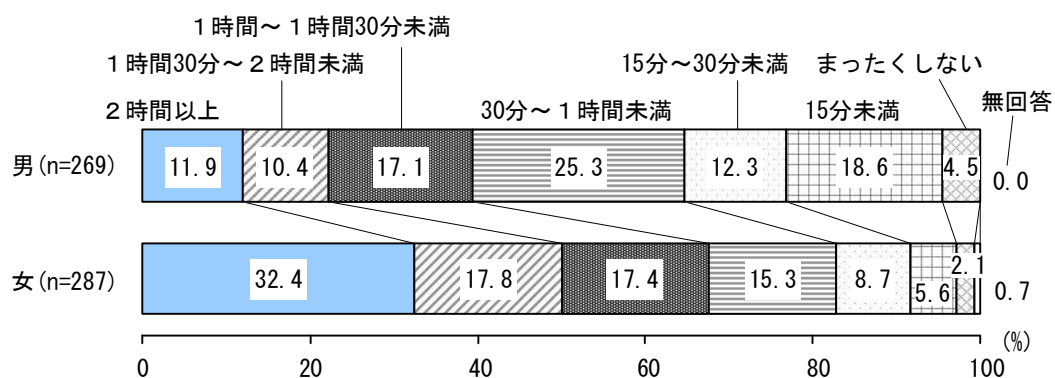
中学2年生は、男は「30分～1時間未満」が25.3%で最も高いが、女は「2時間以上」が32.4%で最も高くなっている。（図Ⅱ-2-3-②）

17歳は、男は「30分～1時間未満」が25.7%で最も高いが、女は「2時間以上」が33.0%で最も高くなっている。（図Ⅱ-2-3-③）

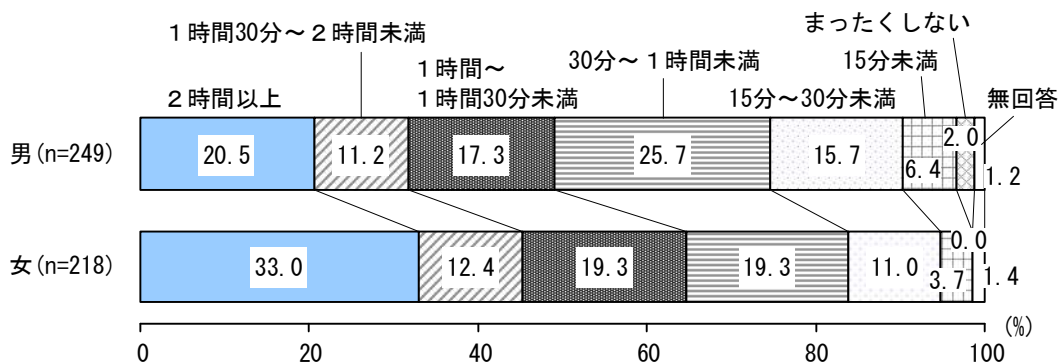
【図Ⅱ-2-3-① 性別 保護者との会話時間〔小学5年生〕】



【図Ⅱ-2-3-② 性別 保護者との会話時間〔中学２年生〕】



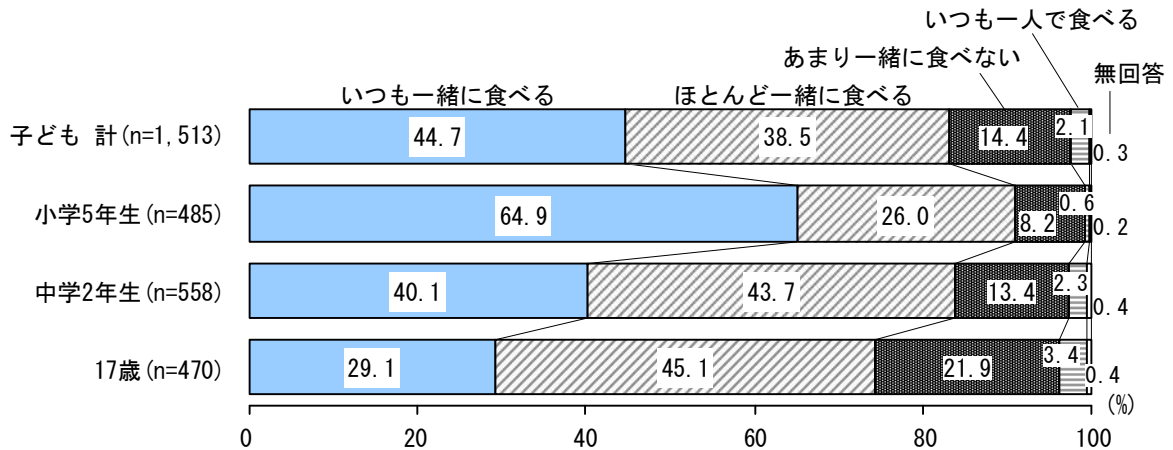
【図Ⅱ-2-3-③ 性別 保護者との会話時間〔17歳〕】



(4) 保護者との夕食の共食頻度

問 あなたは、親（保護者）と一緒に夕食を食べますか。（○は1つだけ）

【図Ⅱ-2-4 保護者との夕食の共食頻度】



保護者との夕食の共食頻度については、「いつも一緒に食べる」が44.7%で最も高く、次いで「ほとんど一緒に食べる」が38.5%であり、『一緒に食べる』（「いつも一緒に食べる」と「ほとんど一緒に食べる」をあわせた割合）は83.2%となっている。

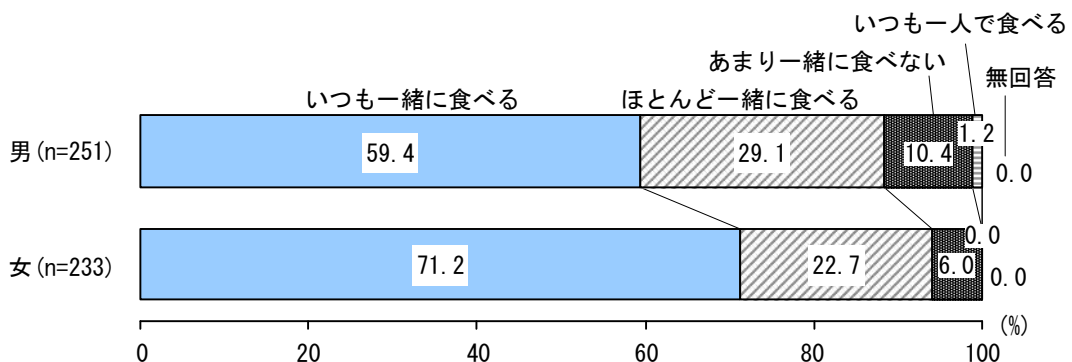
学年・年齢別でみると、小学5年生は「いつも一緒に食べる」が64.9%で最も高く、中学2年生と17歳は「ほとんど一緒に食べる」（中2：43.7%、17歳：45.1%）が最も高くなっている。『一緒に食べる』は小学5年生（90.9%）が最も高く、年齢が上がるにつれて割合が低くなっている。（図Ⅱ-2-4）

性別でみると、小学5年生は、男女とも「いつも一緒に食べる」が過半数を占めており、『一緒に食べる』は男（88.5%）より女（93.9%）のほうが5.4ポイント高くなっている。（図Ⅱ-2-4-①）

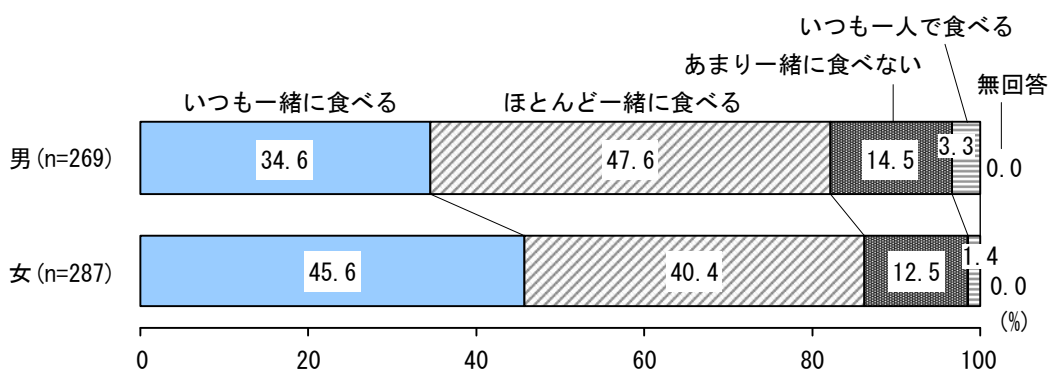
中学2年生は、男は「ほとんど一緒に食べる」（47.6%）が最も高いが、女は「いつも一緒に食べる」（45.6%）が高く、『一緒に食べる』は男（82.2%）より女（86.0%）のほうが3.8ポイント高くなっている。（図Ⅱ-2-4-②）

17歳は、男女とも「ほとんど一緒に食べる」（男：46.2%、女：44.5%）が最も高く、『一緒に食べる』は女（73.9%）より男（75.1%）のほうがやや高くなっている。（図Ⅱ-2-4-③）

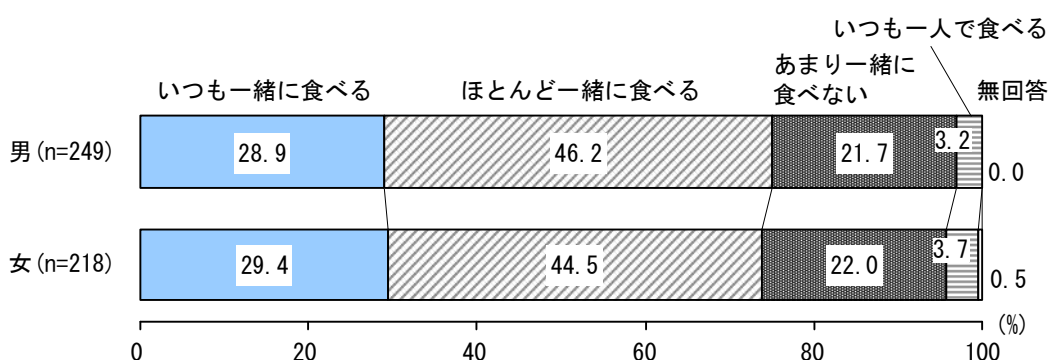
【図Ⅱ-2-4-① 性別 保護者との夕食の共食頻度〔小学5年生〕】



【図Ⅱ-2-4-② 性別 保護者との夕食の共食頻度〔中学2年生〕】



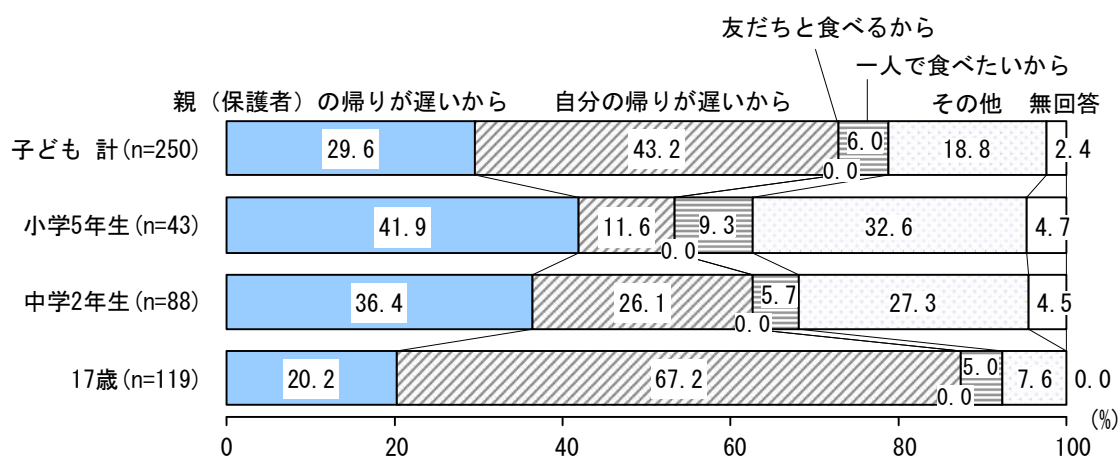
【図Ⅱ-2-4-③ 性別 保護者との夕食の共食頻度〔17歳〕】



(5) 保護者と一緒に食べない理由

問 その理由はなんですか。(主なもの1つだけに○)

【図Ⅱ-2-5 保護者と一緒に食べない理由】



夕食を保護者とあまり一緒に食べない、もしくはいつも一人で食べると回答した人にその理由をたずねると、「自分の帰りが遅いから」が43.2%で最も高く、次いで「親（保護者）の帰りが遅いから」が29.6%となっている。

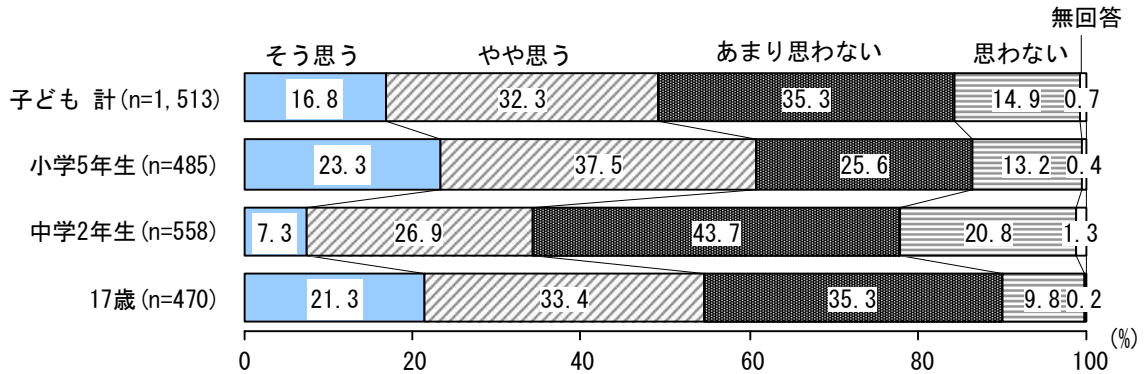
学年・年齢別でみると、小学5年生と中学2年生は「親（保護者）の帰りが遅いから」（小5：41.9%、中2：36.4%）が最も高いが、17歳は「自分の帰りが遅いから」が67.2%で過半数を占めている。（図Ⅱ-2-5）

(6) 自分や地域に対する意識

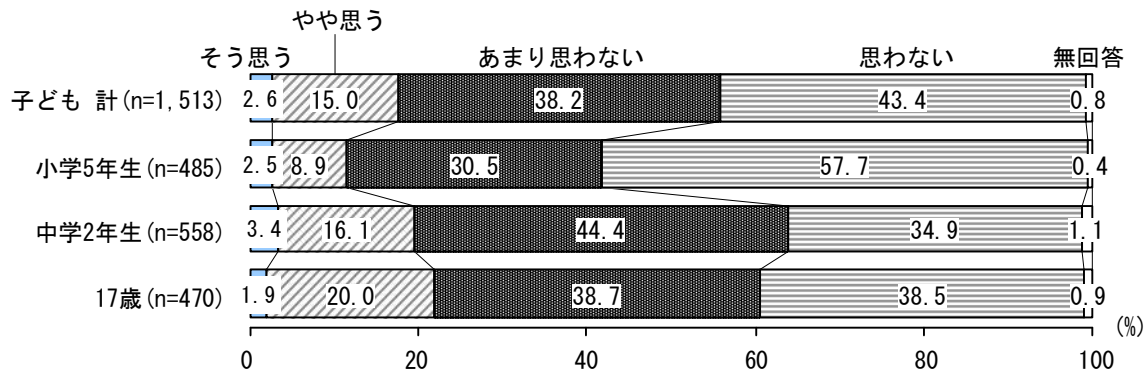
問 次の設問についてあなたはどのように思いますか。(設問ごとにあてはまるもの1つに○)

【図Ⅱ-2-6 自分や地域に対する意識①】

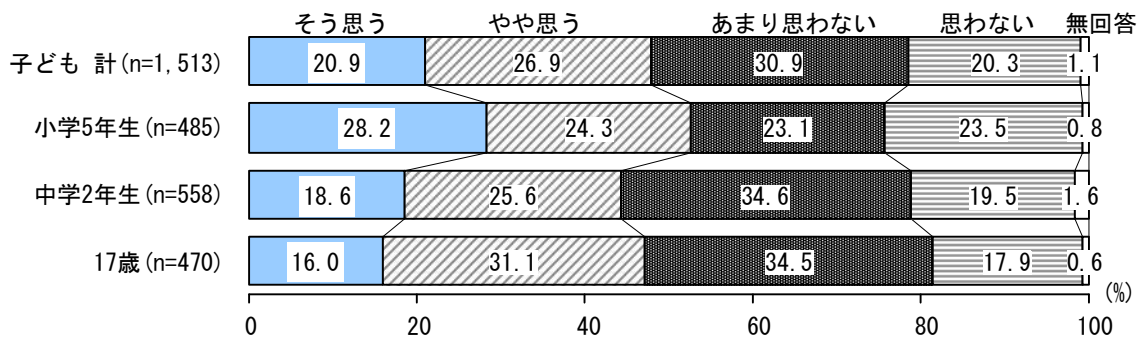
① 自分のことが好き



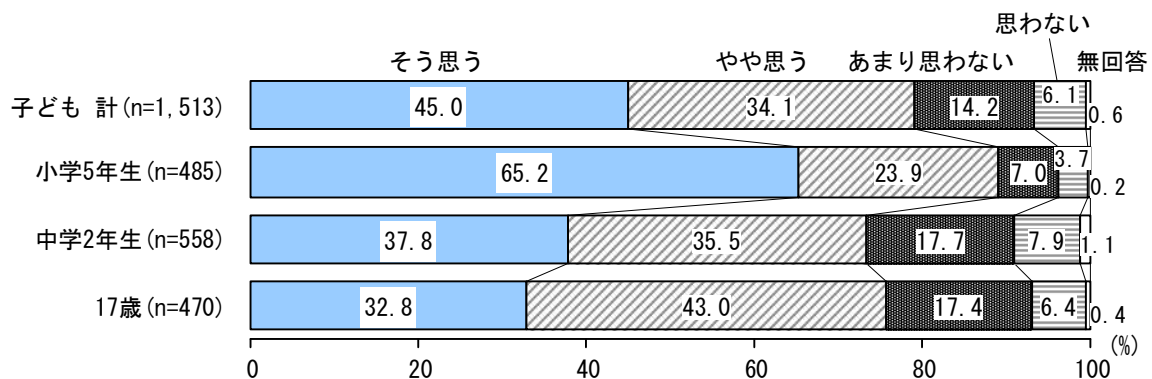
② 自分はひとりぼっちであると感じる



③ 自分たちの意見を聞いてくれる大人がほしい

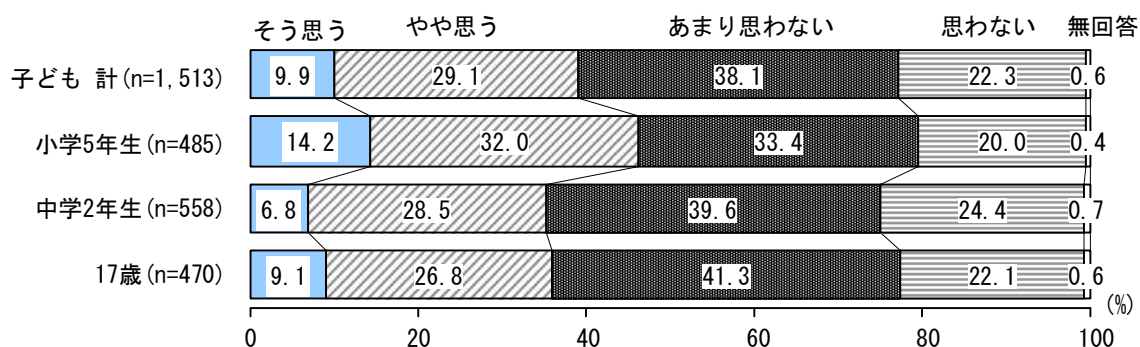


④ 自分の住んでいるまちが好き

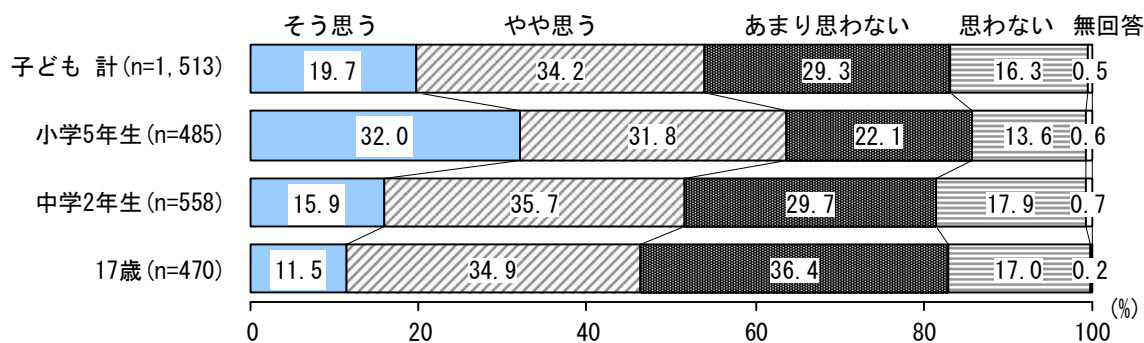


【図Ⅱ-2-6 自分や地域に対する意識②】

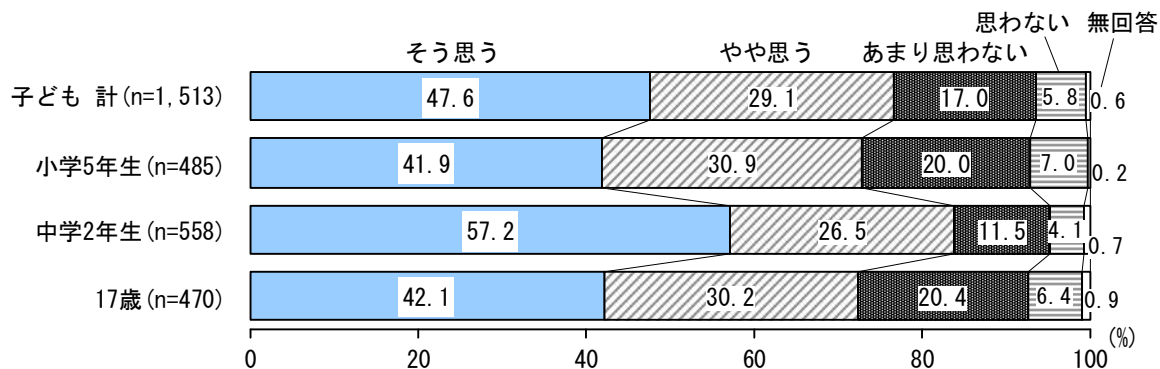
⑤ 地域の将来を考える機会があれば参加したい



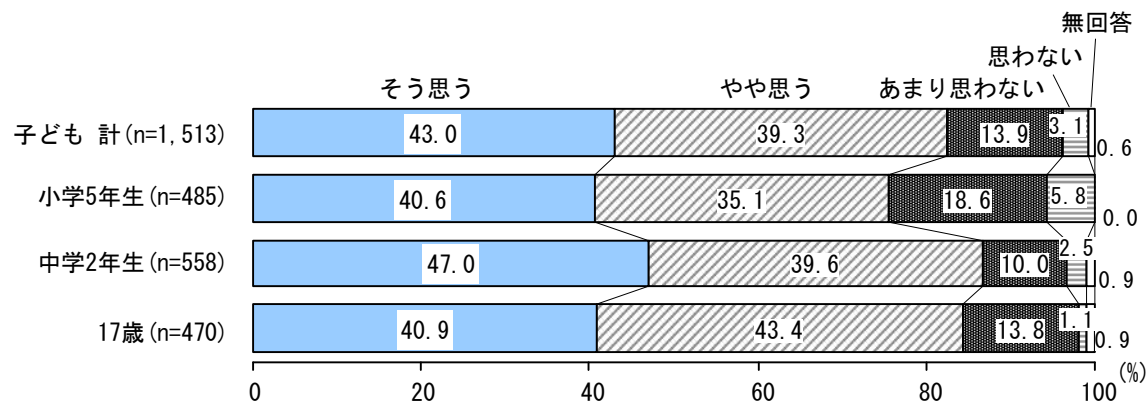
⑥ 将来もこのまちに住みたい



⑦ 塾や習い事よりも思いっきり遊ぶ自由な時間が欲しい

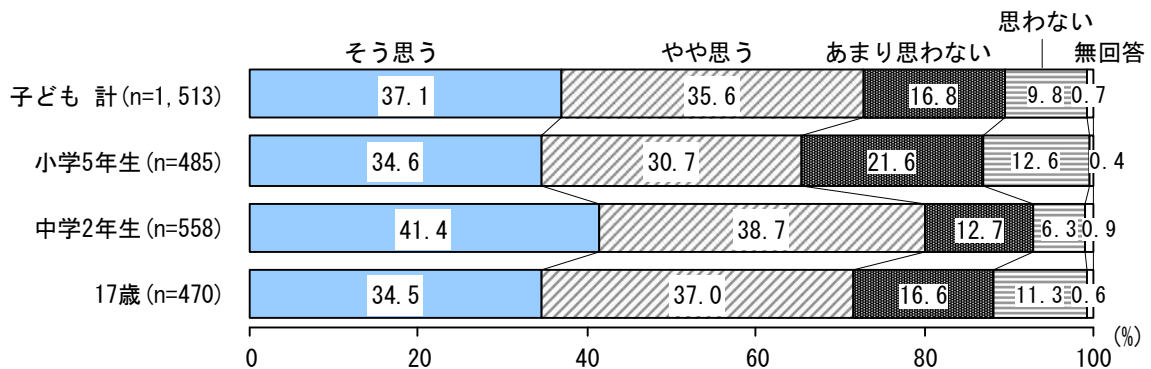


⑧ あれこれ大人から指図されるより自分らしく生きたい

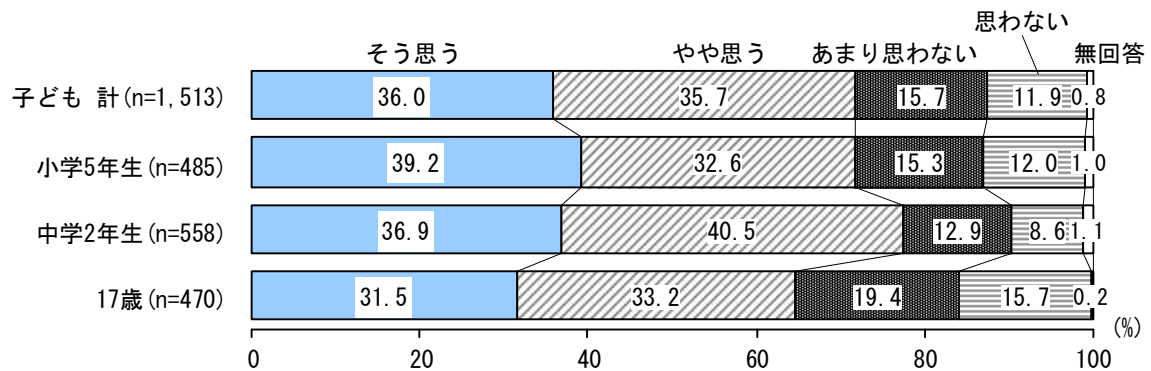


【図Ⅱ-2-6 自分や地域に対する意識③】

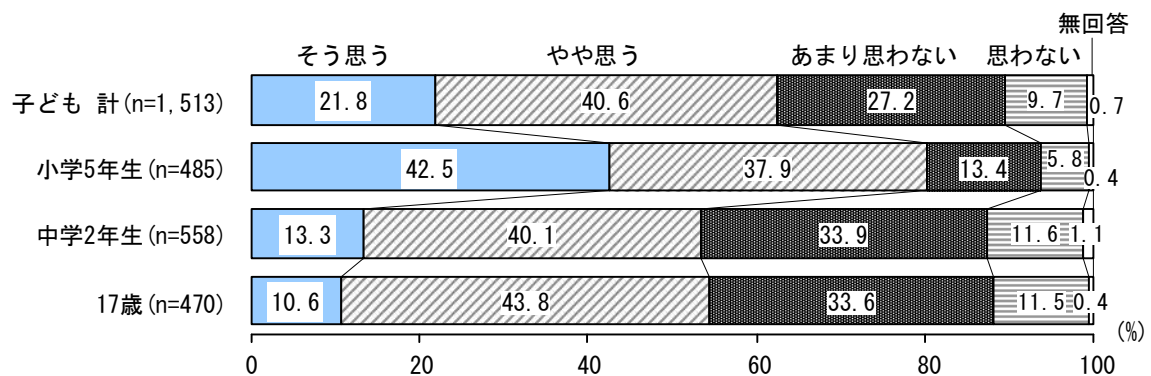
⑨ 今、受験に向けて勉強すれば将来が楽になる



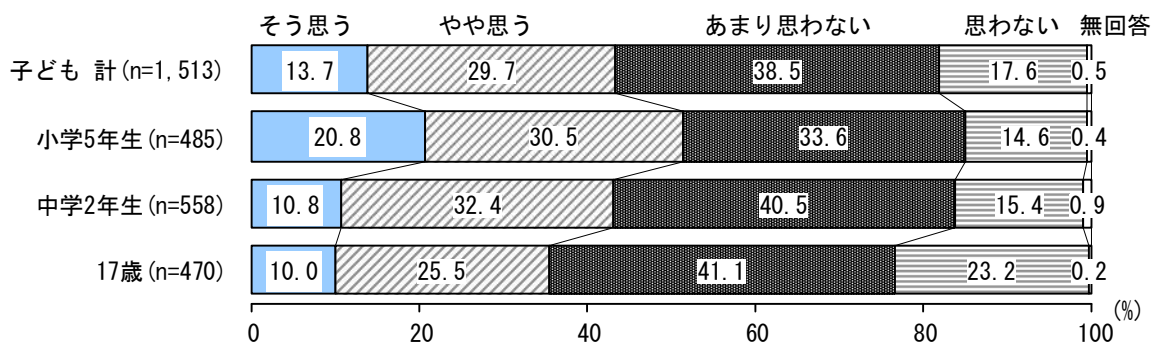
⑩ 学習塾での勉強は進学のために必要である



⑪ 自分たちは、地域によって犯罪から守られている

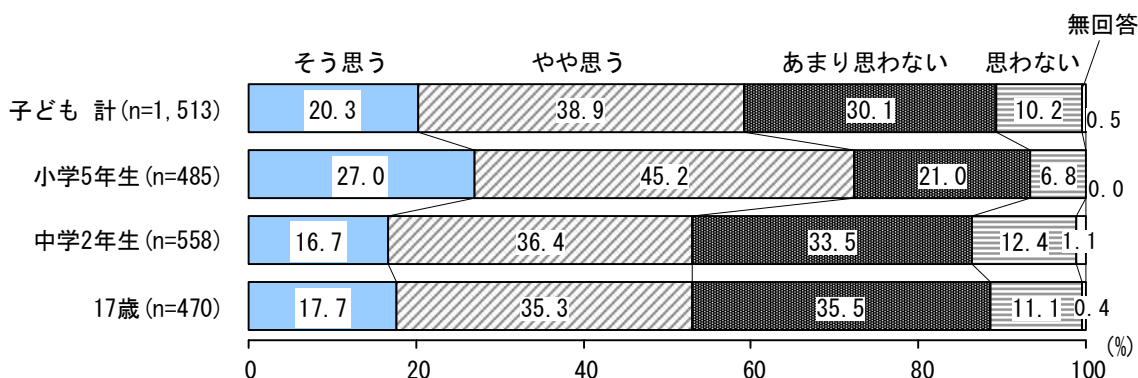


⑫ 通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない



【図Ⅱ-2-6 自分や地域に対する意識④】

⑬ 自分の地域は災害に対して安全である



自分や地域に対する意識についてたずねた。

“①自分のことが好き”については、「あまり思わない」が35.3%で最も高く、次いで「やや思う」が32.3%であり、「そう思う」と「やや思う」をあわせた肯定的意見は49.1%、否定的意見（「あまり思わない」と「思わない」をあわせた割合）は50.2%と拮抗している。

学年・年齢別でみると、小学5年生は「やや思う」が37.5%で最も高いが、中学2年生、17歳は「あまり思わない」（中2：43.7%、17歳：35.3%）が最も高くなっている。肯定的意見は、小学5年生が60.8%で最も高く、次いで17歳（54.7%）で、共に過半数を占めているが、中学2年生は否定的意見（64.5%）が過半数となっている。

“②自分はひとりぼっちであると感じる”については、「思わない」が43.4%で最も高く、否定的意見（81.6%）が8割強となっている。

学年・年齢別でみると、いずれも否定的意見の割合が高く、肯定的意見は年齢が上がるにつれて高くなり、17歳が21.9%で最も高くなっている。

“③自分たちの意見を聞いてくれる大人がほしい”については、「あまり思わない」が30.9%で最も高く、次いで「やや思う」が26.9%であり、否定的意見が51.2%となっている。

学年・年齢別でみると、小学5年生は「そう思う」（28.2%）が最も高いが、中学2年生、17歳は「あまり思わない」（中2：34.6%、17歳：34.5%）が最も高く、小学5年生は肯定的意見（52.5%）が、中学2年生、17歳は否定的意見（中2：54.1%、17歳：52.4%）のほうが高くなっている。

“④自分の住んでいるまちが好き”については、「そう思う」が45.0%で最も高く、次いで「やや思う」が34.1%であり、肯定的意見（79.1%）が約8割を占めている。

学年・年齢別でみると、小学5年生と中学2年生は「そう思う」（小5：65.2%、中2：37.8%）が、17歳は「やや思う」（43.0%）が最も高く、いずれも肯定的意見が7割以上を占めている。

“⑤地域の将来を考える機会があれば参加したい”については、「あまり思わない」が38.1%で最も高く、否定的意見が60.4%となっている。

学年・年齢別でみると、いずれも「あまり思わない」が3～4割台で最も高く、いずれも否定的意見のほうが高く5～6割を占めている。

“⑥将来もこのまちに住みたい”については、「やや思う」が34.2%で最も高く、次いで「あまり思わない」が29.3%であり、肯定的意見が53.9%となっている。

学年・年齢別でみると、小学5年生は「そう思う」(32.0%)が、中学2年生は「やや思う」(35.7%)が、17歳は「あまり思わない」(36.4%)が最も高く、肯定的意見は小学5年生が63.8%で最も高く、年齢が上がるにつれて低くなっている。

“⑦塾や習い事よりも思いっきり遊ぶ自由な時間が欲しい”については、「そう思う」が47.6%で最も高く、肯定的意見(76.7%)が約8割となっている。

学年・年齢別でみると、いずれも「そう思う」が4～5割を占め最も高く、肯定的意見は中学2年生が83.7%で最も高くなっている。

“⑧あれこれ大人から指図されるより自分らしく生きたい”については、「そう思う」が43.0%で最も高く、肯定的意見(82.3%)が8割強を占めている。

学年・年齢別でみると、小学5年生と中学2年生は「そう思う」(小5:40.6%、中2:47.0%)が、17歳は「やや思う」(43.4%)が最も高く、いずれも肯定的意見が8割前後と高くなっている。

“⑨今、受験に向けて勉強すれば将来が楽になる”については、「そう思う」が37.1%で最も高く、肯定的意見(72.7%)が7割強を占めている。

学年・年齢別でみると、小学5年生と中学2年生は「そう思う」(小5:34.6%、中2:41.4%)が、17歳は「やや思う」(37.0%)が最も高く、いずれも肯定的意見が過半数を占め、中学2年生で80.1%と高くなっている。

“⑩学習塾での勉強は進学のために必要である”については、「そう思う」が36.0%で最も高く、肯定的意見(71.7%)が約7割を占めている。

学年・年齢別でみると、小学5年生は「そう思う」(39.2%)が、中学2年生、17歳は「やや思う」(中2:40.5%、17歳:33.2%)が最も高く、いずれも肯定的意見が過半数を占め、中学2年生で77.4%と高くなっている。

“⑪自分たちは、地域によって犯罪から守られている”については、「やや思う」が40.6%で最も高く、肯定的意見(62.4%)が約6割を占めている。

学年・年齢別でみると、小学5年生は「そう思う」(42.5%)が、中学2年生、17歳は「やや思う」(中2:40.1%、17歳:43.8%)が最も高く、肯定的意見が小学5年生で80.4%と高くなっている。

“⑫通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない”については、「あまり思わない」が38.5%で最も高く、否定的意見(56.1%)が過半数を占める。

学年・年齢別でみると、いずれも「あまり思わない」が最も高く、小学5年生は肯定的意見(51.3%)のほうが高いが、中学2年生、17歳は否定的意見(中2:55.9%、17歳:64.3%)のほうが高く、肯定的意見は年齢が上がるにつれて割合が低くなっている。

“⑬自分の地域は災害に対して安全である”については、「やや思う」が38.9%で最も高く、肯定的意見が59.2%となっている。

学年・年齢別でみると、小学5年生と中学2年生は「やや思う」(小5:45.2%、中2:36.4%)が、17歳は「あまり思わない」(35.5%)が最も高く、肯定的意見は小学5年生で72.2%と高いが、中学2年生、17歳(中2:53.1%、17歳:53.0%)は約5割となっている。

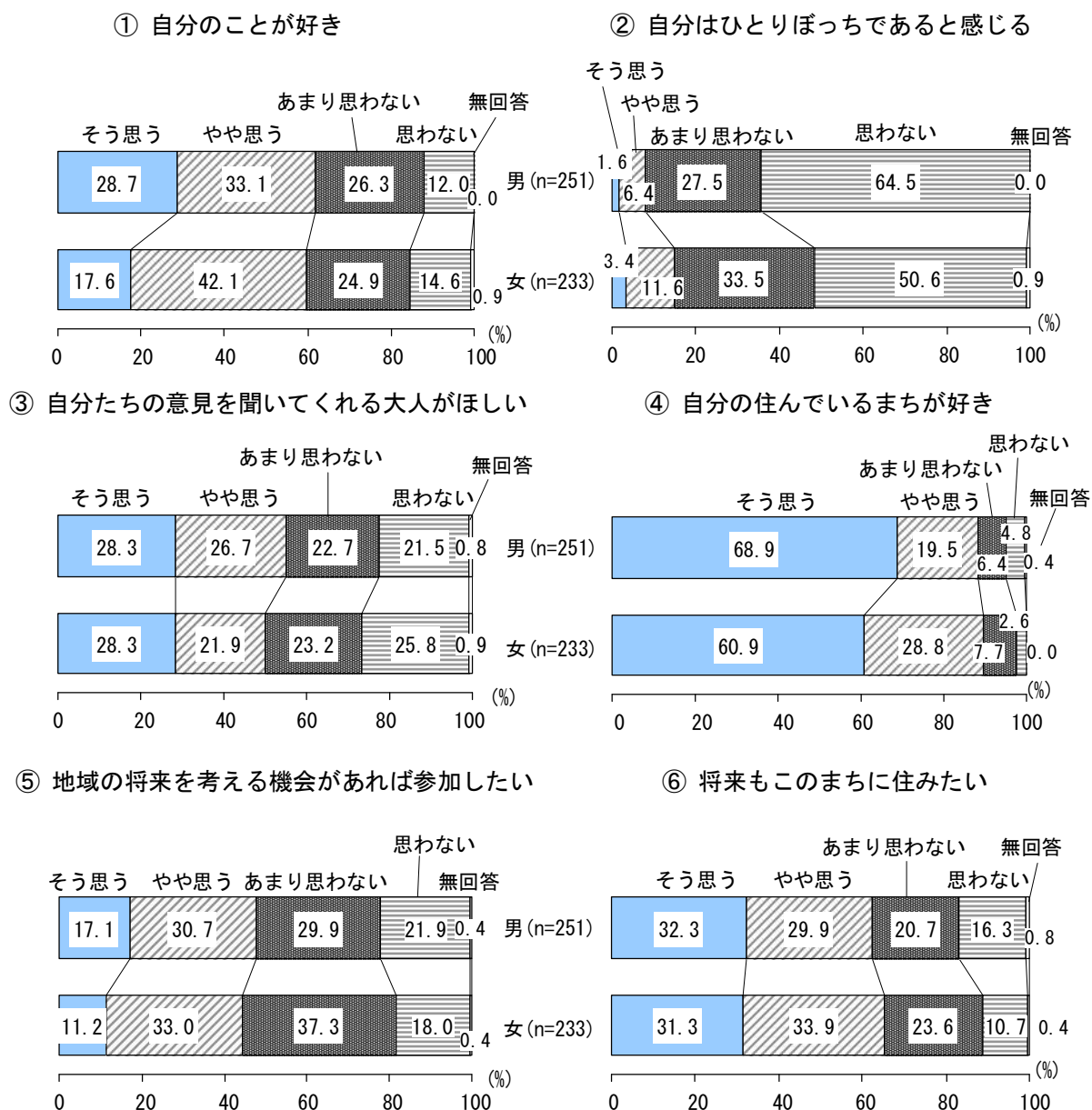
(図Ⅱ-2-6①～④)

性別でみると、小学5年生では、“⑦塾や習い事よりも思いっきり遊ぶ自由な時間が欲しい”と“⑫通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない”は、肯定的意見が女より男のほうが1割以上高くなっている。(図Ⅱ-2-6-①、①～②)

中学2年生では、どの項目も男女で大きな差は見られない。(図Ⅱ-2-6-②、①～②)

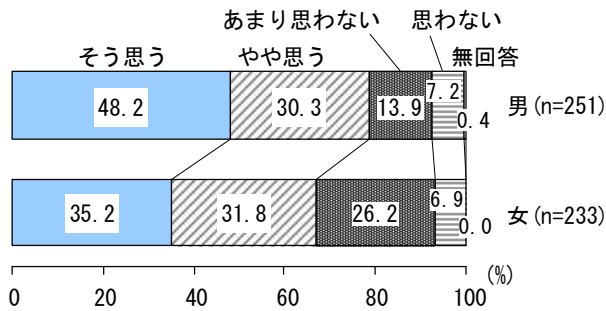
17歳は、“①自分のことが好き”と“⑫通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない”、“⑬自分の地域は災害に対して安全である”は、肯定的意見が女より男のほうが1割以上高くなっている。(図Ⅱ-2-6-③、①～②)

【図Ⅱ-2-6-① 性別 自分や地域に対する意識①〔小学5年生〕】

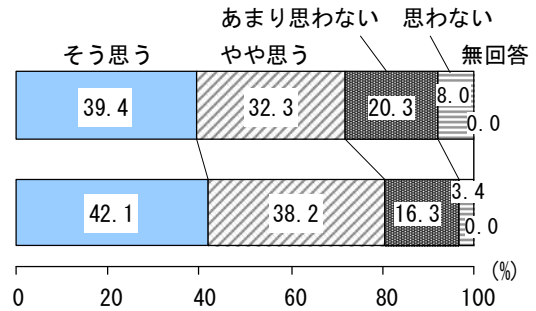


【図Ⅱ-2-6-① 性別 自分や地域に対する意識②〔小学5年生〕】

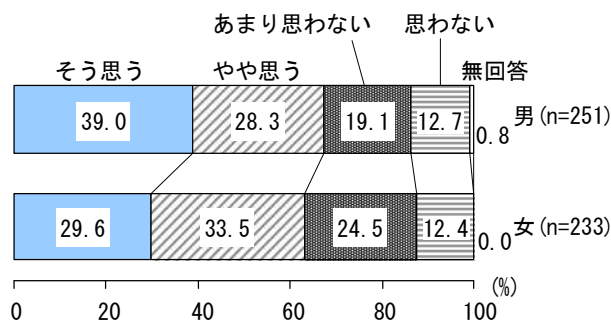
⑦ 塾や習い事よりも思いっきり遊ぶ自由な時間が欲しい



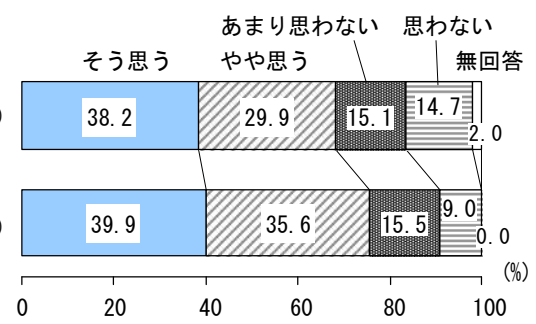
⑧ あれこれ大人から指図されるより自分らしく生きたい



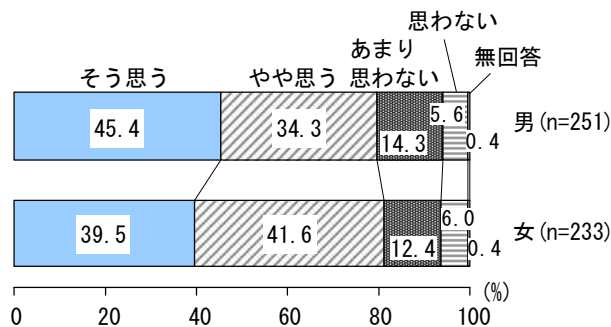
⑨ 今、受験に向けて勉強すれば将来が楽になる



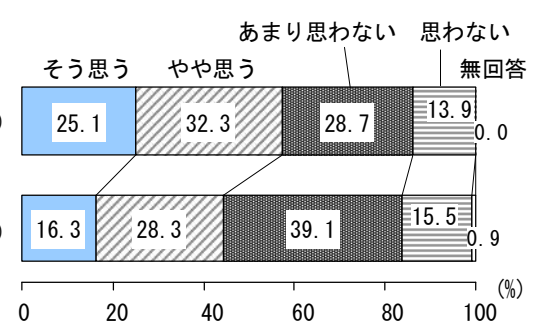
⑩ 学習塾での勉強は進学のために必要である



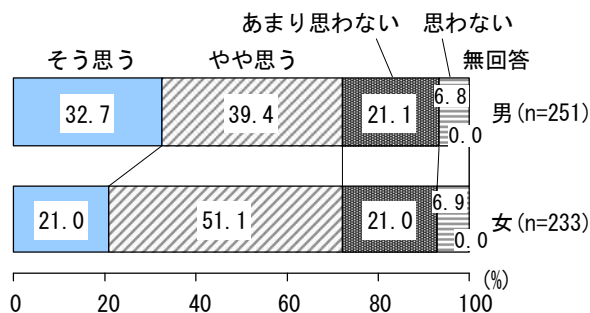
⑪ 自分たちは、地域によって犯罪から守られている



⑫ 通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない

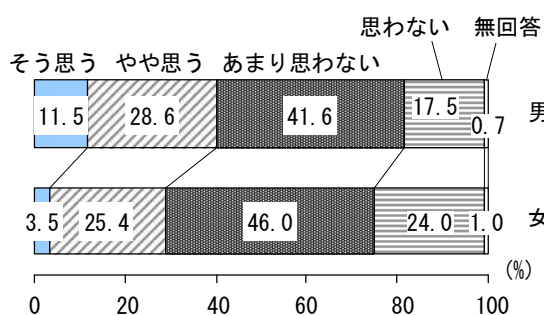


⑬ 自分の地域は災害に対して安全である

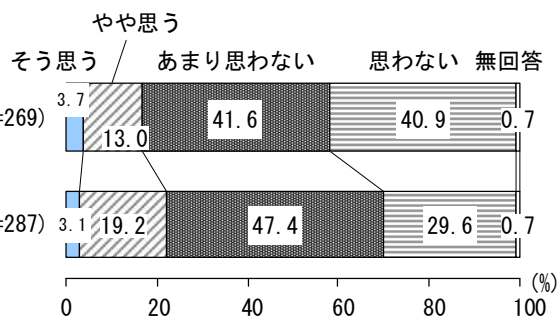


【図Ⅱ-2-6-② 性別 自分や地域に対する意識①〔中学2年生〕】

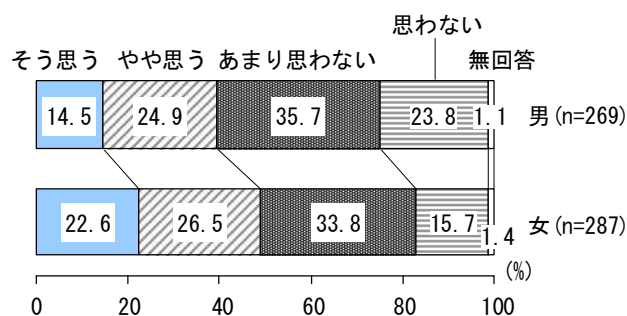
① 自分のことが好き



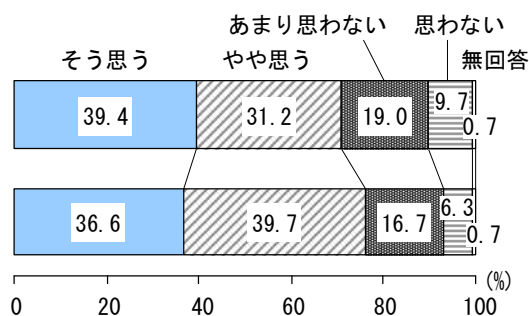
② 自分はひとりぼっちであると感じる



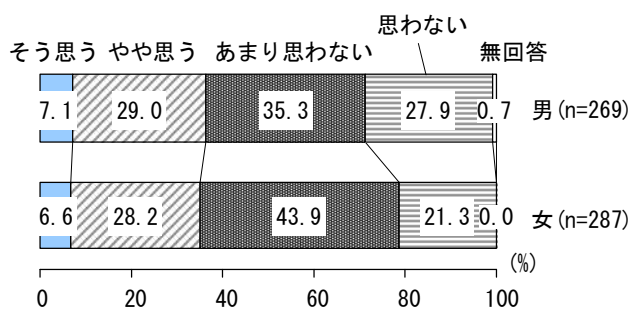
③ 自分たちの意見を聞いてくれる大人がほしい



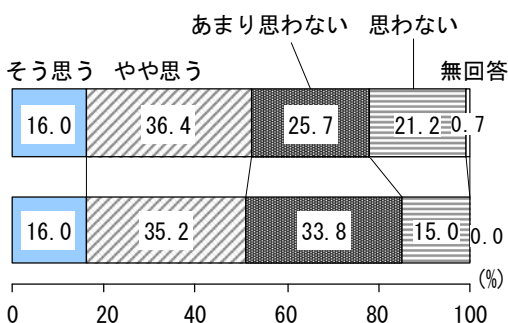
④ 自分の住んでいるまちが好き



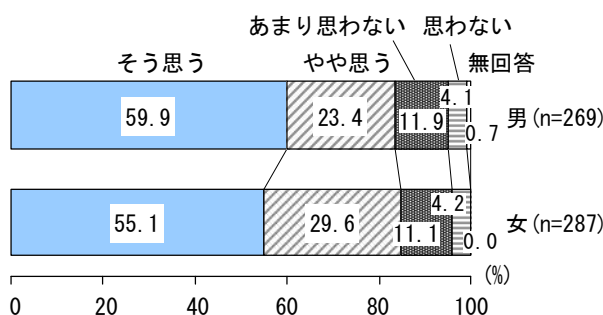
⑤ 地域の将来を考える機会があれば参加したい



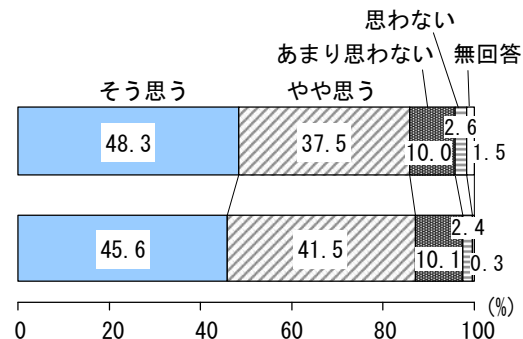
⑥ 将来もこのまちに住みたい



⑦ 塾や習い事よりも思いっきり遊ぶ自由な時間が欲しい



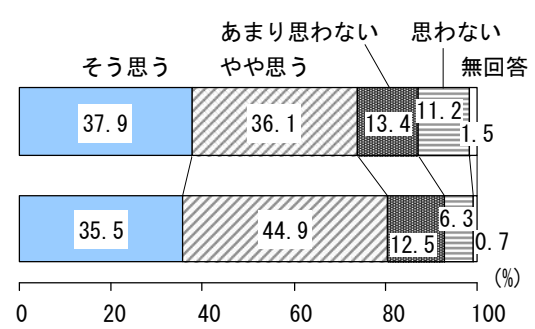
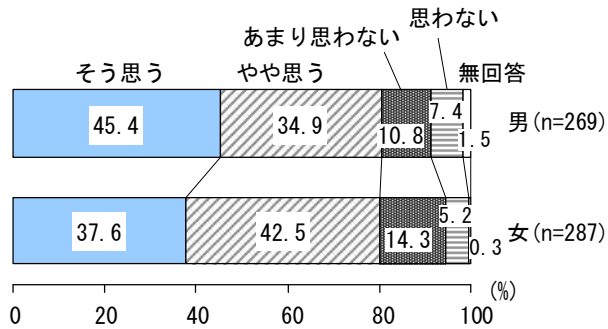
⑧ あれこれ大人から指図されるより自分らしく生きたい



【図Ⅱ-2-6-② 性別 自分や地域に対する意識②〔中学2年生〕】

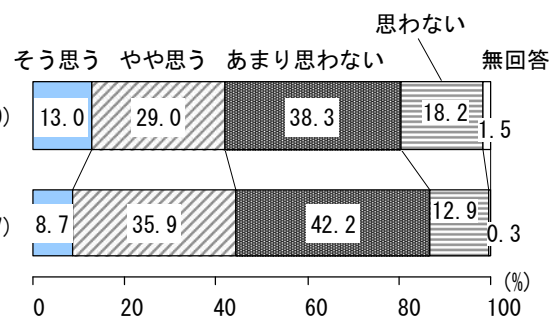
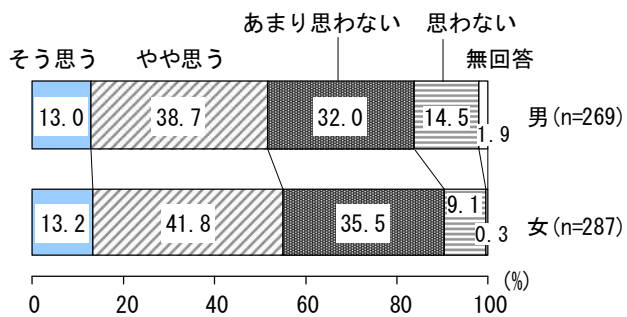
⑨ 今、受験に向けて勉強すれば将来が楽になる

⑩ 学習塾での勉強は進学のために必要である

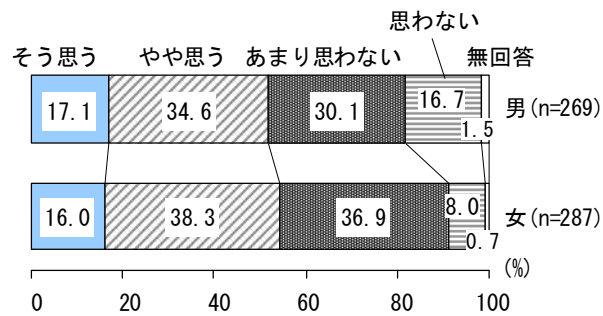


⑪ 自分たちは、地域によって犯罪から守られている

⑫ 通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない

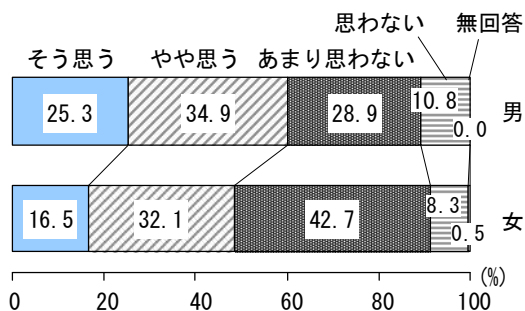


⑬ 自分の地域は災害に対して安全である

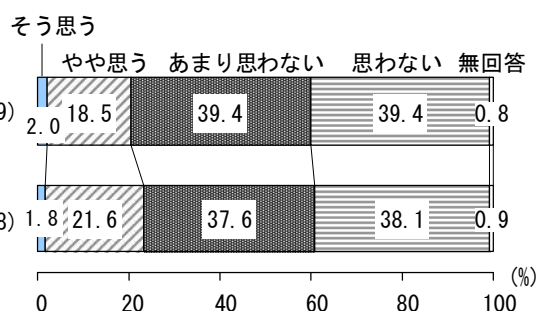


【図Ⅱ-2-6-③ 性別 自分や地域に対する意識①〔17歳〕】

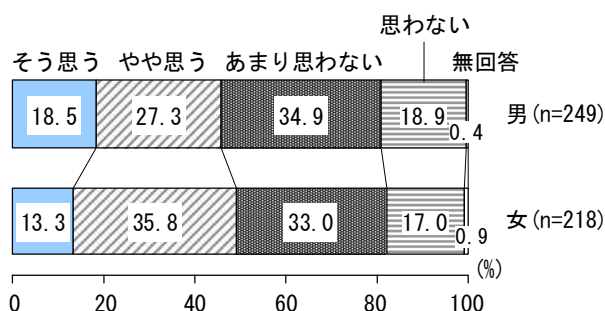
① 自分のことが好き



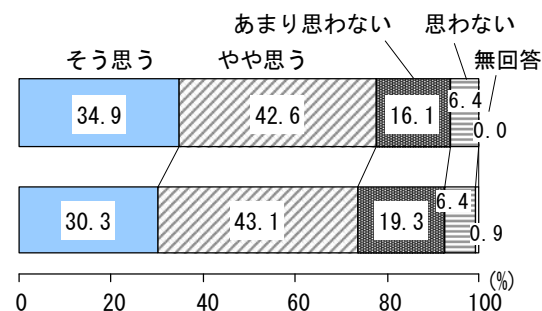
② 自分はひとりぼっちであると感じる



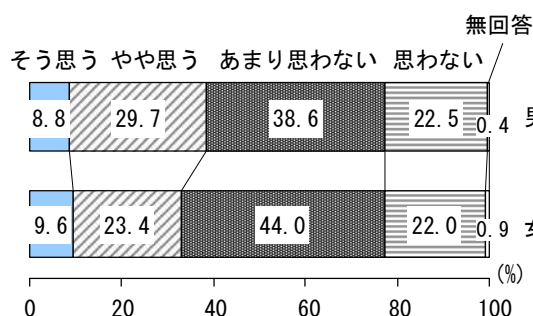
③ 自分たちの意見を聞いてくれる大人がほしい



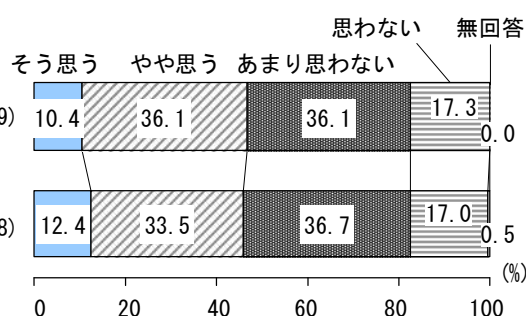
④ 自分の住んでいるまちが好き



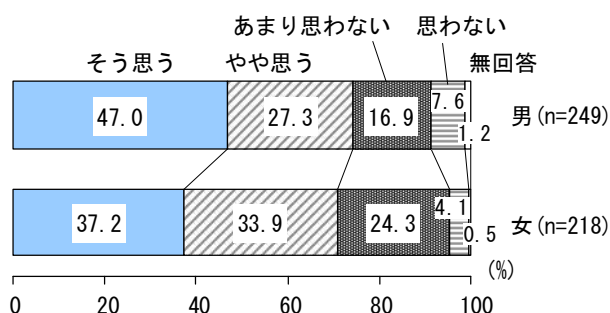
⑤ 地域の将来を考える機会があれば参加したい



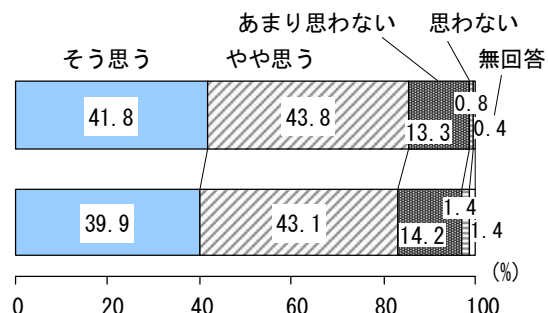
⑥ 将来もこのまちに住みたい



⑦ 塾や習い事よりも思いっきり遊ぶ自由な時間が欲しい



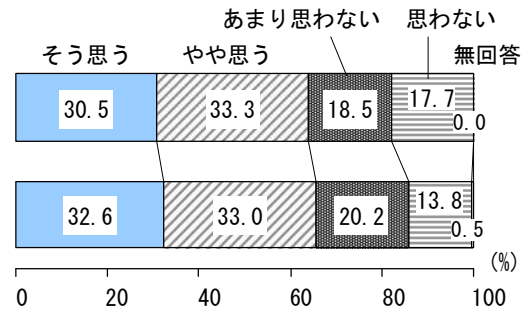
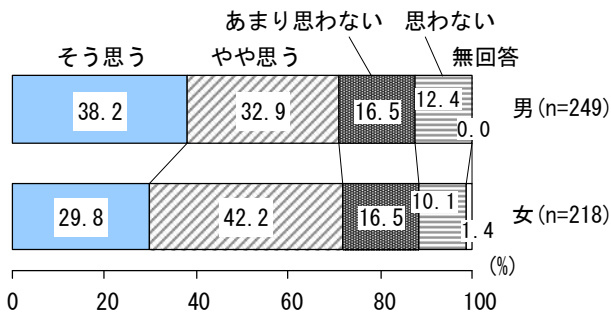
⑧ あれこれ大人から指図されるより自分らしく生きたい



【図Ⅱ-2-6-③ 性別 自分や地域に対する意識②〔17歳〕】

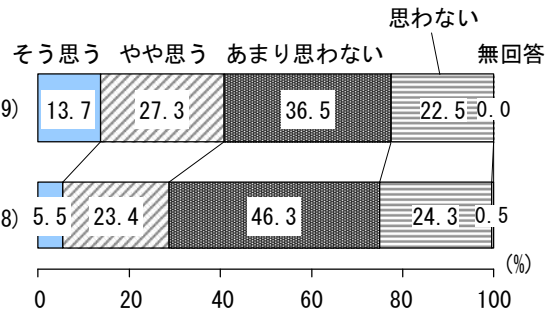
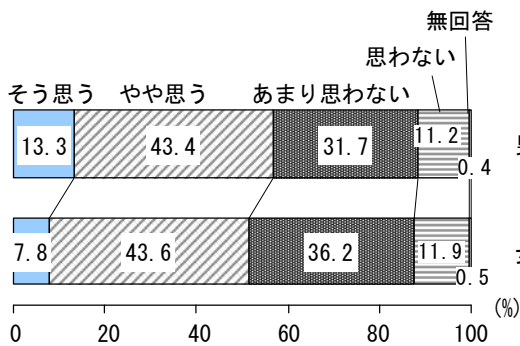
⑨ 今、受験に向けて勉強すれば将来が楽になる

⑩ 学習塾での勉強は進学のために必要である

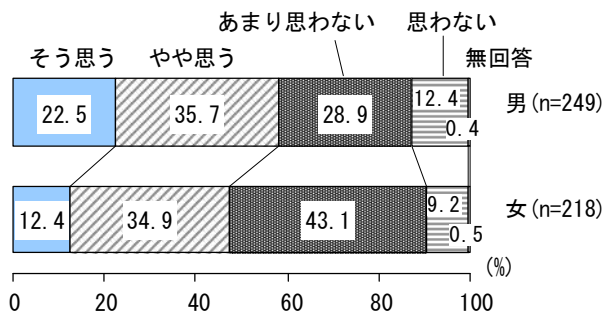


⑪ 自分たちは、地域によって犯罪から守られている

⑫ 通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない



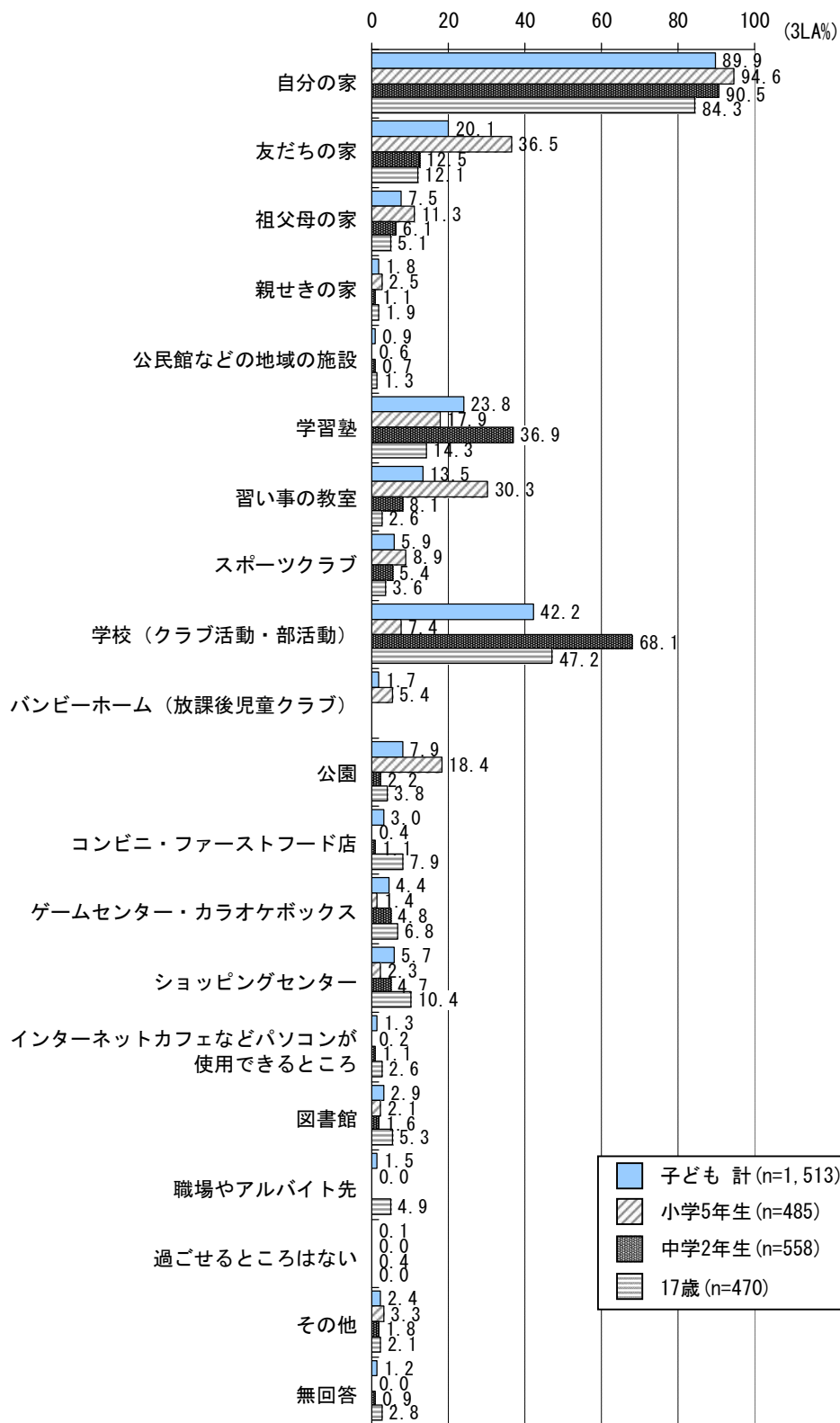
⑬ 自分の地域は災害に対して安全である



(7) 過ごす場所

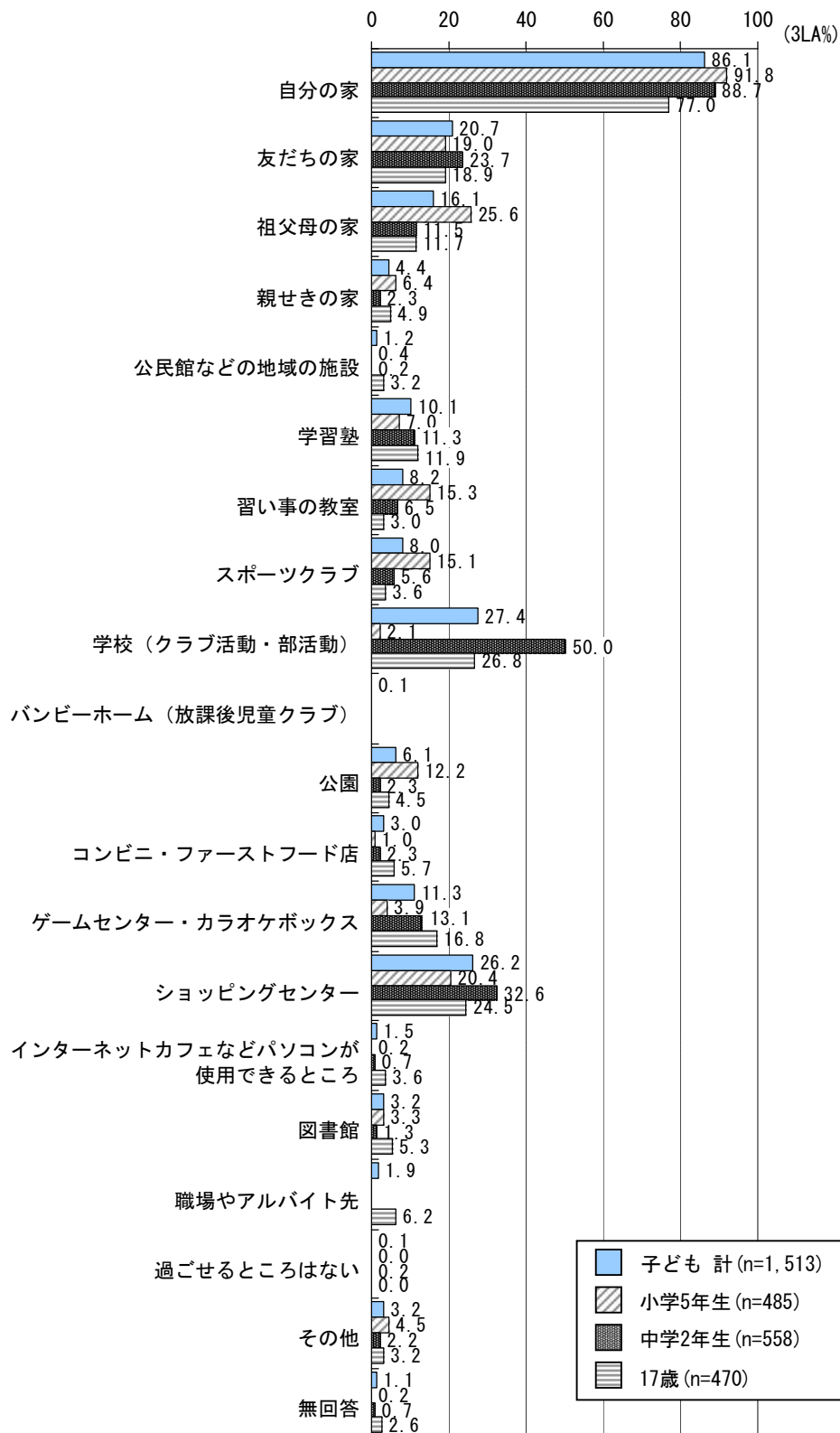
問 あなたが、平日の放課後（自由な時間）や休日の日中過ごす場所、そしてホッとする場所はどこですか。それぞれについて、主なものの番号に3つまで○をつけてください。（それぞれ○は3つまで）

【図Ⅱ-2-7-1 平日の放課後・自由な時間に過ごす場所】

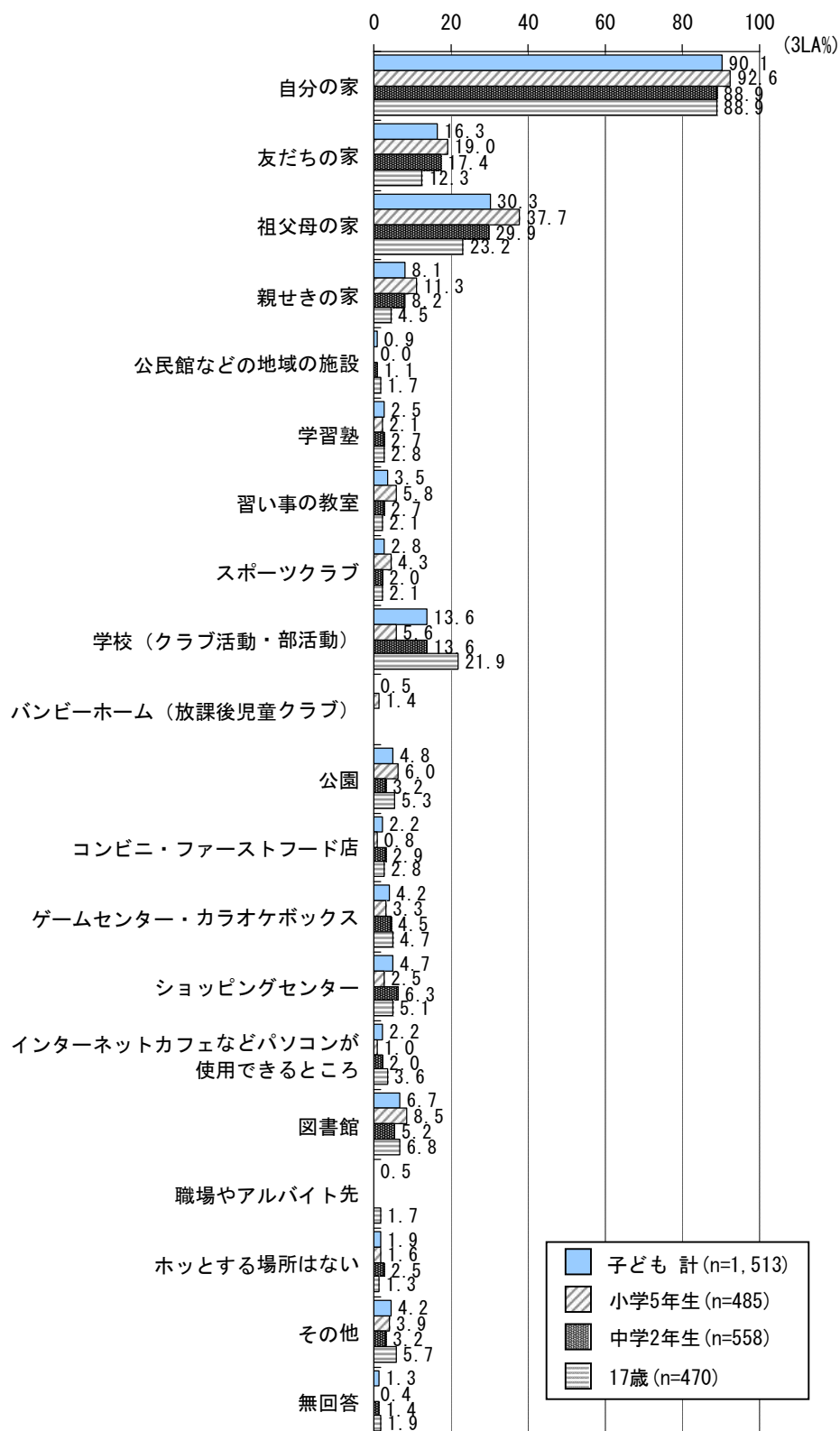


※小学5年生は「職場やアルバイト先」、中学2年生は「バンビーホーム（放課後児童クラブ）」「職場やアルバイト先」、17歳は「バンビーホーム（放課後児童クラブ）」の選択肢はなし。

【図Ⅱ-2-7-2 休日の日中過ごす場所】



【図Ⅱ-2-7-3 ホットとする場所】



平日の放課後（自由な時間）や休日の日中に過ごす場所やホッとする場所についてたずねた。

平日の放課後（自由な時間）については、「自分の家」が89.9%で最も高く、次いで「学校（クラブ活動・部活動）」が42.2%となっている。

学年・年齢別でみると、いずれも「自分の家」が最も高く、8～9割を占めており、小学5年生が94.6%で最も高くなっている。次いで小学5年生は「友だちの家」が36.5%、「習い事の教室」が30.3%となっている。中学2年生と17歳は「学校（クラブ活動・部活動）」（中2：68.1%、17歳：47.2%）、「学習塾」（中2：36.9%、17歳：14.3%）となっている。（図Ⅱ-2-7-1）

休日の日中過ごす場所については、「自分の家」が86.1%で最も高く、次いで「学校（クラブ活動・部活動）」が27.4%となっている。

学年・年齢別でみると、いずれも「自分の家」が最も高く、7～9割を占めており、小学5年生が91.8%で最も高くなっている。次いで小学5年生は「祖父母の家」が25.6%、「ショッピングセンター」が20.4%となっている。中学2年生と17歳は「学校（クラブ活動・部活動）」（中2：50.0%、17歳：26.8%）、「ショッピングセンター」（中2：32.6%、17歳：24.5%）となっている。（図Ⅱ-2-7-2）

ホッとする場所については、「自分の家」が90.1%で最も高く、次いで「祖父母の家」が30.3%となっている。

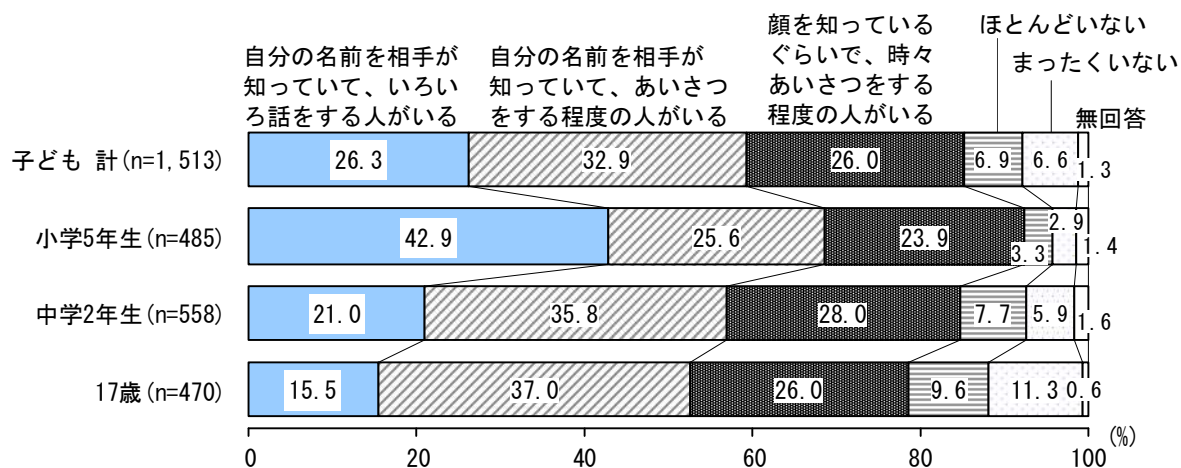
学年・年齢別でみると、いずれも「自分の家」が最も高く、9割前後を占めており、小学5年生が92.6%で最も高くなっている。次いでいずれも「祖父母の家」となっており、小学5年生、中学2年生は「友だちの家」、17歳は「学校（クラブ活動・部活動）」がさらに続いている。また、「自分の家」「友だちの家」「祖父母の家」「親せきの家」はいずれも小学5年生が最も高く、年齢が上がるにつれて、割合が低くなっている。（図Ⅱ-2-7-3）

3. 地域での生活状況

(1) 近所の大人で会話をする人の有無

問 近所の大人で話をしたりする人はいますか。(最もあてはまるものに○は1つだけ)

【図Ⅱ-3-1 近所で会話をする大人の有無】



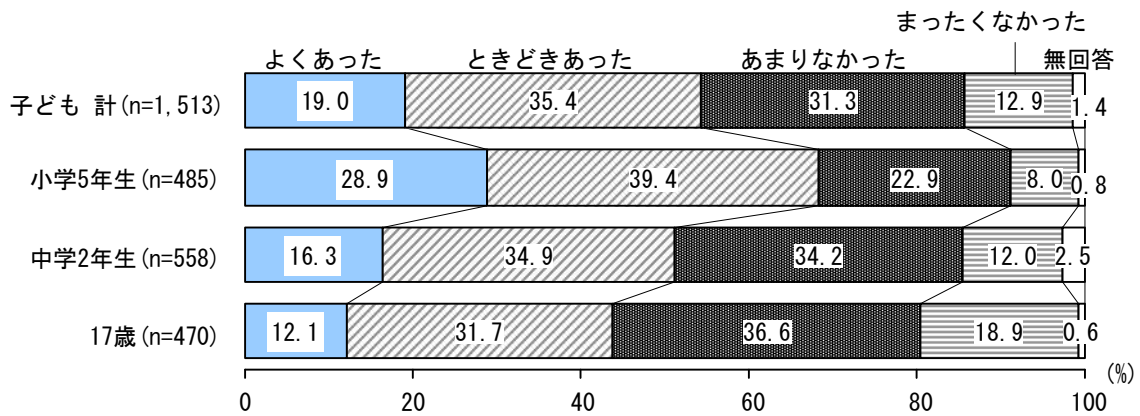
近所の大人で会話をする人の有無については、「自分の名前を相手が知っていて、あいさつをする程度の人がある」が32.9%で最も高く、次いで「自分の名前を相手が知っていて、いろいろ話をする人がいる」が26.3%、「顔を知っているぐらいで、時々あいさつをする程度の人がある」が26.0%となっている。

学年・年齢別でみると、小学5年生は「自分の名前を相手が知っていて、いろいろ話をする人がいる」が42.9%で最も高く、中学2年生と17歳は「自分の名前を相手が知っていて、あいさつをする程度の人がある」(中2:35.8%、17歳:37.0%)が最も高くなっている。一方、「ほとんどいない」と「まったくいない」をあわせた『いない』は年齢が上がるにつれて割合が高くなり、17歳(20.9%)が最も高くなっている。(図Ⅱ-3-1)

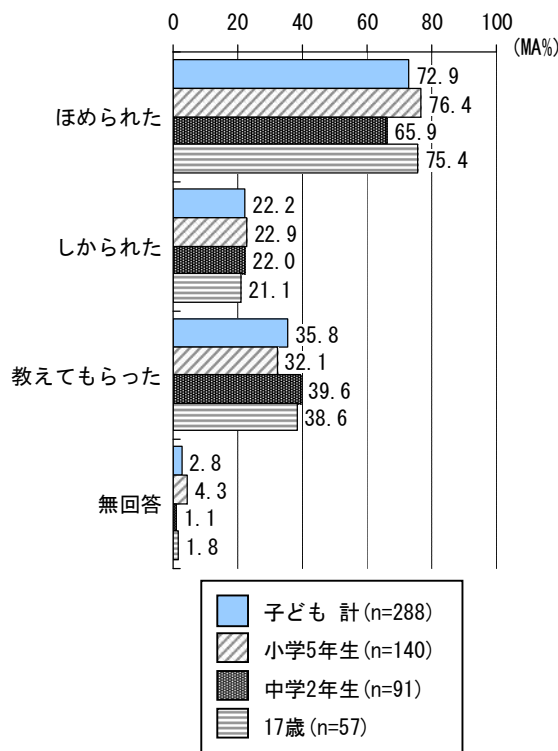
(2) 近所の大人からほめられたりしかられたり等をした経験の有無

問 これまで、地域（近所）の大人からほめられたり、しかられたり、何か教えてもらったりしたことはありましたか。（あてはまるものに○）「1. よくあった」または「2. ときどきあった」に○を付けた場合は、ア～ウのあてはまるものにも○を付けてください。

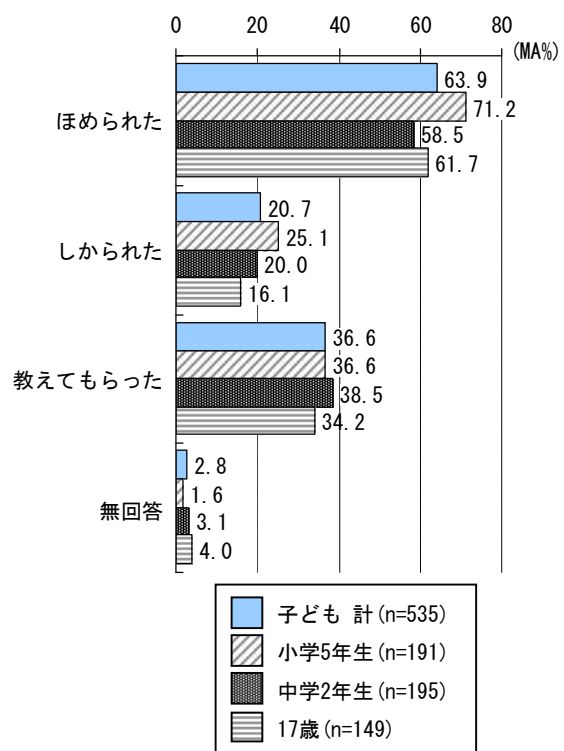
【図Ⅱ-3-2 近所の大人からほめられたりしかられたり等をした経験の有無】



【図Ⅱ-3-2-1 よくあった内容】



【図Ⅱ-3-2-2 ときどきあった内容】



近所の大人からほめられたりしかられたり等をした経験の有無については、「ときどきあった」が35.4%で最も高く、次いで「あまりなかった」が31.3%であり、「よくあった」と「ときどきあった」をあわせた『あった』は54.4%となっている。

学年・年齢別でみると、小学5年生と中学2年生は「ときどきあった」（小5：39.4%、中2：34.9%）が最も高いが、17歳は「あまりなかった」（36.6%）が最も高くなっている。

Ⅲ-1 子ども調査の結果

『あった』は小学5年生が68.3%で最も高く、年齢が上がるにつれて、割合が低くなっている。(図Ⅱ-3-2)

「よくあった」と回答した人に、その内容をたずねると、「ほめられた」が72.9%で最も高く、次いで「教えてもらった」が35.8%となっている。

学年・年齢別でも、いずれも「ほめられた」が7割前後を占め最も高く、小学5年生(76.4%)が最も高くなっている。次いでいずれも「教えてもらった」となっており、中学2年生(39.6%)が最も高くなっている。(図Ⅱ-3-2-1)

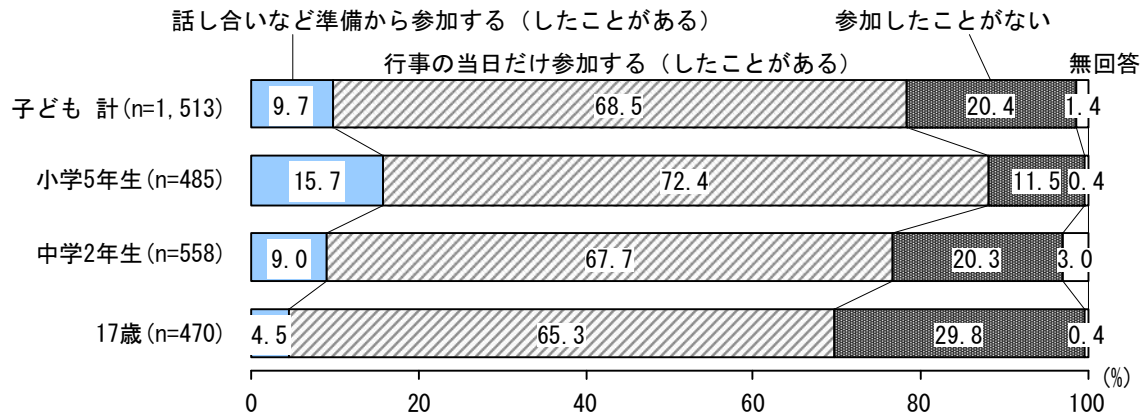
「ときどきあった」と回答した人に、その内容をたずねると、「ほめられた」が63.9%で最も高く、次いで「教えてもらった」が36.6%となっている。

学年・年齢別でも、いずれも「ほめられた」が最も高く、小学5年生(71.2%)が最も高くなっている。次いでいずれも「教えてもらった」となっており、中学2年生(38.5%)が最も高くなっている。(図Ⅱ-3-2-2)

(3) 祭りやイベント等への参加状況

問 あなたはお祭りや地域の清掃活動、イベントなどの行事に参加していますか。(○は1つだけ)

【図Ⅱ-3-3 祭りやイベント等への参加状況】



祭りやイベント等への参加状況については、「行事の当日だけ参加する(したことがある)」が68.5%で最も高く、次いで「参加したことがない」が20.4%となっている。

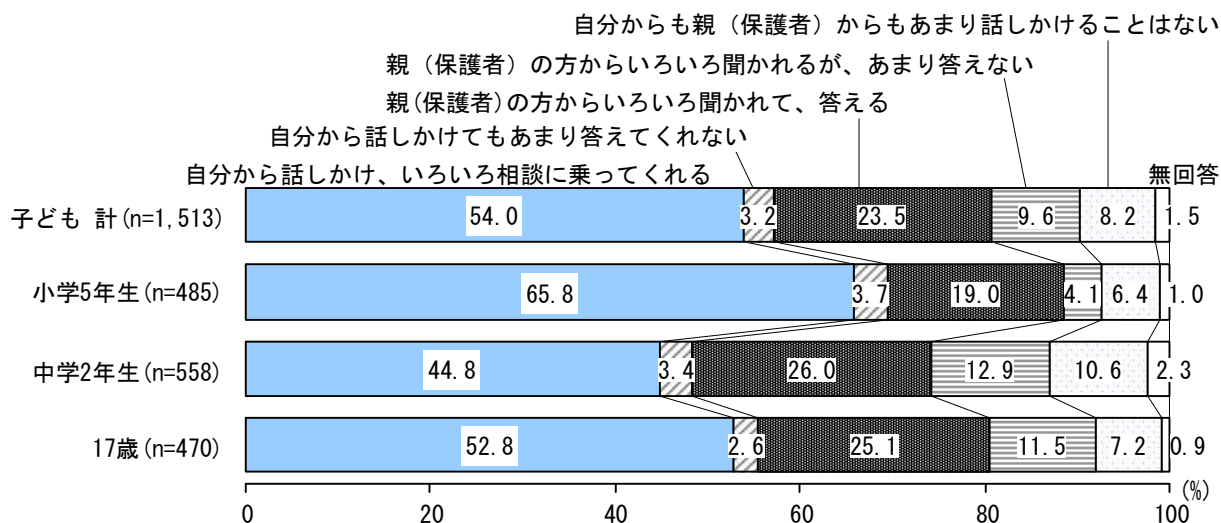
学年・年齢別でみると、いずれも「行事の当日だけ参加する(したことがある)」が7割前後で最も高く、小学5年生が72.4%で最も高くなっている。一方、「参加したことがない」は年齢が上がるにつれて高くなり、17歳で29.8%と最も高くなっている。(図Ⅱ-3-3)

4. 相談について

(1) 保護者への相談状況

問 あなたは、親（保護者）にいろいろ疑問や気になることなどを相談しますか。また、親（保護者）は相談に乗ってくれますか。（○は1つだけ）

【図Ⅱ-4-1 保護者への相談状況】



保護者への相談状況については、「自分から話しかけ、いろいろ相談に乗ってくれる」が54.0%で最も高く、次いで「親（保護者）の方からいろいろ聞かれて、答える」が23.5%となっている。

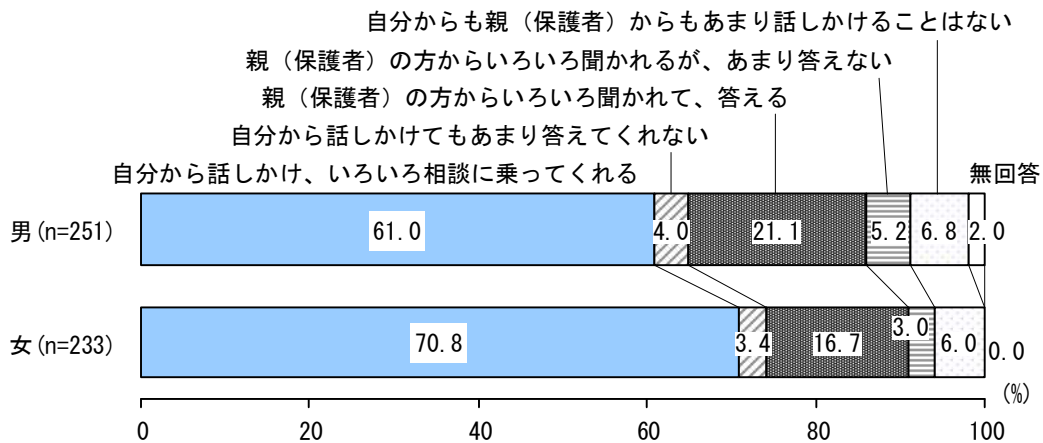
学年・年齢別でみると、いずれも「自分から話しかけ、いろいろ相談に乗ってくれる」が最も高く、小学5年生（65.8%）と17歳（52.8%）で過半数を占めている。また、「親（保護者）の方からいろいろ聞かれて、答える」（26.0%）や「親（保護者）の方からいろいろ聞かれるが、あまり答えない」（12.9%）、「自分からも親（保護者）からもあまり話しかけることはない」（10.6%）はいずれも中学2年生が最も高くなっている。（図Ⅱ-4-1）

性別でみると、小学5年生は、男女とも「自分から話しかけ、いろいろ相談に乗ってくれる」が最も高く、男（61.0%）より女（70.8%）のほうが9.8ポイント高くなっている。（図Ⅱ-4-1-①）

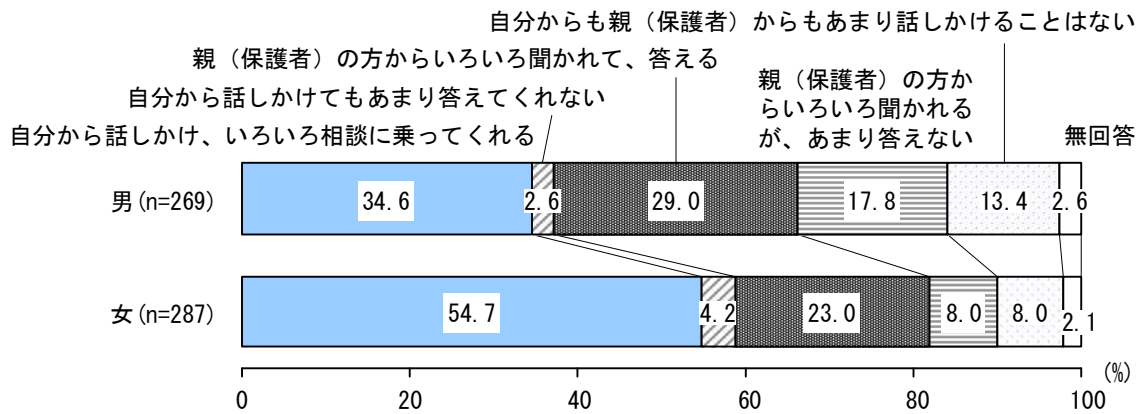
中学2年生も、男女とも「自分から話しかけ、いろいろ相談に乗ってくれる」が最も高く、男（34.6%）より女（54.7%）のほうが約2割高くなっている。（図Ⅱ-4-1-②）

17歳も、男女とも「自分から話しかけ、いろいろ相談に乗ってくれる」が最も高く、男（44.2%）より女（63.3%）のほうが19.1ポイント高いが、一方で「親（保護者）の方からいろいろ聞かれて、答える」は女（18.8%）より男（30.5%）のほうが11.7ポイント高くなっている。（図Ⅱ-4-1-③）

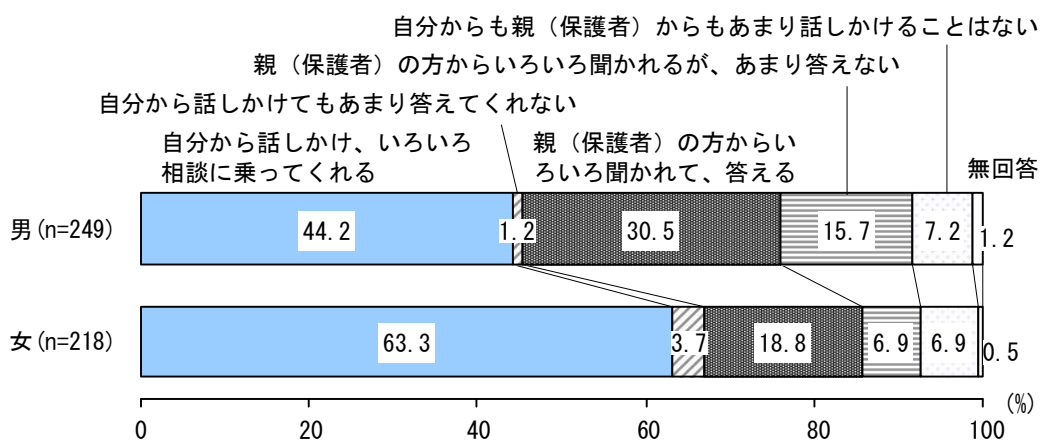
【図Ⅱ-4-1-① 性別 保護者への相談状況〔小学5年生〕】



【図Ⅱ-4-1-② 性別 保護者への相談状況〔中学2年生〕】



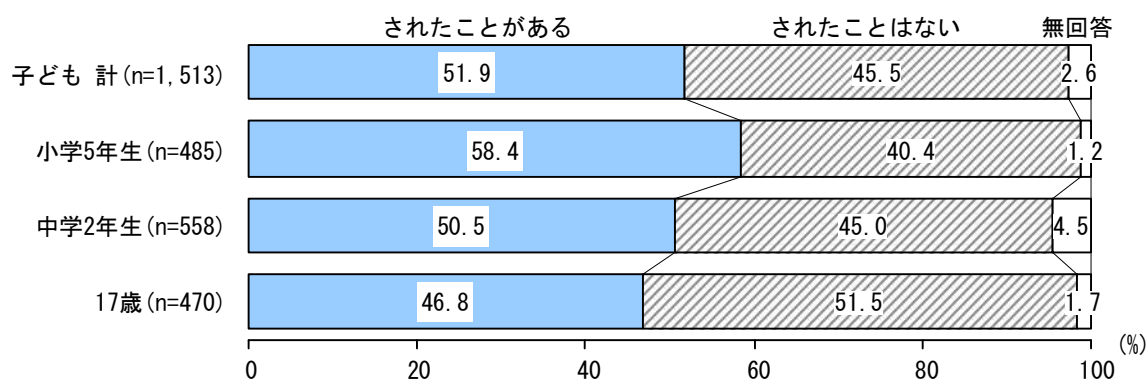
【図Ⅱ-4-1-③ 性別 保護者への相談状況〔17歳〕】



(2) 他の人から嫌なことをされた経験の有無

問 あなたは他の人から嫌なことをされたことがありますか。(どちらかに○)

【図Ⅱ-4-2 他の人から嫌なことをされた経験の有無】



他の人から嫌なことをされた経験の有無については、「されたことがある」が51.9%に対し、「されたことはない」が45.5%となっている。

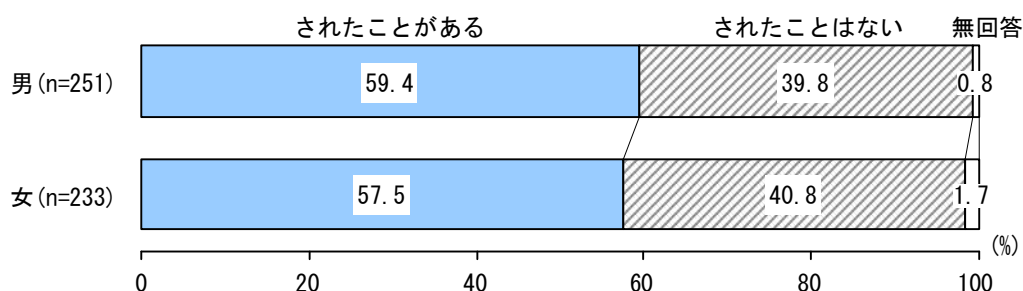
学年・年齢別でみると、小学5年生と中学2年生は「されたことがある」(小5：58.4%、中2：50.5%)のほうが高く、年齢が上がるにつれて割合は低くなり、17歳は「されたことはない」(51.5%)のほうが高くなっている。(図Ⅱ-4-2)

性別でみると、小学5年生は、「されたことがある」が女(57.5%)より男(59.4%)のほうやや高くなっている。(図Ⅱ-4-2-①)

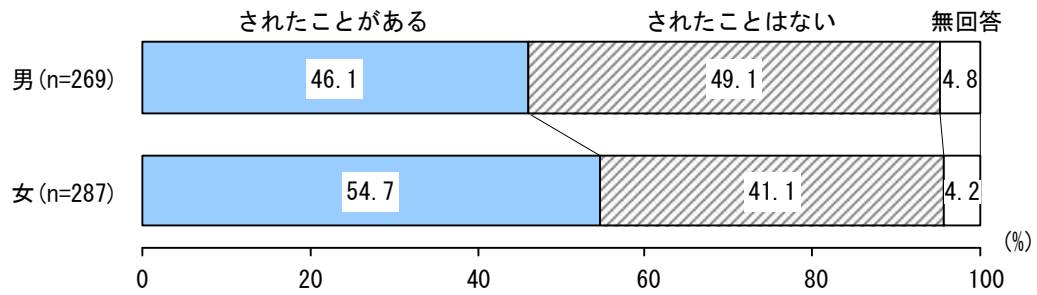
中学2年生は、男は「されたことはない」(49.1%)のほうが高いが、女は「されたことがある」(54.7%)のほうが高くなっている。(図Ⅱ-4-2-②)

17歳も、男は「されたことはない」(56.2%)のほうが高いが、女は「されたことがある」(51.4%)のほうが高くなっている。(図Ⅱ-4-2-③)

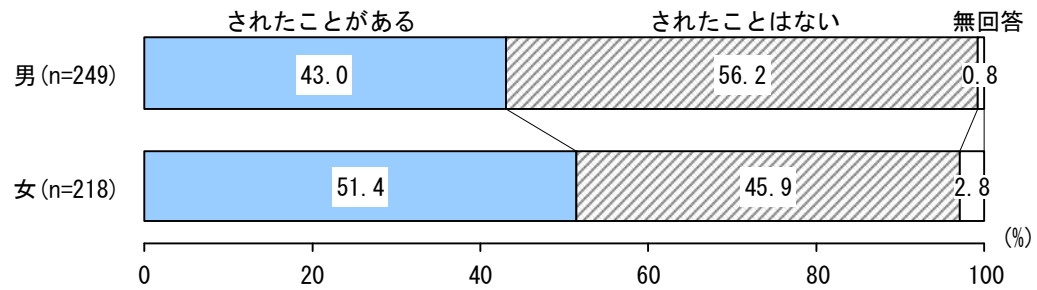
【図Ⅱ-4-2-① 性別 他の人から嫌なことをされた経験の有無〔小学5年生〕】



【図Ⅱ-4-2-② 性別 他の人から嫌なことをされた経験の有無〔中学２年生〕】



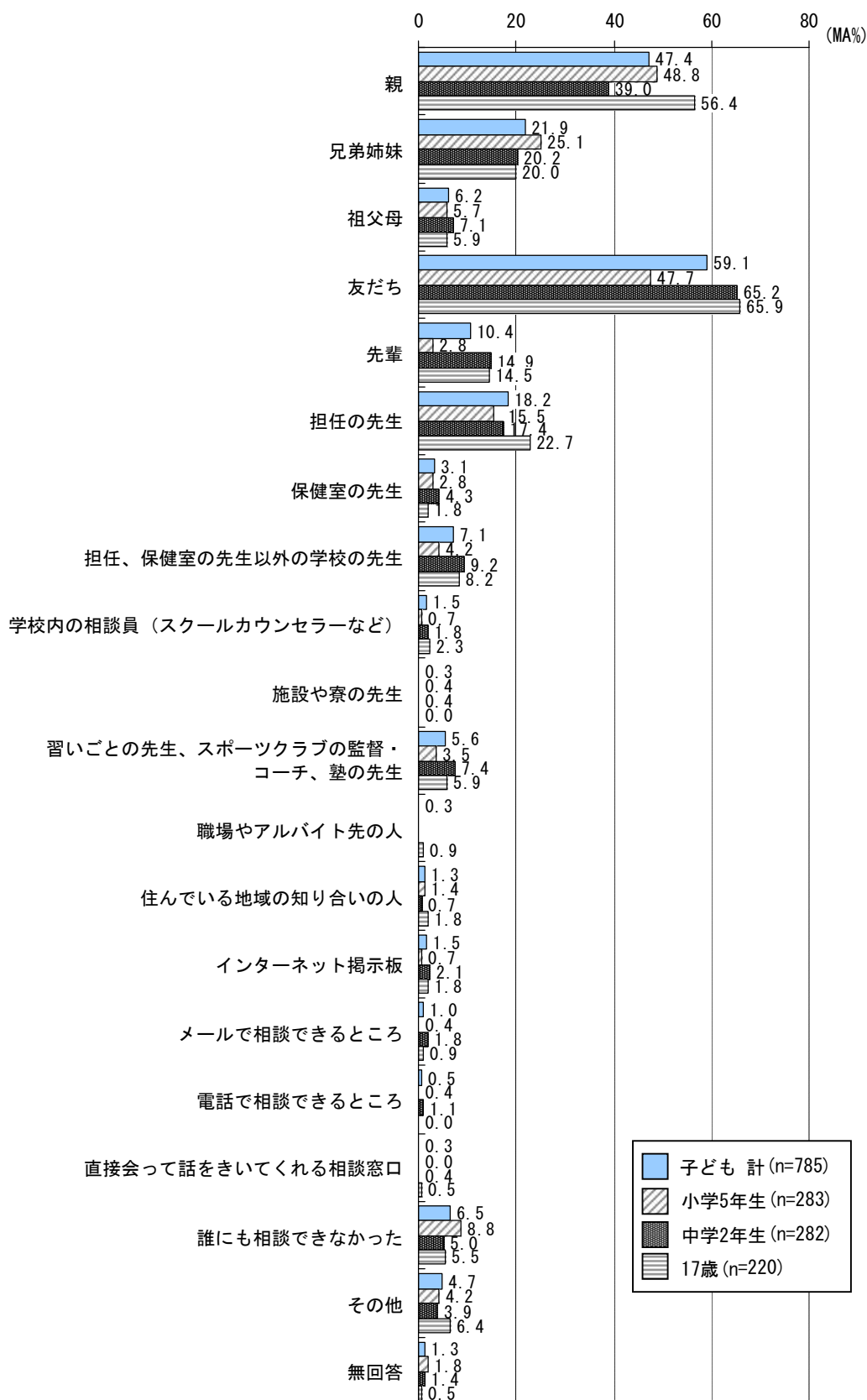
【図Ⅱ-4-2-③ 性別 他の人から嫌なことをされた経験の有無〔17歳〕】



(3) 嫌なことをされたときの相談相手

問 あなたはその時、だれか、またはどこかに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

【図Ⅱ-4-3 嫌なことをされたときの相談相手】



※小学5年生と中学2年生は「職場やアルバイト先の人」の選択肢はなし。

嫌なことをされたときの相談相手については、「友だち」が59.1%で最も高く、次いで「親」が47.4%、「兄弟姉妹」が21.9%となっている。

学年・年齢別でみると、小学5年生は「親」が48.8%で最も高く、次いで「友だち」が47.7%、「兄弟姉妹」が25.1%となっている。中学2年生と17歳は「友だち」（中2：65.2%、17歳：65.9%）が最も高く、次いで「親」（中2：39.0%、17歳：56.4%）となっている。さらに、第3位には中学2年生は「兄弟姉妹」（20.2%）、17歳は「担任の先生」（22.7%）となっており、「担任の先生」は年齢が上がるにつれて、割合が高くなっている。

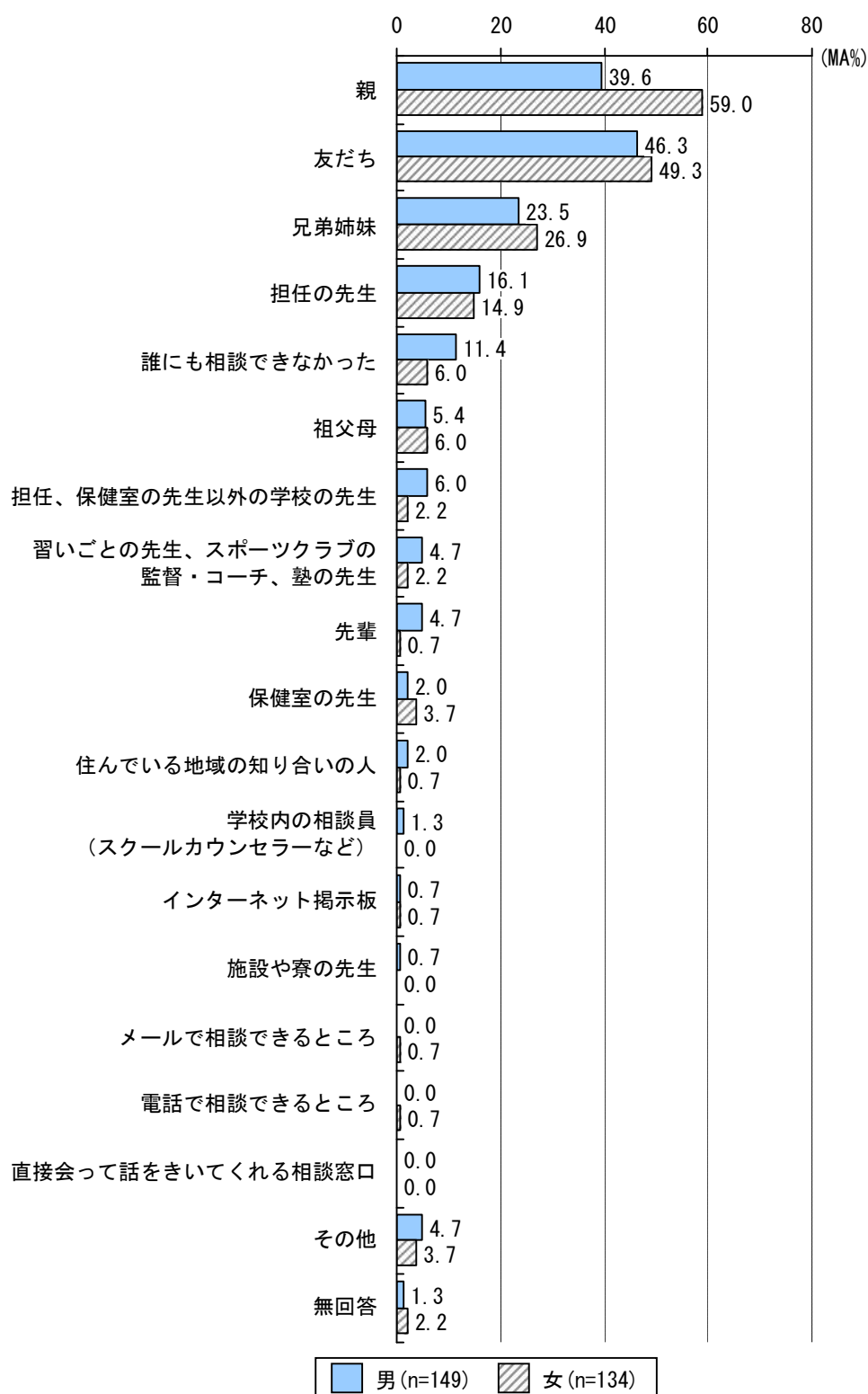
一方で、「誰にも相談できなかった」は、小学5年生が8.8%で最も高くなっている。（図Ⅱ-4-3）

性別でみると、小学5年生は、「親」は男（39.6%）より女（59.0%）のほうが2割程度高くなっている。（図Ⅱ-4-3-①）

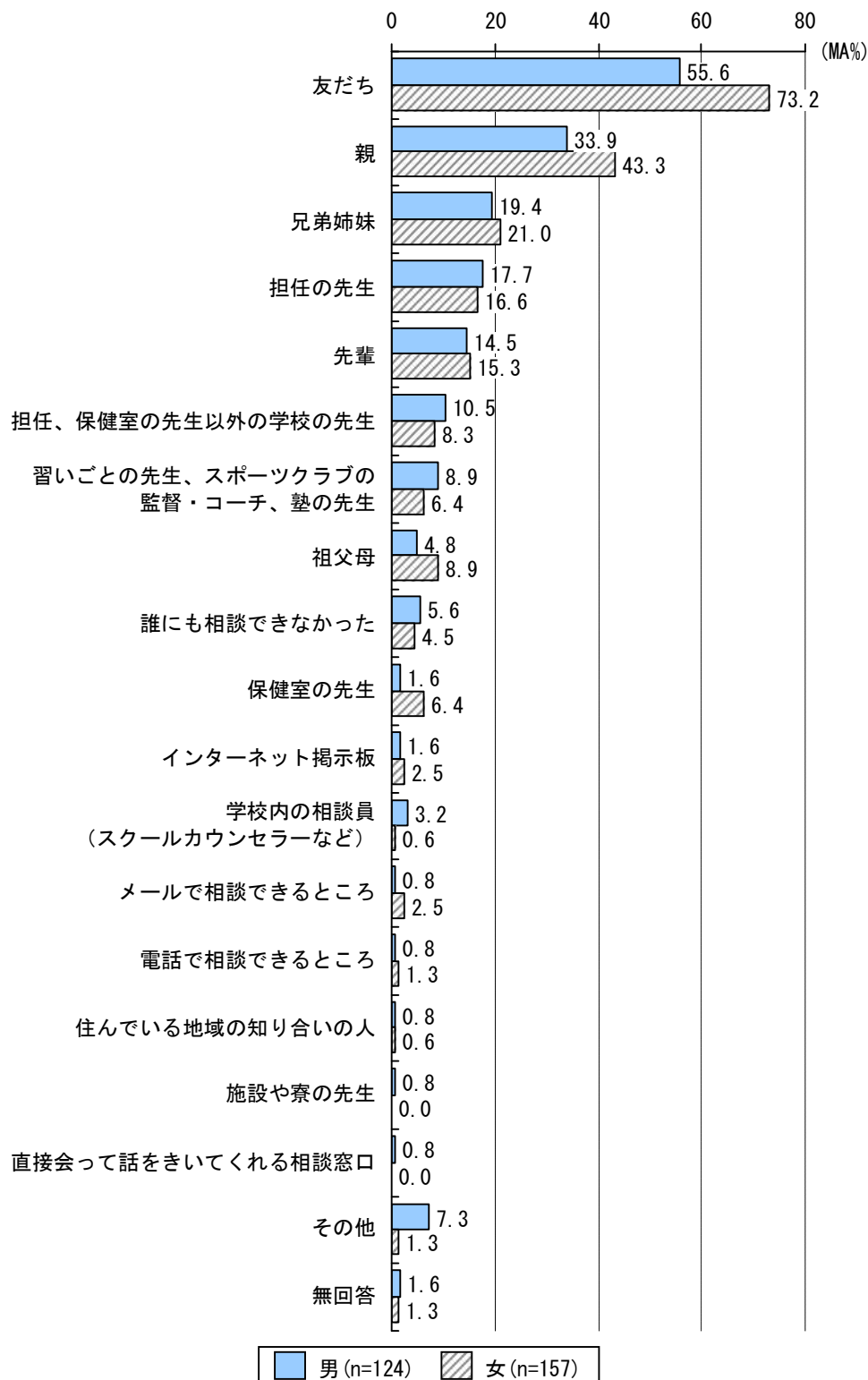
中学2年生は、「友だち」と「親」は女のほうが高く、それぞれ17.6ポイント、9.4ポイント差となっている。（図Ⅱ-4-3-②）

17歳は、「友だち」と「親」は女のほうが高く、それぞれ18.9ポイント、19.4ポイント差となっている。（図Ⅱ-4-3-③）

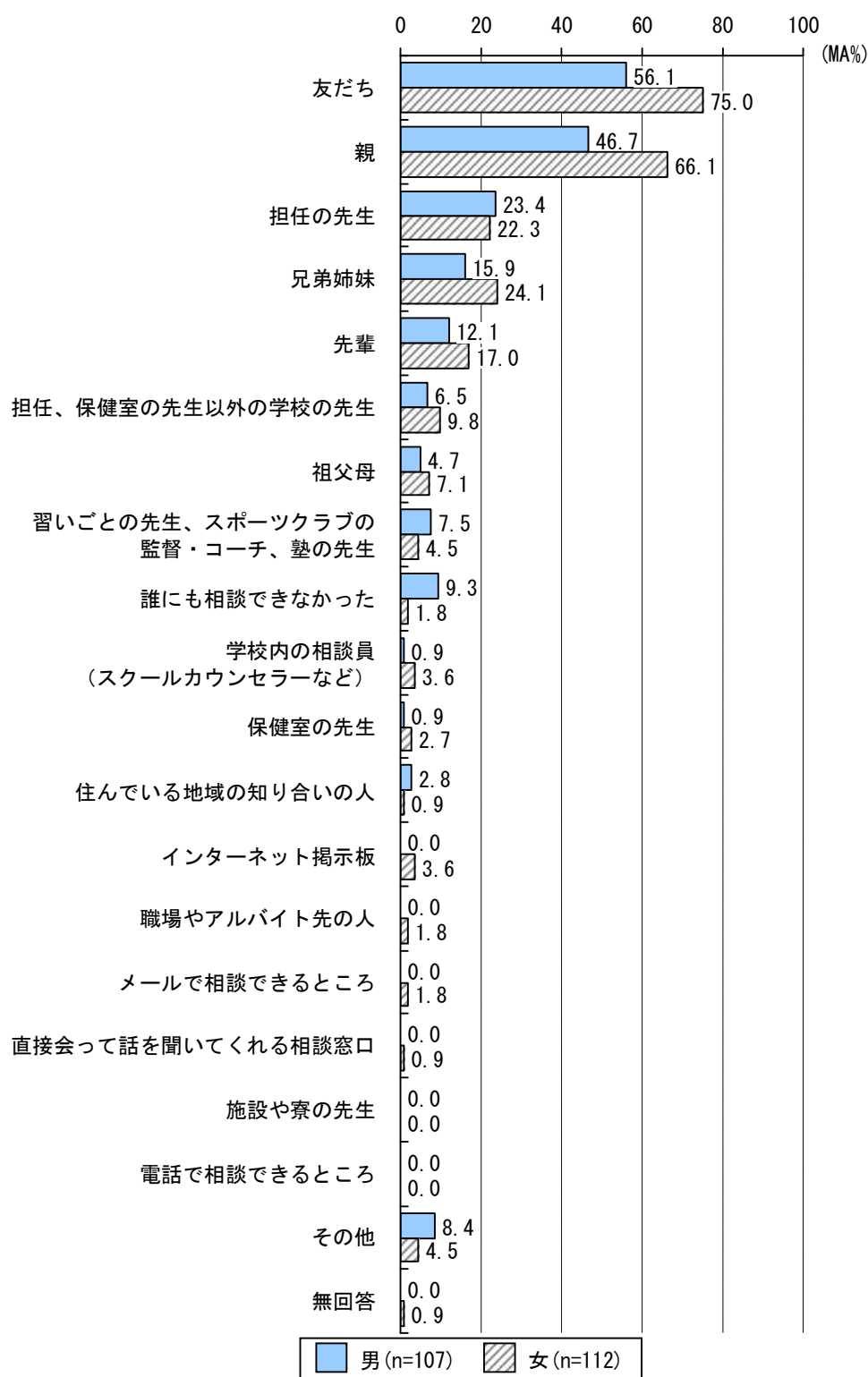
【図Ⅱ-4-3-① 性別 嫌なことをされたときの相談相手〔小学５年生〕】



【図Ⅱ-4-3-② 性別 嫌なことをされたときの相談相手〔中学２年生〕】



【図Ⅱ-4-3-③ 性別 嫌なことをされたときの相談相手〔17歳〕】



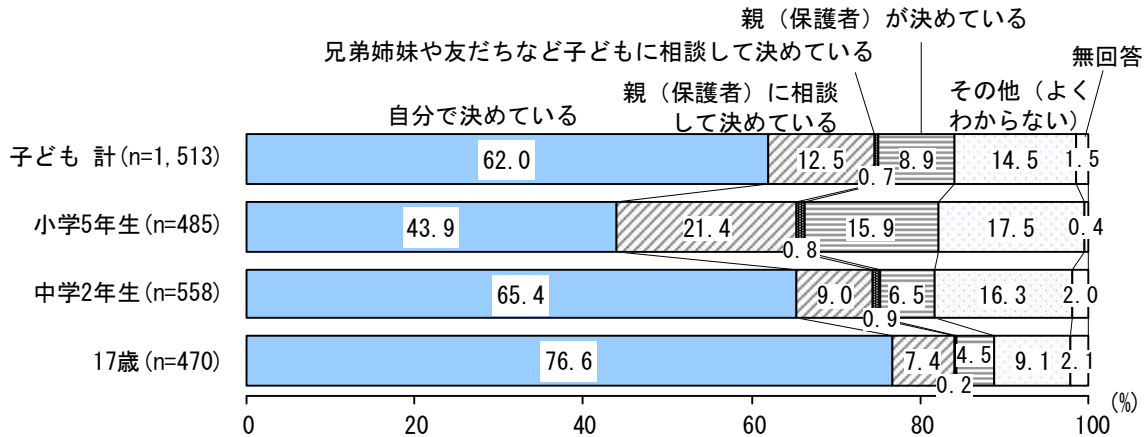
5. 自己決定について

(1) 自己決定の状況

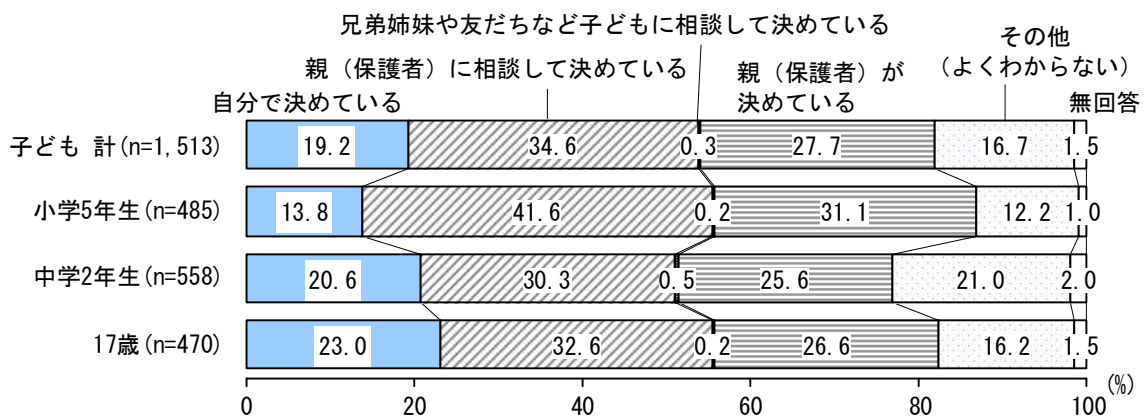
問 次の設問について、あなたはどのようにしていますか。

【図Ⅱ-5-1 自己決定の状況①】

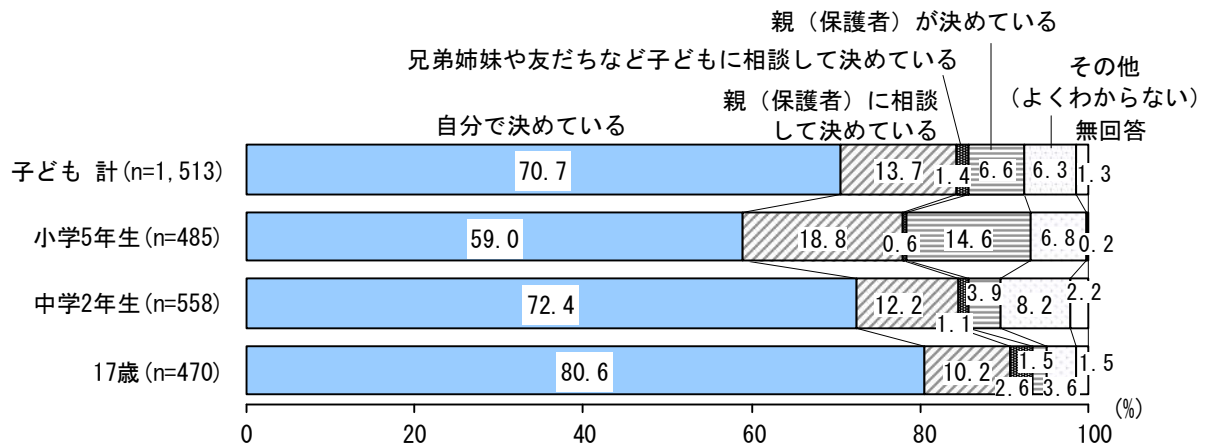
① 風呂・食事・勉強などの生活時間



② 門限など家庭内のルール

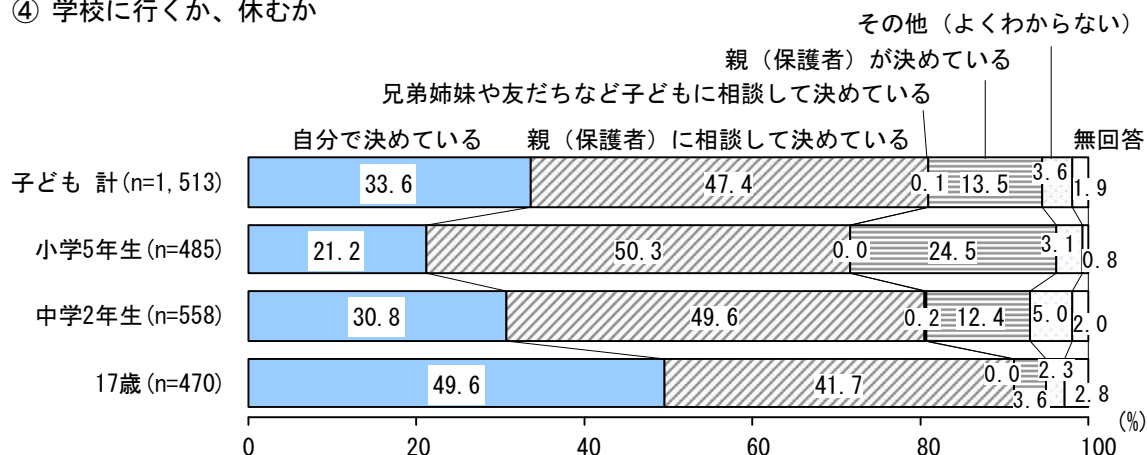


③ 服装・髪型・ファッション

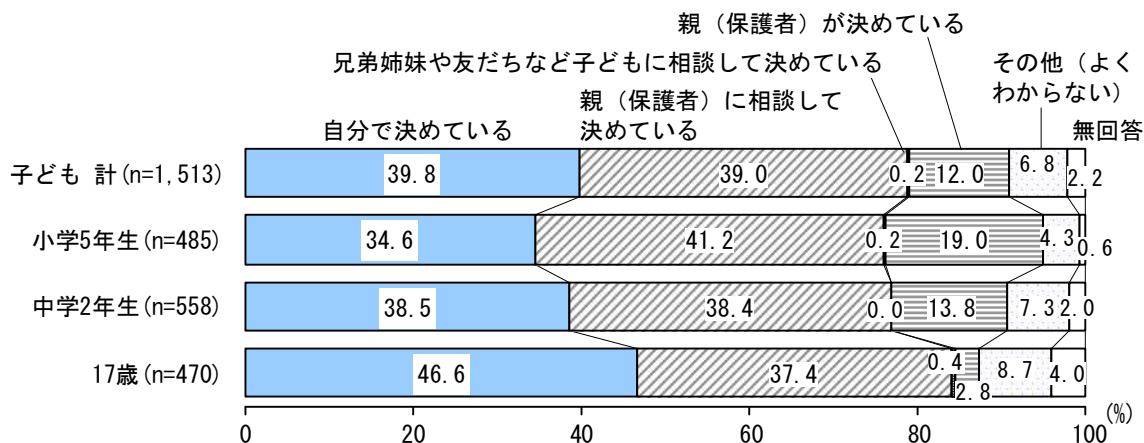


【図Ⅱ-5-1 自己決定の状況②】

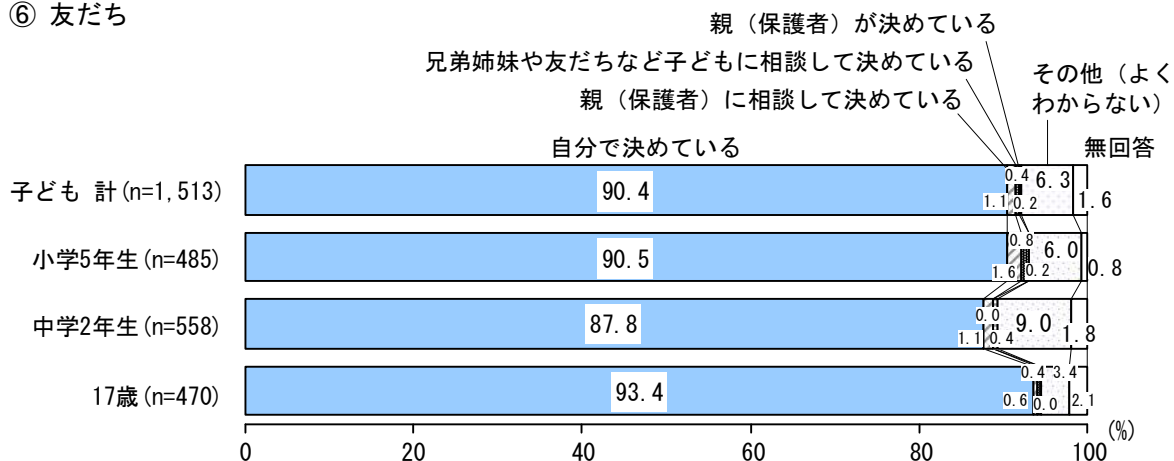
④ 学校に行くか、休むか



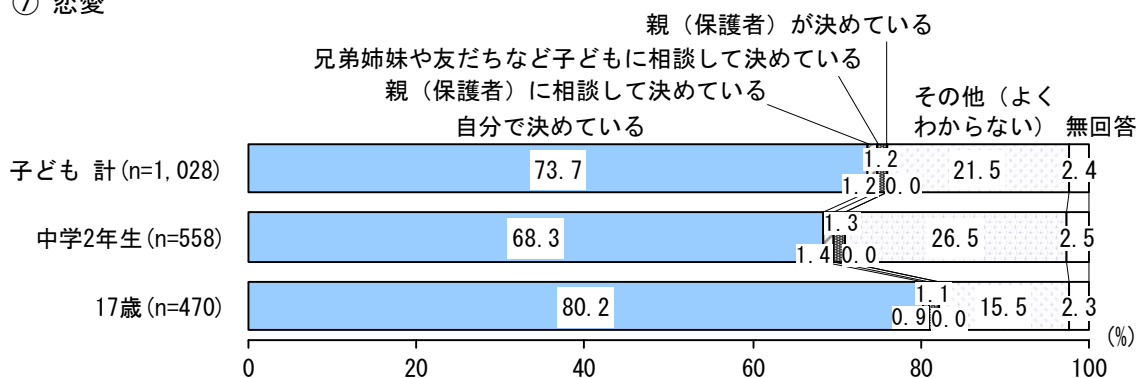
⑤ 塾や習い事に行くかどうか



⑥ 友だち

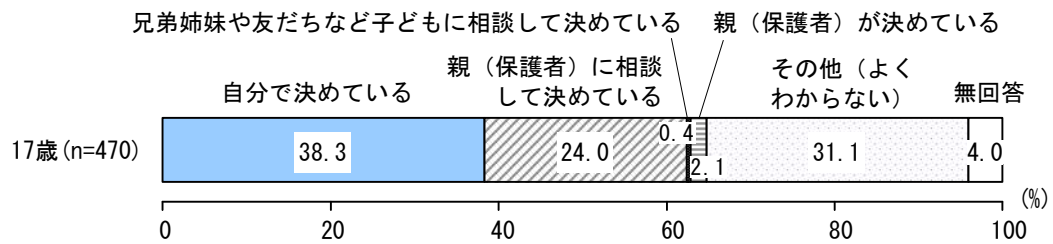


⑦ 恋愛

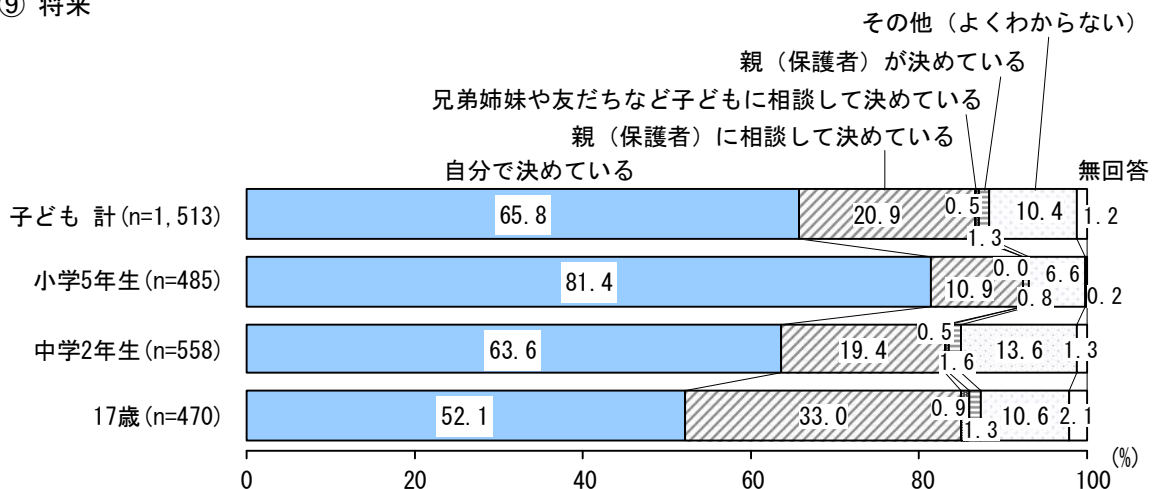


【図Ⅱ-5-1 自己決定の状況③】

⑧ 仕事・アルバイト



⑨ 将来



自己決定の状況についてたずねた。

“①風呂・食事・勉強などの生活時間”については、「自分で決めている」が62.0%で最も高くなっている。

学年・年齢別でも、いずれも「自分で決めている」が最も高く、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、17歳が76.6%で最も高くなっている。

“②門限など家庭内のルール”については、「親（保護者）に相談して決めている」が34.6%で最も高く、次いで「親（保護者）が決めている」が27.7%となっている。

学年・年齢別でみると、いずれも「親（保護者）に相談して決めている」が最も高く、小学5年生（41.6%）が最も高くなっている。また、「親（保護者）が決めている」も小学5年生（31.1%）が最も高くなっている。

“③服装・髪型・ファッション”については、「自分で決めている」が70.7%で最も高くなっている。

学年・年齢別でも、いずれも「自分で決めている」が過半数を占め最も高く、17歳が80.6%で最も高くなっている。

“④学校に行くか、休むか”については、「親（保護者）に相談して決めている」が47.4%で最も高く、次いで「自分で決めている」が33.6%となっている。

学年・年齢別でみると、小学5年生と中学2年生は「親（保護者）に相談して決めている」（小5：50.3%、中2：49.6%）が約半数を占め最も高いが、17歳は「自分で決めている」

Ⅲ-1 子ども調査の結果

(49.6%) が最も高くなっている。

“⑤塾や習い事に行くかどうか” については、「自分で決めている」が39.8%で最も高く次いで「親（保護者）に相談して決めている」が39.0%となっている。

学年・年齢別でみると、小学5年生は「親（保護者）に相談して決めている」（41.2%）が最も高いが、中学2年生と17歳は「自分で決めている」（中2：38.5%、17歳：46.6%）が最も高くなっている。

“⑥友だち” については、「自分で決めている」が90.4%で最も高くなっている。

学年・年齢別でみても、いずれも「自分で決めている」が9割前後を占めており、小学5年生（90.5%）と17歳（93.4%）で高くなっている。

“⑦恋愛”（中学2年生と17歳のみ）については、「自分で決めている」が73.7%で最も高くなっている。

学年・年齢別でみても、いずれも「自分で決めている」が過半数を占めており、17歳では80.2%と高くなっている。

“⑧仕事・アルバイト”（17歳のみ）については、「自分で決めている」が38.3%で最も高くなっている。

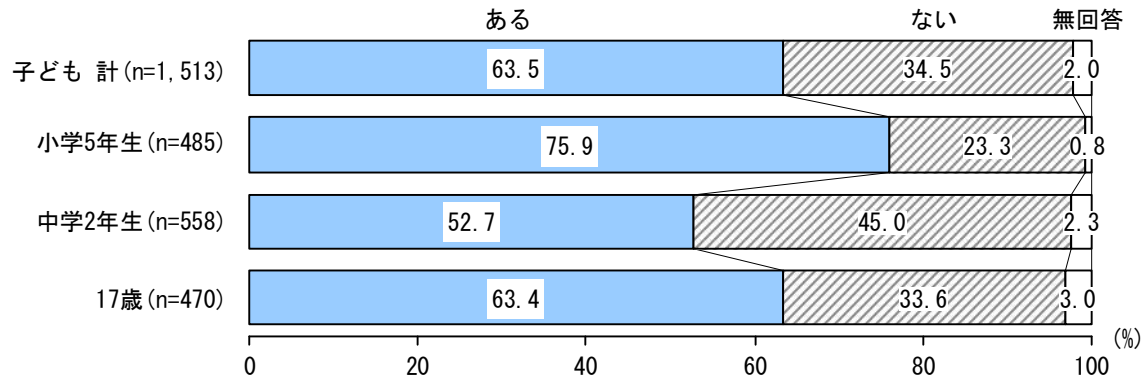
“⑨将来” については、「自分で決めている」が65.8%で最も高く、次いで「親（保護者）に相談して決めている」が20.9%となっている。

学年・年齢別でみると、いずれも「自分で決めている」が過半数を占め最も高いが、年齢が上がるにつれて割合は低くなり、17歳では「親（保護者）に相談して決めている」の割合が33.0%と高くなっている。（図Ⅱ-5-1①～③）

(2) 将来の夢や目標の有無

問 あなたには、将来の夢や目標はありますか。(○は1つだけ)

【図Ⅱ-5-2 将来の夢や目標の有無】



将来の夢や目標の有無については、「ある」が63.5%に対し、「ない」が34.5%となっている。

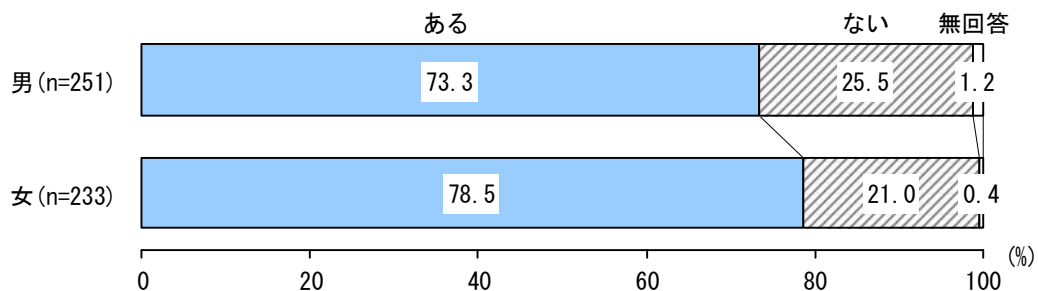
学年・年齢別でみると、いずれも「ある」が最も高くなっている。小学5年生が75.9%で最も高いのに対し、中学2年生は52.7%で最も低くなっている。(図Ⅱ-5-2)

性別でみると、小学5年生は、男女とも「ある」が7割以上を占めており、男(73.3%)より女(78.5%)のほうが5.2ポイント高くなっている。(図Ⅱ-5-2-①)

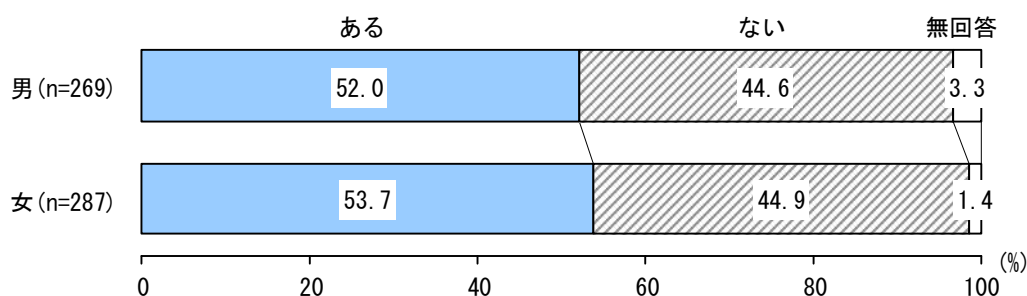
中学2年生は、男女とも「ある」のほうが高いが、男女で大きな差はみられない。(図Ⅱ-5-2-②)

17歳も、男女とも「ある」のほうが高く、男(56.6%)より女(71.6%)のほうが15.0ポイント高くなっている。(図Ⅱ-5-2-③)

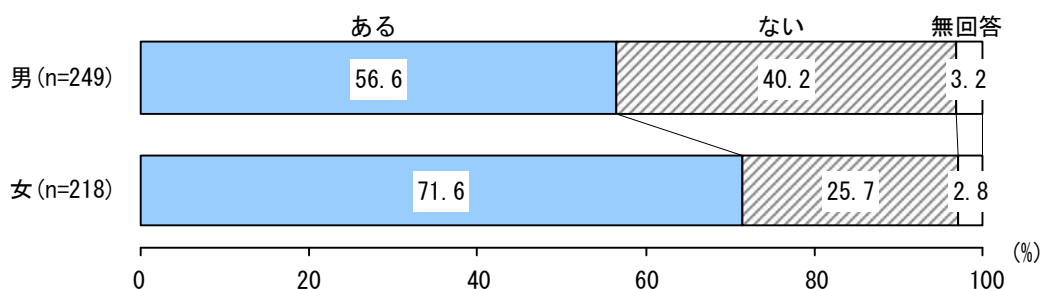
【図Ⅱ-5-2-① 性別 将来の夢や目標の有無〔小学5年生〕】



【図Ⅱ-5-2-② 性別 将来の夢や目標の有無〔中学2年生〕】



【図Ⅱ-5-2-③ 性別 将来の夢や目標の有無〔17歳〕】



将来の夢や目標があると回答した人に、その夢や目標を具体的にたずねると、小学5年生は、野球選手（26人）が最も高く、次いでサッカー選手（21人）、パティシエール（14人）となっている。（表Ⅱ-5-2-④）

中学2年生は、保育士（17人）が最も高く、次いで野球選手・メジャーリーガー、学校の先生（ともに12人）、芸能人（8人）となっている。（表Ⅱ-5-2-⑤）

17歳は、大学進学・合格（21人）が最も高く、次いで教師（19人）、保育士（13人）となっている。（表Ⅱ-5-2-⑥）

【表Ⅱ-5-2-④ 将来の夢や目標〔小学5年生〕】

順位	上位 10 項目	合計(人)
1	野球選手	26
2	サッカー選手	21
3	パティシエール	14
4	保育士	12
	医者（小児科）	12
6	漫画家（アシスタント）	10
	警察官（刑事・白バイ）	9
7	薬剤師	9
	看護師	9
	デザイナー（ファッション・グラフィック）	9
回答者数(n)		367

【表Ⅱ-5-2-⑤ 将来の夢や目標〔中学２年生〕】

順位	上位 10 項目	合計(人)
1	保育士	17
2	野球選手・メジャーリーガー	12
	学校の先生（英語・体育など）	12
4	芸能人（歌手・俳優・女優・スターなど）	8
5	サッカー選手（海外チーム）	7
	看護師	7
	美容師	7
8	幼稚園の先生	6
	医者（小児科・精神科医など）	6
	パティシエール	6
回答者数(n)		274

【表Ⅱ-5-2-⑥ 将来の夢や目標〔17歳〕】

順位	上位 10 項目	合計(人)
1	大学進学・合格（芸術大学、京都大学など）	21
2	教師（数学・音楽、奈良県下小学校・高校など）	19
3	保育士	13
4	看護師	11
5	結婚（出産、家庭を持つ）	7
6	警察官	5
	医者	5
	美容師	5
	声優	5
	人の役に立つ・為になる（仕事など）	5
	スポーツ関係	5
	英語（外国語）を活用できる仕事、翻訳家	5
回答者数(n)		271

6. 自由意見

調査票の最後の自由意見欄には、小学5年生が延べ231件、中学2年生が延べ202件、17歳が延べ210件の回答が寄せられた。記入内容別の件数を表にまとめると、以下のとおりである。

【小学5年生】

問 16 あなたが大人に言いたいことなどがあれば、自由に書いてください。	件数
日本の政治について（選挙、原発問題など）	18
大人が勝手に（物事を）決めないで、自分のことは自分できめたい	17
大人への感謝	14
宿題を減らして（なくして）・宿題が多い（自主勉強を増やすべきだ）	13
大人（親）だからといってえらそうに（上から目線・指図・命令）しないでほしい	12
事件、犯罪を減らして安全な町にしてほしい。守ってほしい。	12
もっと自由にしたい・自由な時間がほしい・遊びたい（好きにしたい）	11
子ども（自分）をよく見て、子ども（自分）の話を聞いてほしい（優しくしてほしい）	10
大人への疑問	9
色々とうるさく言わないでほしい（勉強しろ、ちょっとした事で怒るなど）	9
お小遣い（増やして）がほしい（お年玉返せ）	7
ほしいものを買ってほしい（ゲーム・携帯など）・自分だけ好きなものを買っている	6
大人は勝手（自分勝手な行動をする・無茶な理由をつける・都合よくあわせる）	6
マナーを守ってほしい（ポイ捨て・交通ルール）	6
公園・道路の整備（草を切ってほしい・時計をつけてほしい・きれいに）	6
社会制度への要望（子どもでも仕事がしたい、私学無償化にしてほしいなど）	6
学校制度への要望（秋休みがほしい、音楽の授業減らしてほしいなど）	5
自分ができないこと（できなかったこと）言わないでほしい	5
もっと子どもの事（クリスマスなどこどもの日の事）を考えてほしい	5
子どもの遊び場（空き地や公園、自然、駄菓子屋など）がほしい	5
学校の施設を向上してほしい	3
兄弟間で差別しないで	3
習い事について（なくしてほしい、したいなど）	3
（顔を）叩かないでほしい	3
勝手に決め付けないでほしい（確認してから行動してほしい）	3
タバコ吸わないでほしい・お酒は控えてほしい	3
えこひいきしないでほしい	2
大人へのねぎらい（長生きして・仕事ががんばって）	2
父親への生活習慣の要望	2
インターネットつなげて・パソコンやらせてほしい	2
食事について（お寿司をいっぱい食べたい・毎日カレーにしてほしい）	2
災害に対して安心できる町にほしい	2
虐待について	2
その他	17
計	231

【中学２年生】

問 16 あなたが大人に言いたいことなどがあれば、自由に書いてください。	件数
色々うるさく言わないでほしい（うるさい、ちょっとした事で怒るなど）	18
大人（親）だからといってえらそうに（指図）しないでほしい	13
日本の政治について（税金、選挙、原発問題など）	12
もっと自由にしたい・自由な時間がほしい・遊びたい	12
子ども（自分・周り）をよく見て、子ども（自分）の話を聞いてほしい	12
大人は勝手（自己中心的・矛盾している）	10
大人への感謝	7
大人が勝手に（物事を）決めないで、自分のことは自分で決めたい	7
もっと子どもの事を（子ども目線で）考えてほしい	7
勝手に決め付けしないでほしい（子どものことがわかっていない・わかろうとしない）	7
大人としての自覚・責任感を持ってほしい（しっかりして・頼りない）	7
死ね、バカなど	7
大人というだけで正しいとは言えない（考えを押し付けしないで）	6
放っておいてほしい・一人にさせてほしい	6
自分ができないこと（できなかったこと）言わないで・怒らないでほしい	5
大人は嫌いだ	4
場の空気を読んで（発言・対応して）ほしい（傷つけないで）	4
マナーを守ってほしい（交通ルール・困っている人がいたら助ける）	3
人によって差別（えこひいき）しないでほしい	3
兄弟間で差別しないで	3
信用できない・信頼できない大人がいる	3
安心して暮らせる未来にしてほしい	3
自分の将来について	3
アンケートについて	3
お金をまわしてほしい	2
社会制度への要望・疑問	2
タバコを（人がいるところで）吸わないでほしい	2
子どもが悪い事をしていたら、いち早く気付いて注意してほしい	2
いじめ問題について	2
その他	27
計	202

【17歳】

問 18 あなたが大人に言いたいことなどがあれば、自由に書いてください。	件数
日本の政治・経済について（税金、雇用、防衛問題など）	24
大人は大人らしい言動をしてほしい（しっかりしてほしい、ルールを守らない）	14
学校教育・教師やその指導について（厳しくするべき、学校教諭の質の向上）	12
マナーが悪い（電車内、交通マナー、飲酒）	12
大人（自分）ができていないことを言わないでほしい（大人から正してほしい）	10
地方政治・制度への要望（私・公立高校無償化、東部山間部にも支援学級をなど）	9
アンケートについて	9
決め付けしないでほしい（子どものことを理解しようとしないう・否定的・固定観念を押し付ける）	9
日本の将来・理想のために望むこと、できること	7
タバコを吸わないでほしい（歩きタバコ）	7
道路・交通の整備（バスを増やして、通学路に外灯を）	7
奈良県、奈良市のまちづくりについて（観光・安全なまちづくり、地域交流など）	7
教育・家庭教育（しつけ）について（もっと子どもを見るべきなど）	5
ねぎらい（仕事がんばって下さいなど）	5
子ども（周り）をよく見て、子どもの話（意見）を聞いてほしい	4
県政・市政について（奈良市のムダをなくしてほしいなど）	4
子どものための遊び場（自然と触れ合える）が必要	4
若者が楽しめる施設・イベントがほしい	4
学校の施設を向上してほしい（クーラー設置、耐震補強など）	4
大人は勝手（親の理想を押し付けすぎ・自分のことしか考えていない）	4
いじめ問題について	3
人によって差別（えこひいき）しないでほしい・比べないでほしい	3
もっと子どもの事（ためになるか）を考えてほしい	3
子どもが意見を言う場がほしい（政治、社会問題など）	3
就職・勉強できる環境づくりをしてほしい	3
大人は（日本の、街の）将来のために努力するべき	3
自分の将来について（理想・決意）	2
場の空気を読んで（発言・対応して）ほしい（傷つけないで）	2
大人が勝手に（物事を）決めないで、自分のことは自分で決めたい	2
「ゆとり教育世代」と評価しないでほしい。好きでなったわけではない。	2
大人というだけで正しいとは言えない（自分は間違っていないと思っている）	2
言っても仕方ない（言うべきことはない）	2
（大人は）支え合い、協力するべきだ	2
今の若者はダメだというのが、育てたのは大人だ	2
その他	15
計	210

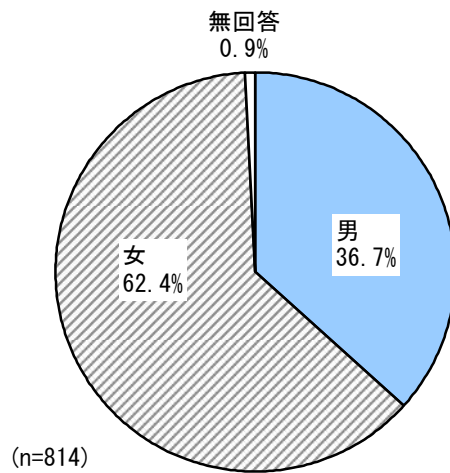
Ⅲ－２ ２０歳以上の調査の結果

Ⅲ－２ 20歳以上の調査の結果

１．回答者の属性

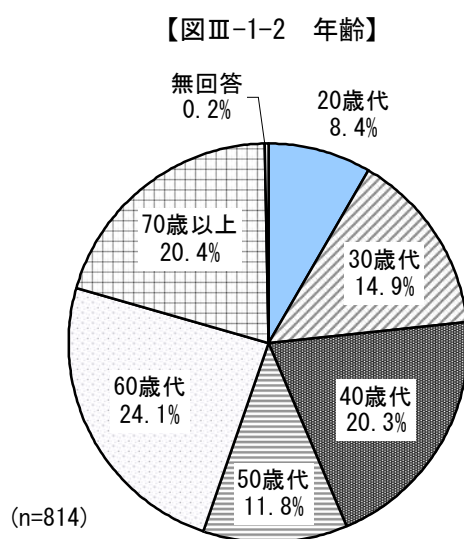
（１）性別

【図Ⅲ-1-1 性別】



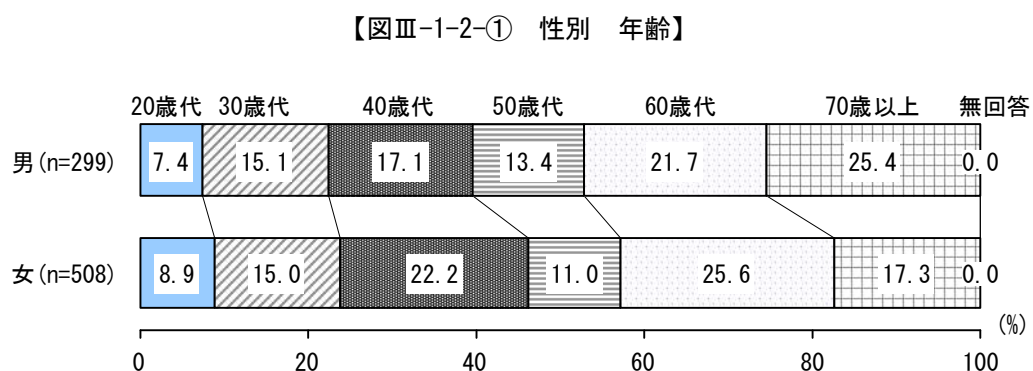
回答者の性別は、「男」が36.7%に対し、「女」が62.4%となっている。（図Ⅲ-1-1）

(2) 年齢



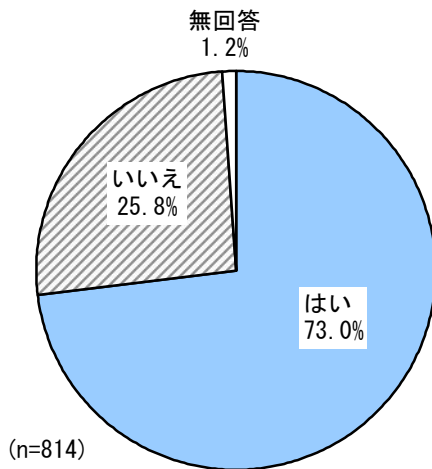
回答者の年齢は、「60歳代」が24.1%で最も高く、次いで「70歳以上」が20.4%、「40歳代」が20.3%となっている。(図Ⅲ-1-2)

性別でみると、男は「70歳以上」が25.4%で最も高く、次いで「60歳代」が21.7%、「40歳代」が17.1%となっている。一方、女は「60歳代」が25.6%で最も高く、次いで「40歳代」が22.2%、「70歳以上」が17.3%となっている。(図Ⅲ-1-2-①)

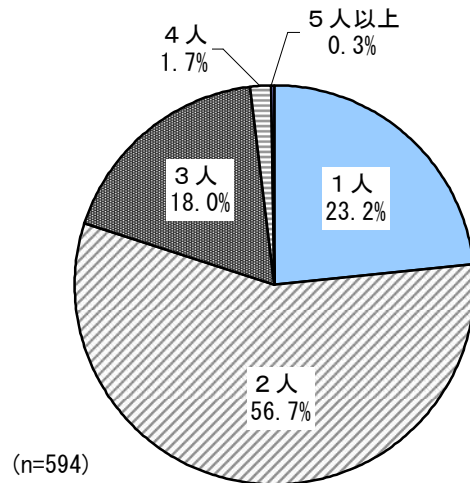


(3) 子どもの人数

【図Ⅲ-1-3 子どもの有無】



【図Ⅲ-1-3-1 子どもの人数】



子どもの有無については、「はい」が73.0%に対し、「いいえ」が25.8%となっている。(図Ⅲ-1-3)

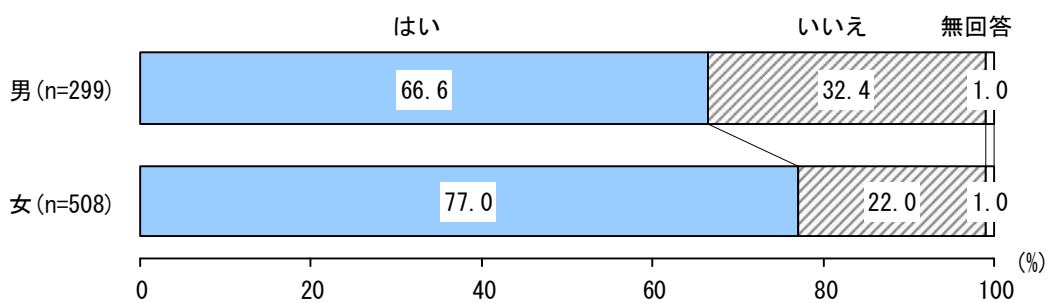
子どもがいると回答した人に、子どもの人数をたずねると、「2人」が56.7%で最も高く、次いで「1人」が23.2%、「3人」が18.0%となっている。(図Ⅲ-1-3-1)

また、子どもの年齢は、第1子の平均年齢が28.5歳、第2子が27.2歳、第3子が24.3歳となっている。

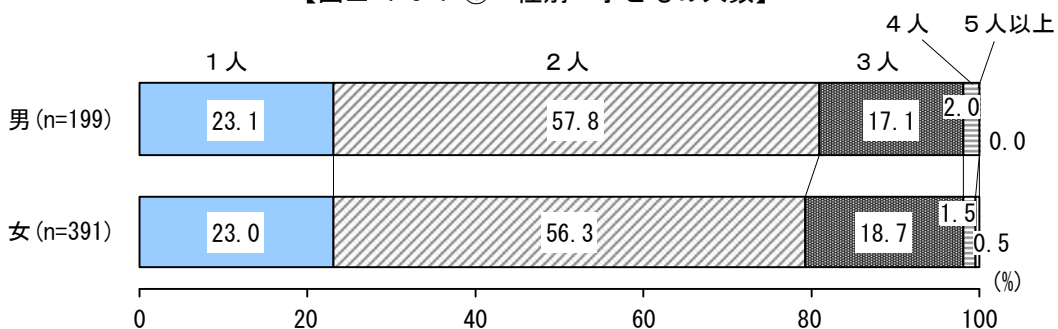
子どもの有無について、性別でみると、男女とも「はい」が過半数を占めており、男(66.6%)より女(77.0%)のほうが10.4ポイント高くなっている。(図Ⅲ-1-3-①)

子どもの人数について、性別でみると、男女とも「2人」が5割台で最も高く、大きな差はみられない。(図Ⅲ-1-3-1-①)

【図Ⅲ-1-3-① 性別 子どもの有無】

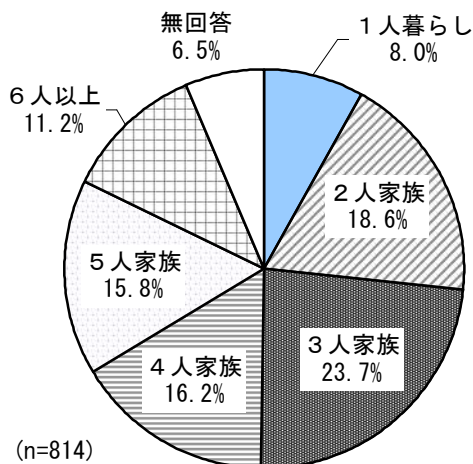


【図Ⅲ-1-3-1-① 性別 子どもの人数】

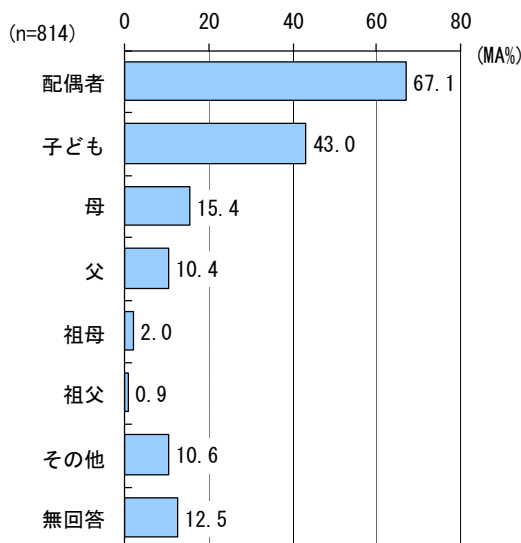


(4) 同居家族

【図Ⅲ-1-4-1 同居家族人数】



【図Ⅲ-1-4-2 同居者】



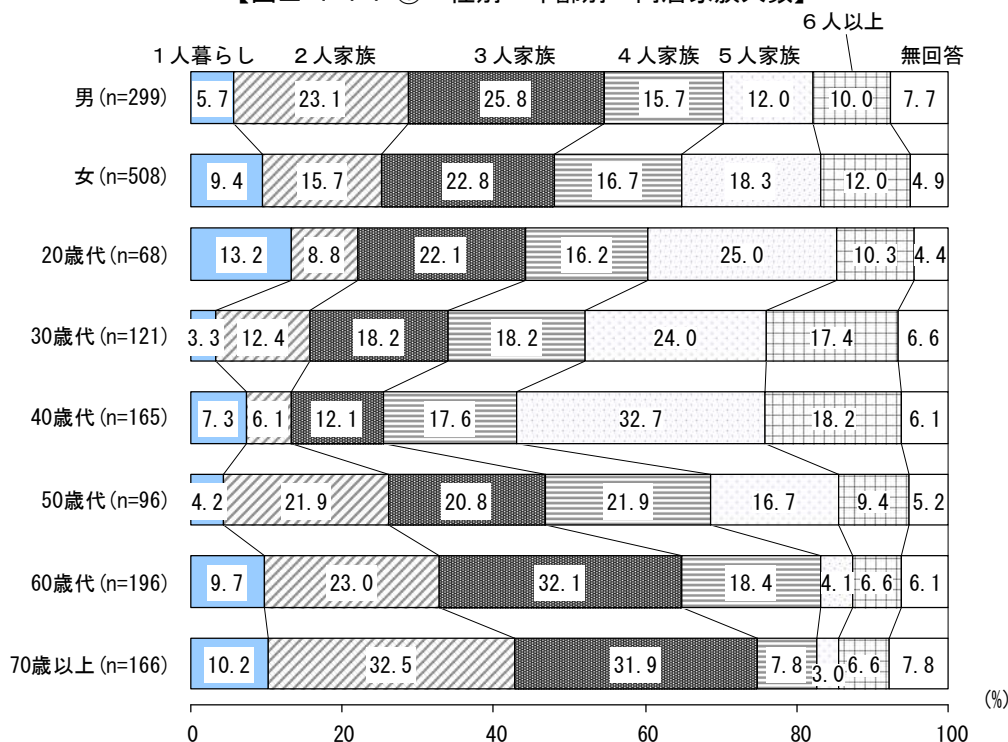
同居家族人数は、「3人家族」が23.7%で最も高く、次いで「2人家族」が18.6%、「4人家族」が16.2%となっており、平均人数は2.6人となっている。(図Ⅲ-1-4-1)

同居者は、「配偶者」が67.1%で最も高く、次いで「子ども」が43.0%、「母」が15.4%、「父」が10.4%となっている。(図Ⅲ-1-4-2)

同居家族人数を性別でみると、男女とも「3人家族」(男：25.8%、女：22.8%)が最も高く、次いで男は「2人家族」(23.1%)、女は「5人家族」(18.3%)となっている。また、「1人暮らし」は女(9.4%)のほうが3.7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、20歳代～40歳代までは「5人家族」が最も高いが、50歳代は「2人家族」と「4人家族」が、60歳代は「3人家族」が、70歳以上は「2人家族」が最も高くなっており、3人以下の家族は年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。(図Ⅲ-1-4-1-①)

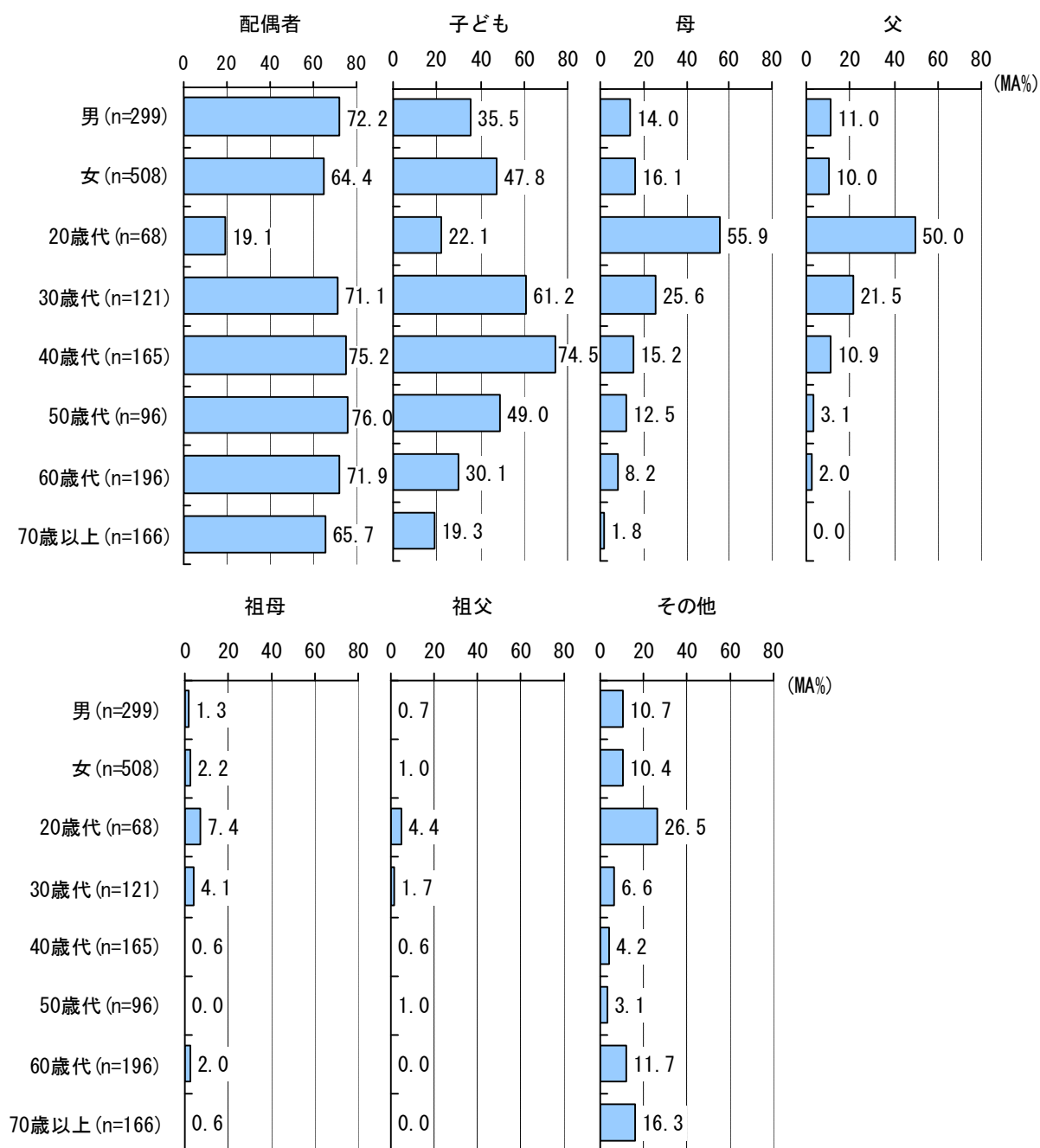
【図Ⅲ-1-4-1-① 性別・年齢別 同居家族人数】



同居者を性別で見ると、男女とも「配偶者」が最も高く、女（64.4%）より男（72.2%）のほうが7.8ポイント高くなっている。次いで男女とも「子ども」となっており、男（35.5%）より女（47.8%）のほうが12.3ポイント高くなっている。

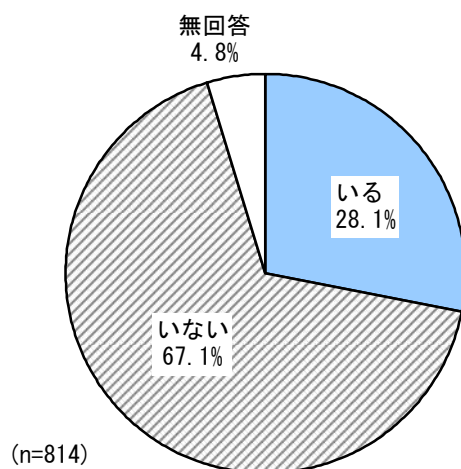
年齢別で見ると、20歳代は「母」が55.9%で最も高く、次いで「父」（50.0%）、「子ども」（22.1%）となっている。30歳代以上ではいずれも「配偶者」が最も高く、次いで「子ども」、「母」となっている。（図Ⅲ-1-4-2-①）

【図Ⅲ-1-4-2-① 性別・年齢別 同居者】



(5) 17歳までの子どもの有無

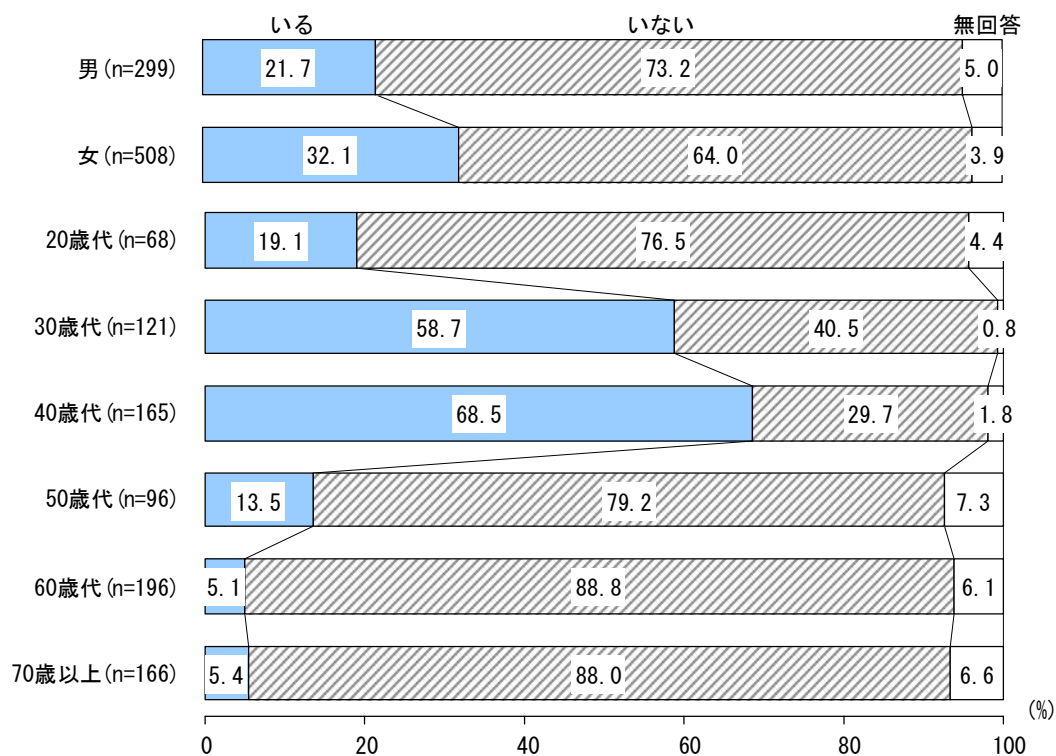
【図Ⅲ-1-5 17歳までの子どもの有無】



17歳までの子どもの有無については、「いる」が28.1%に対し、「いない」が67.1%となっている。(図Ⅲ-1-5)

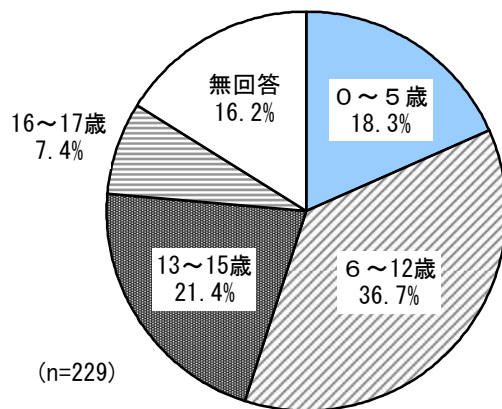
性別でみると、「いる」は男性(21.7%)より女性(32.1%)のほうが10.4ポイント高くなっている。(図Ⅲ-1-5-①)

【図Ⅲ-1-5-① 性別・年齢別 17歳までの子どもの有無】

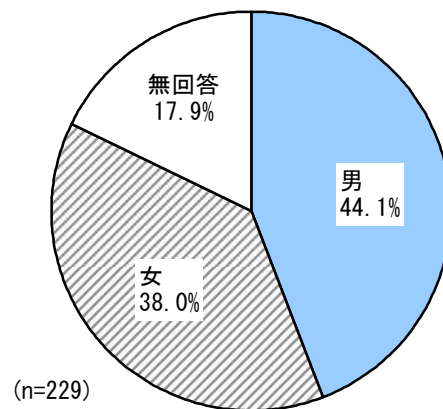


(6) 回答する子どもの年齢と性別

【図Ⅲ-1-6-1 回答する子どもの年齢】



【図Ⅲ-1-6-2 回答する子どもの性別】



17歳までの子どもがいると回答した人に対して回答する子どもの年齢をたずねると、「6～12歳」が36.7%で最も高く、次いで「13～15歳」が21.4%、「0～5歳」が18.3%であり、平均年齢は9.6歳となっている。(図Ⅲ-1-6-1)

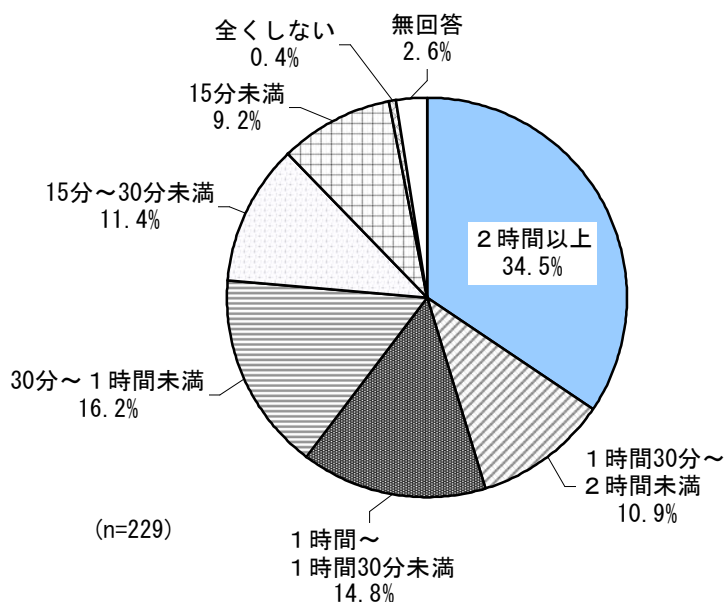
また、性別は、「男」が44.1%に対し、「女」が38.0%となっている。(図Ⅲ-1-6-2)

2. ふだんの生活状況

(1) 子どもとの会話時間

問 あなたは一日の中でお子さんとどれくらい話をしますか。(〇は1つ)

【図Ⅲ-2-1 子どもとの会話時間】

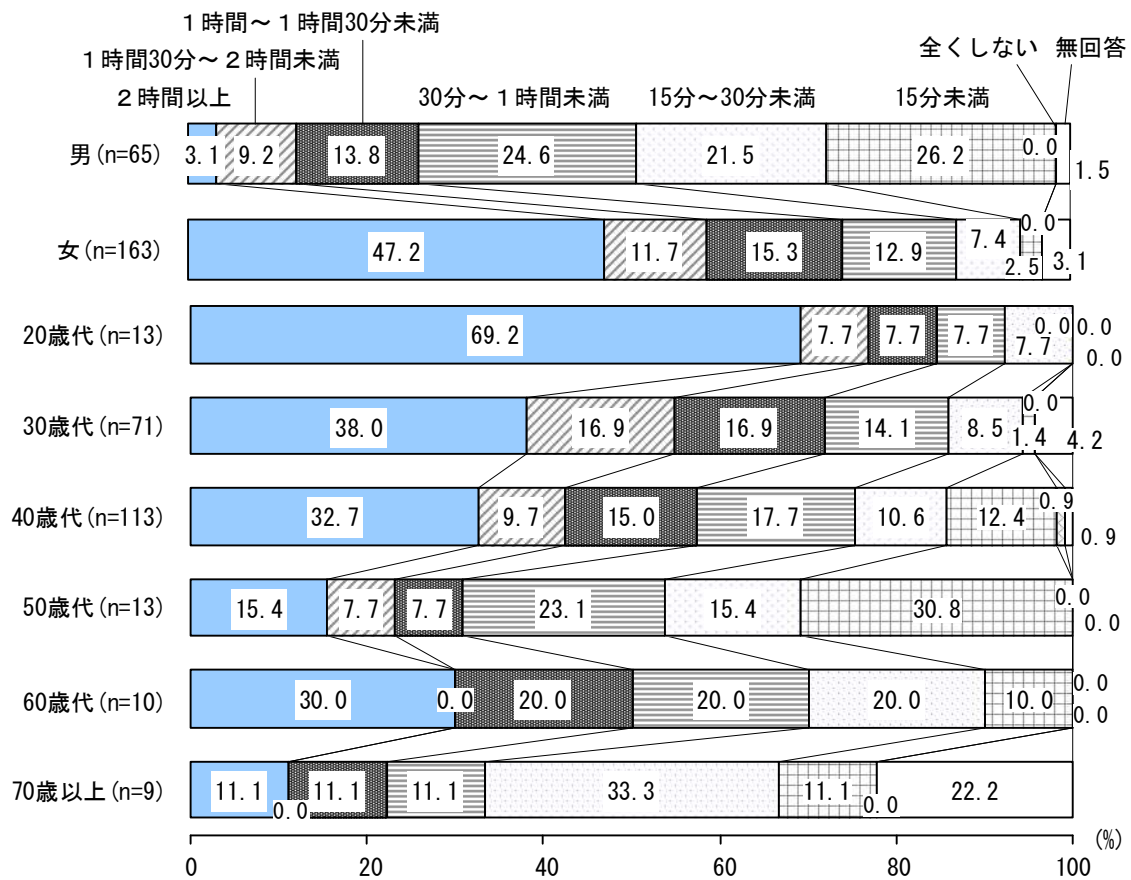


子どもとの会話時間については、「2時間以上」が34.5%で最も高く、次いで「30分～1時間未満」が16.2%、「1時間～1時間30分未満」が14.8%であり、約2割が30分未満(21.0%)となっている。(図Ⅲ-2-1)

性別でみると、男は「15分未満」(26.2%)が最も高く、次いで「30分～1時間未満」(24.6%)となっているが、女は「2時間以上」(47.2%)が最も高く、次いで「1時間～1時間30分未満」(15.3%)となっている。

年齢別でみると、20～40歳代、60歳代は「2時間以上」が最も高く、なかでも20歳代が69.2%で最も高くなっている。また、50歳代は「15分未満」(30.8%)が最も高く、70歳以上は「15分～30分未満」(33.3%)が最も高くなっている。(図Ⅲ-2-1-①)

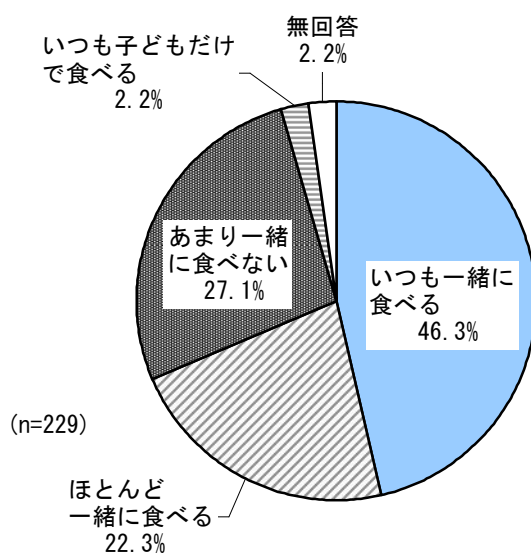
【図Ⅲ-2-1-① 性別・年齢別 子どもとの会話時間】



(2) 子どもとの夕食の共食頻度

問 あなたはお子さんと一緒に夕食を食べますか。(○は1つ)

【図Ⅲ-2-2 子どもとの夕食の共食頻度】

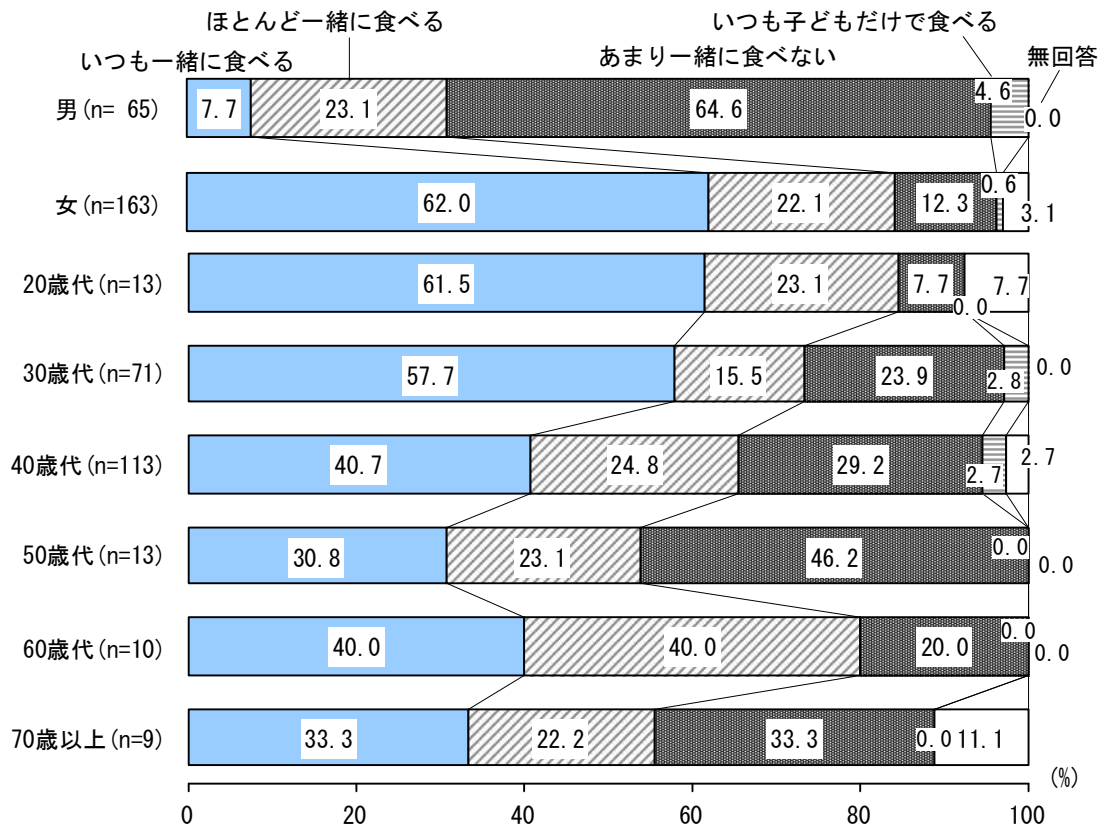


子どもとの夕食の共食頻度については、「いつも一緒に食べる」が46.3%で最も高く、次いで「あまり一緒に食べない」が27.1%となっており、『一緒に食べない』（「あまり一緒に食べない」と「いつも子どもだけで食べる」をあわせた割合）は29.3%を占める。（図Ⅲ-2-2）

性別でみると、男は「あまり一緒に食べない」（64.6%）が最も高く、『一緒に食べない』（69.2%）が約7割を占めている。一方、女は「いつも一緒に食べる」（62.0%）が最も高くなっている。

年齢別でみると、20～40歳代は「いつも一緒に食べる」が最も高くなっているが、50歳代では「あまり一緒に食べない」（46.2%）が最も高くなっている。（図Ⅲ-2-2-①）

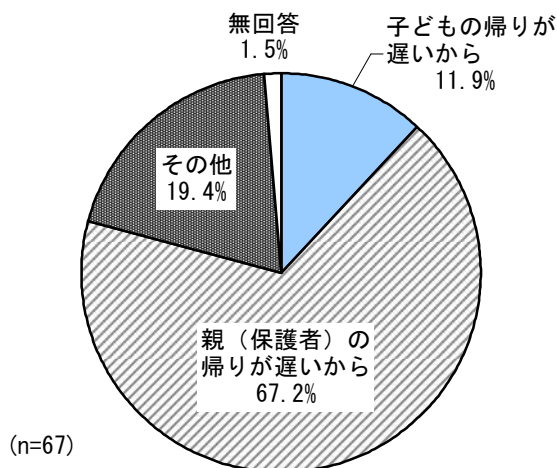
【図Ⅲ-2-2-① 性別・年齢別 子どもとの夕食の共食頻度】



(3) 子どもと一緒に食べない理由

問 それはどのような理由からですか。(主なもの1つだけに○)

【図Ⅲ-2-3 子どもと一緒に食べない理由】

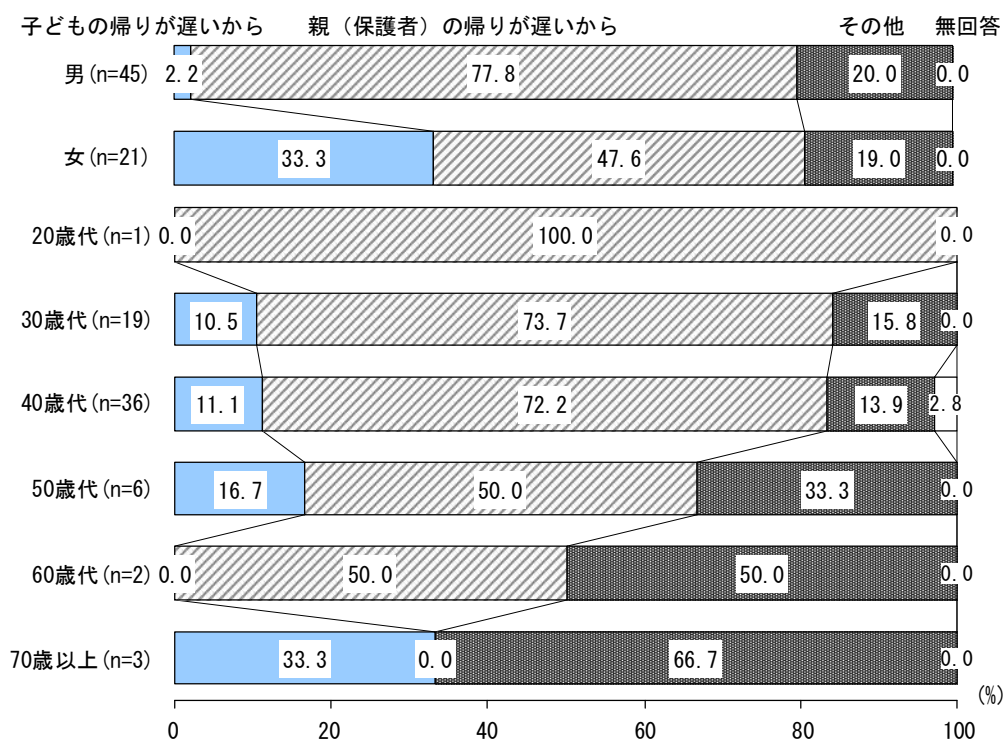


夕食を子どもとあまり一緒に食べない、もしくはいつも子どもだけで食べると回答した人にその理由をたずねると、「親（保護者）の帰りが遅いから」が67.2%で最も高く、次いで「子どもの帰りが遅いから」が11.9%となっている。(図Ⅲ-2-3)

性別でみると、男女とも「親（保護者）の帰りが遅いから」が最も高く、女（47.6%）より男（77.8%）のほうが約3割高くなっている。一方、「子どもの帰りが遅いから」は男（2.2%）より女（33.3%）のほうが約3割高くなっている。

年齢別でみると、「親（保護者）の帰りが遅いから」は年齢が上がるにつれて、割合が低くなっている。(図Ⅲ-2-3-①)

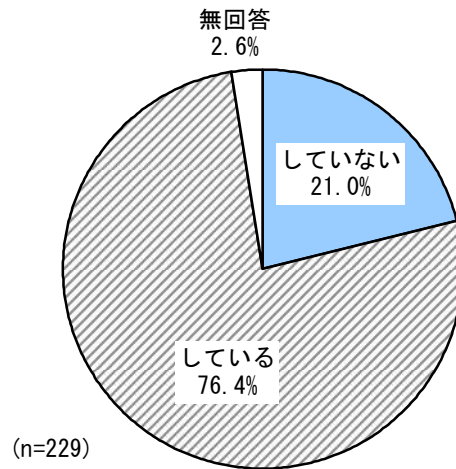
【図Ⅲ-2-3-① 性別・年齢別 子どもと一緒に食べない理由】



(4) 子どもの部活や塾、習い事の状況

問 あなたのお子さんは部活や塾に行ったり、習い事をしていますか。(どちらかに○)

【図Ⅲ-2-4 子どもの部活や塾、習い事の状況】

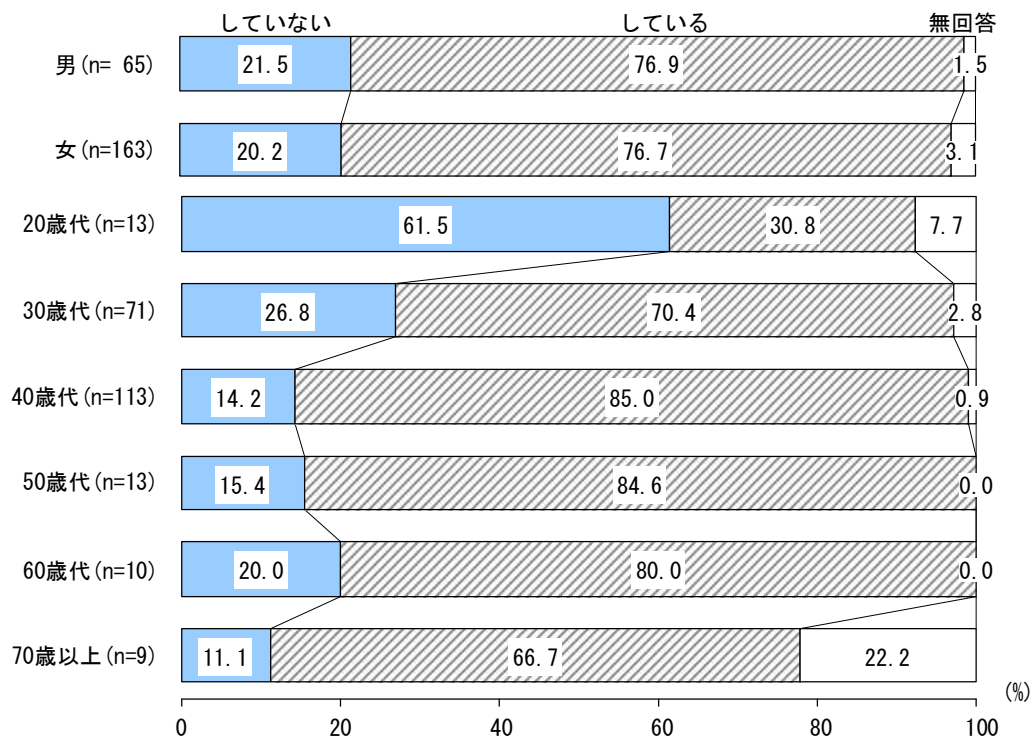


子どもの部活や塾、習い事の状況については、「している」が76.4%に対し、「していない」が21.0%となっている。(図Ⅲ-2-4)

性別でみても、大きな差はみられない。

年齢別でみると、「していない」は20歳代(61.5%)で最も高く、「している」は40～60歳代で8割台と高くなっている。(図Ⅲ-2-4-①)

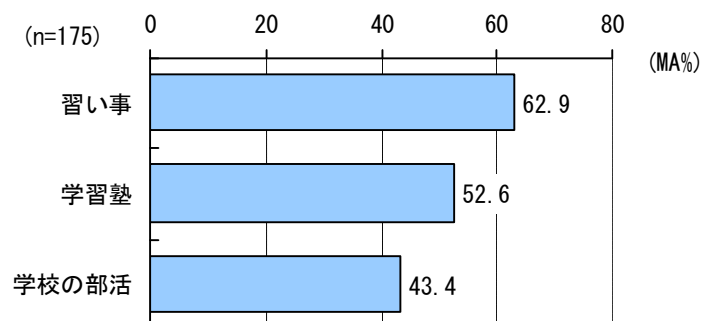
【図Ⅲ-2-4-① 性別・年齢別 子どもの部活や塾、習い事の状況】



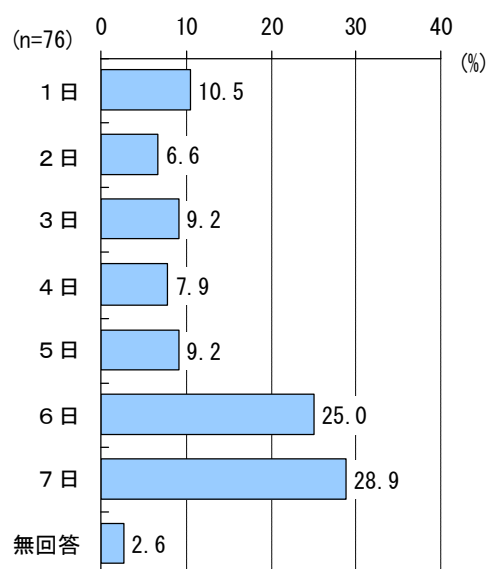
(5) 子どもの部活や塾、習い事の内容

問 何をしていますか。それは、週に何日、合計どれぐらいの時間ですか。
(あてはまるものすべてに○)

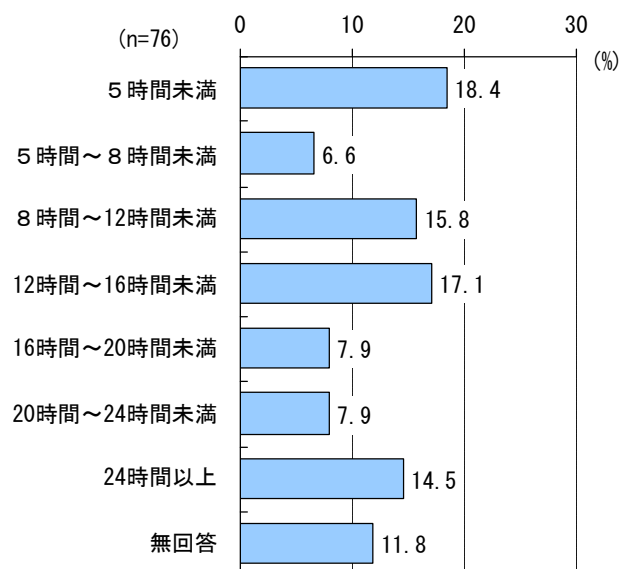
【図Ⅲ-2-5 部活や塾、習い事の内容】



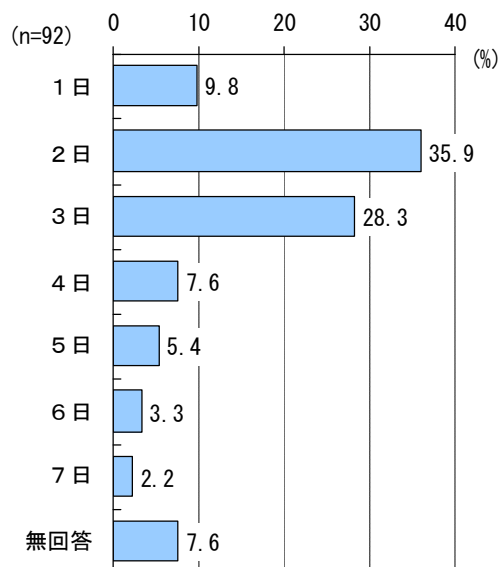
【図Ⅲ-2-5-1 学校の部活の活動日数/週】



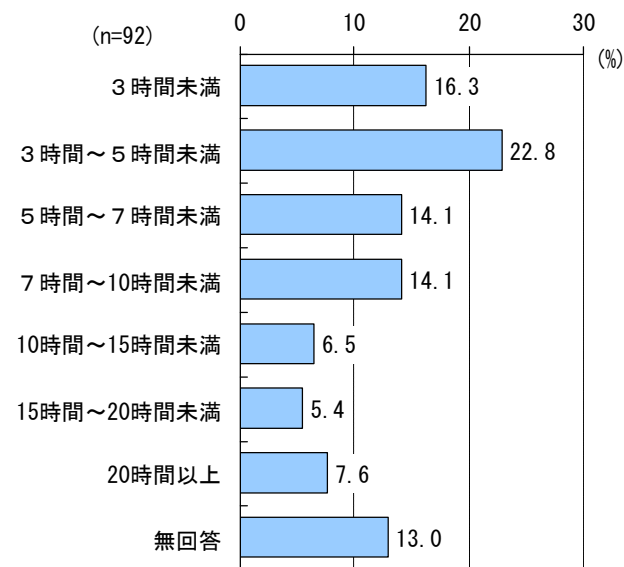
【図Ⅲ-2-5-2 学校の部活の活動時間数/週】



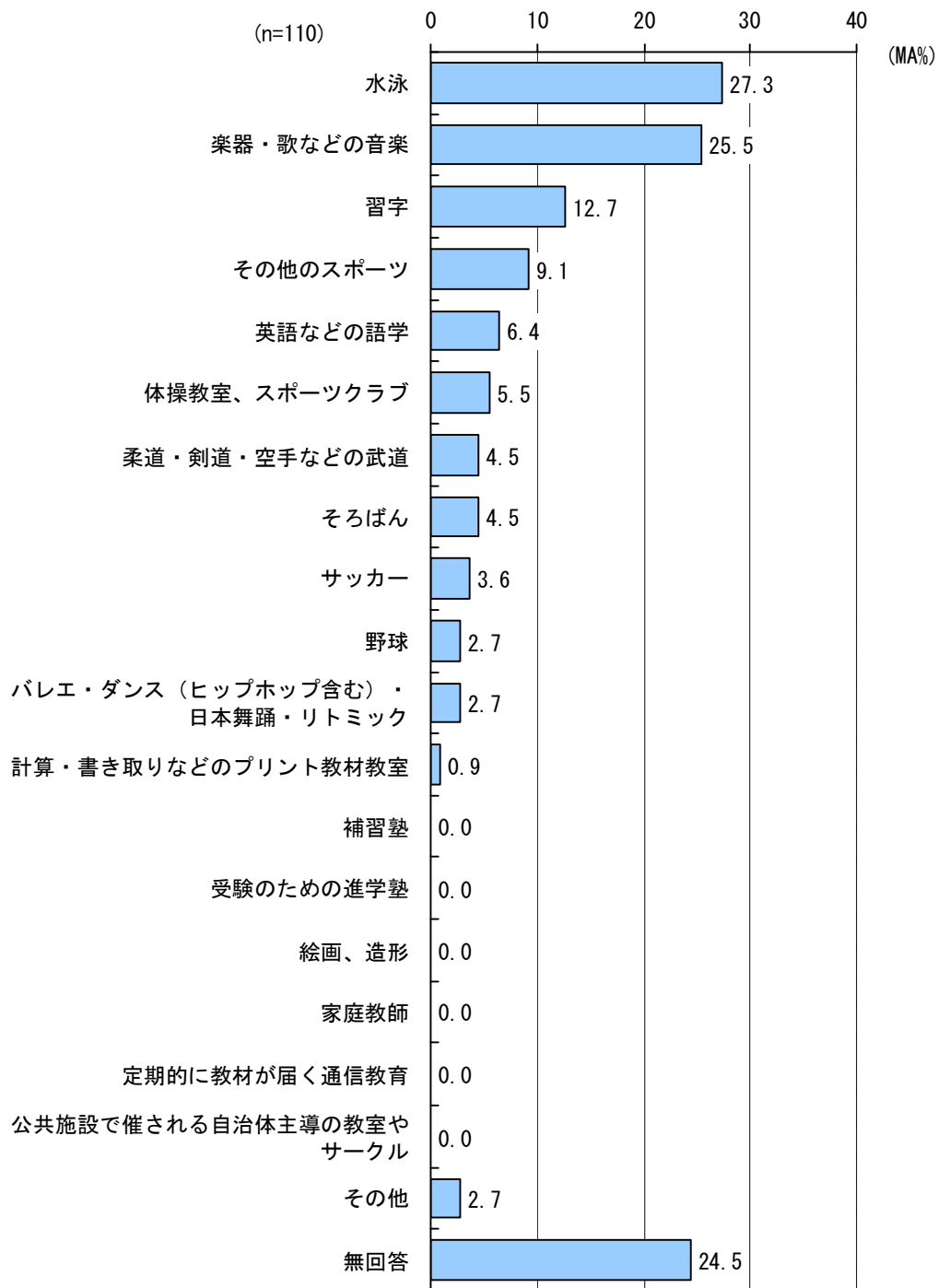
【図Ⅲ-2-5-3 学習塾に通っている日数/週】



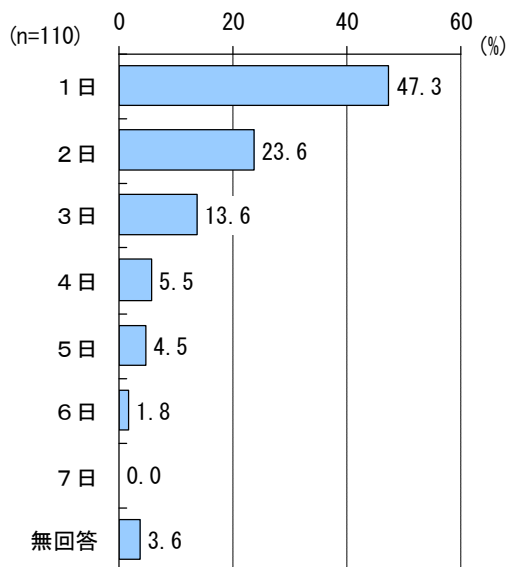
【図Ⅲ-2-5-4 学習塾に通っている時間数/週】



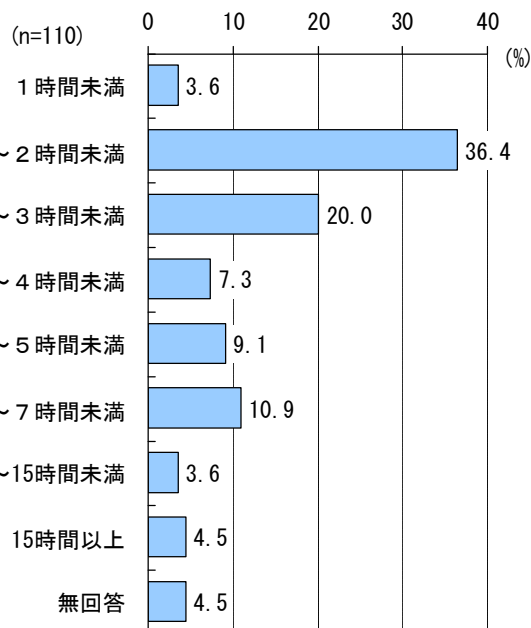
【図Ⅲ-2-5-5 通っている習い事】



【図Ⅲ-2-5-6 習い事に通っている日数/週】



【図Ⅲ-2-5-7 習い事に通っている時間数/週】



子どもが部活や塾、習い事をしていると回答した人に、その内容や通っている日数、時間についてたずねた。

内容は、「習い事」が62.9%で最も高く、次いで「学習塾」が52.6%、「学校の部活」が43.4%となっている。(図Ⅲ-2-5)

学校の部活の活動日数については、「7日」が28.9%で最も高く、次いで「6日」が25.0%であり、両方をあわせた週6日以上(53.9%)が約半数を占めている。また、平均日数は4.9日/週となっている。(図Ⅲ-2-5-1)

学校の部活の活動時間数については、「5時間未満」が18.4%で最も高く、次いで「12時間～16時間未満」が17.1%、「8時間～12時間未満」が15.8%となっており、平均時間は12.9時間/週となっている。(図Ⅲ-2-5-2)

学習塾に通っている日数については、「2日」が35.9%で最も高く、次いで「3日」が28.3%、「1日」が9.8%となっている。また、平均日数は2.8日/週となっている。(図Ⅲ-2-5-3)

学習塾に通っている時間数については、「3時間～5時間未満」が22.8%で最も高く、次いで「3時間未満」が16.3%、「5時間～7時間未満」と「7時間～10時間未満」が共に14.1%となっている。また、平均時間は、7.6時間/週となっている。(図Ⅲ-2-5-4)

通っている習い事については、「水泳」が27.3%で最も高く、次いで「楽器・歌などの音楽」が25.5%、「習字」が12.7%となっている。(図Ⅲ-2-5-5)

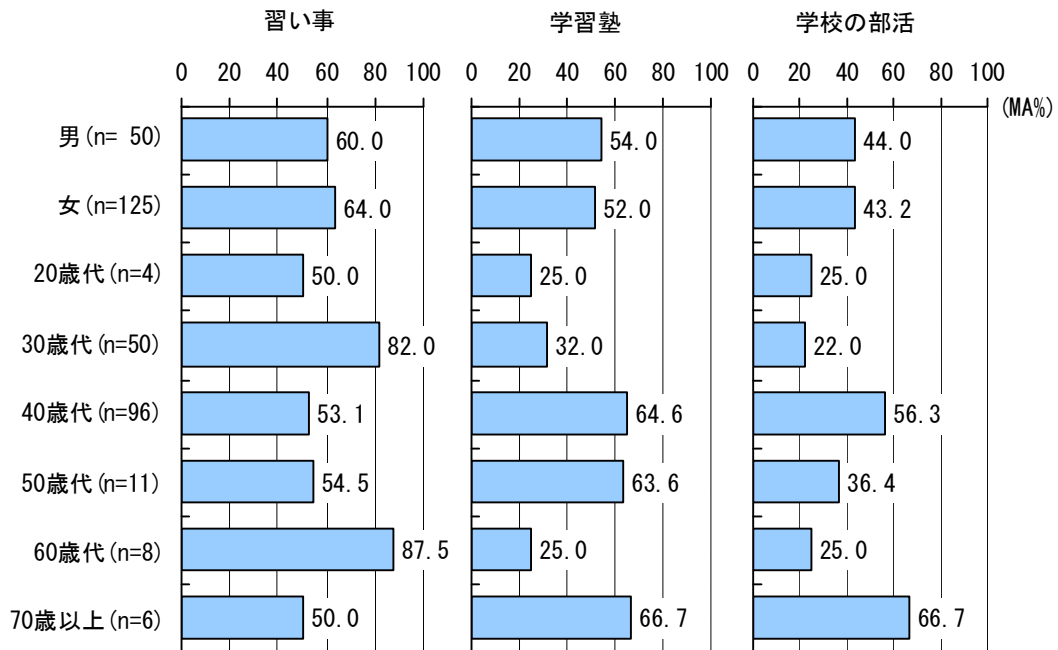
通い事に通っている日数については、「1日」が47.3%で最も高く、次いで「2日」が23.6%、「3日」が13.6%であり、平均日数は2.0日/週となっている。(図Ⅲ-2-5-6)

通い事に通っている時間数については、「1時間～2時間未満」が36.4%で最も高く、次いで「2時間～3時間未満」が20.0%、「5時間～7時間未満」が10.9%であり、平均時間は3.3時間/週となっている。(図Ⅲ-2-5-7)

内容について、性別でみると、男女とも「習い事」が最も高く、男(60.0%)より女(64.0%)のほうが4.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、20・30・60歳代は「習い事」が最も高いが、40・50歳代は「学習塾」が最も高くなっている。(図Ⅲ-2-5-①)

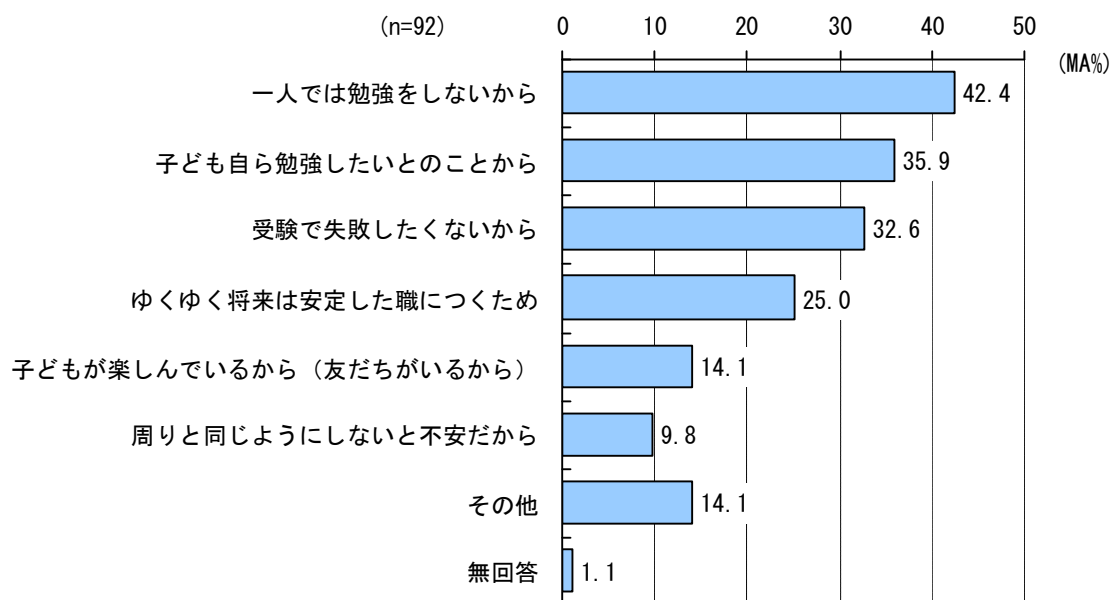
【図Ⅲ-2-5-① 性別・年齢別 部活や塾、習い事の内容】



(6) 子どもが学習塾に通っている理由

問 お子さんが学習塾に通っているのはどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

【図Ⅲ-2-6 子どもが学習塾に通っている理由】

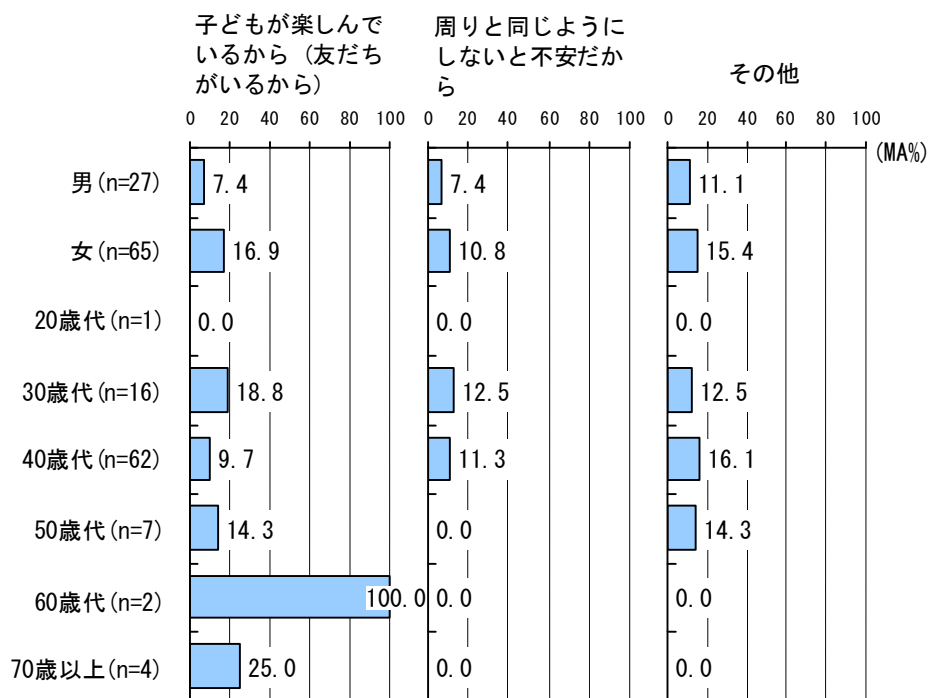
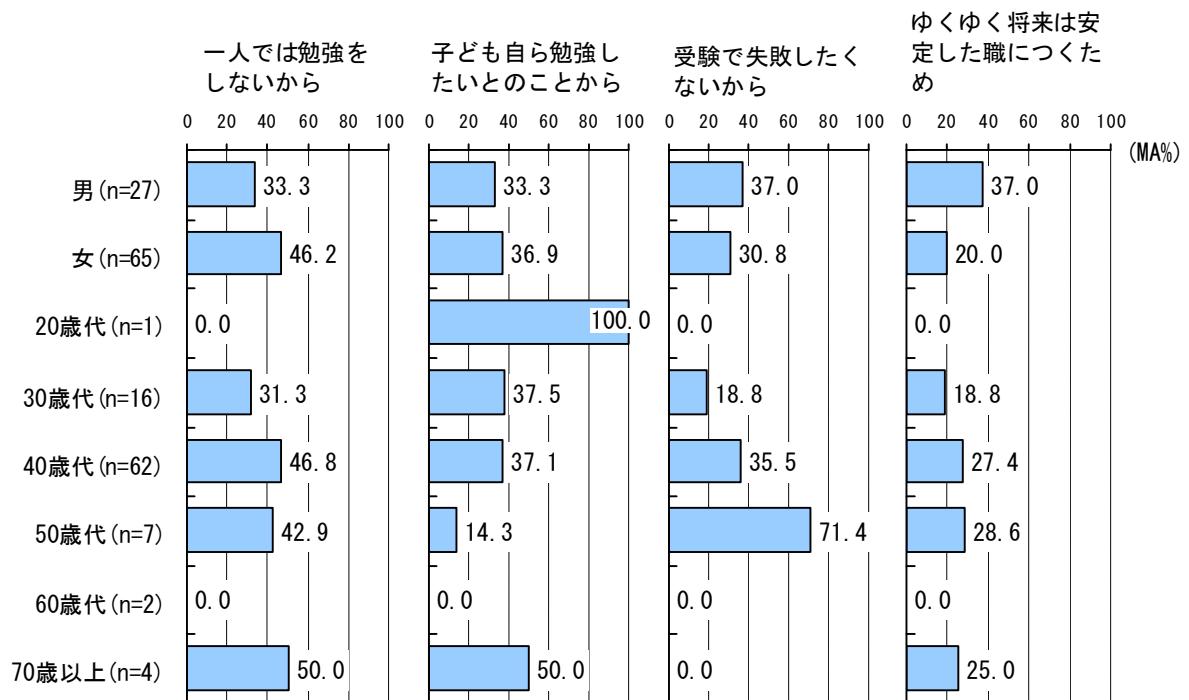


子どもが学習塾に通っていると回答した人に、通っている理由をたずねると、「一人では勉強をしないから」が42.4%で最も高く、次いで「子ども自ら勉強したいとのことから」が35.9%、「受験で失敗したくないから」が32.6%となっている。(図Ⅲ-2-6)

性別でみると、「一人では勉強をしないから」は男 (33.3%) より女 (46.2%) のほうが12.9ポイント高く、「ゆくゆく将来は安定した職につくため」は女 (20.0%) より男 (37.0%) のほうが17.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、30歳代は「子ども自ら勉強したいとのことから」(37.5%) が、40歳代は「一人では勉強をしないから」(46.8%)、50歳代は「受験で失敗したくないから」(71.4%) が最も高くなっている。(図Ⅲ-2-6-①)

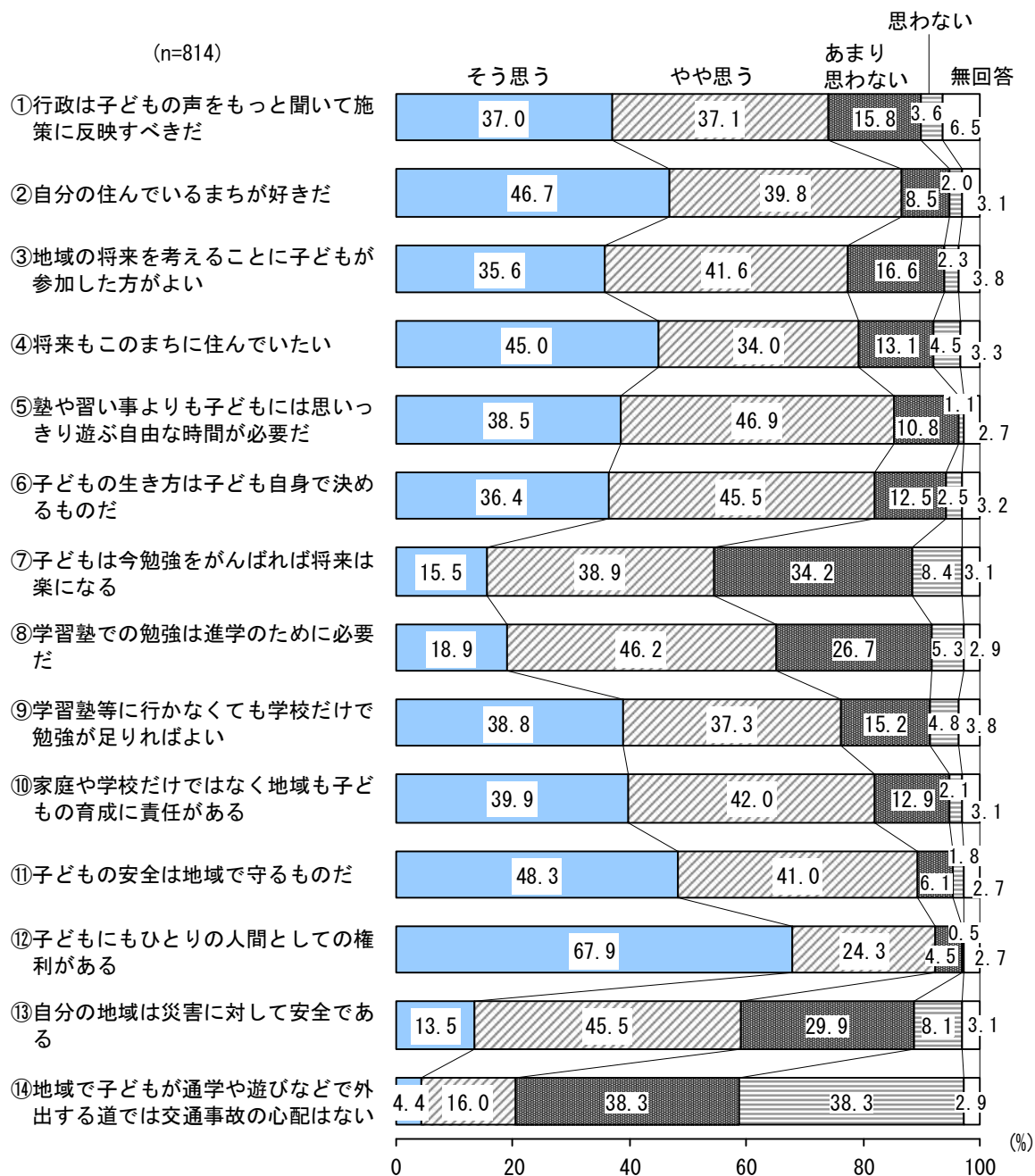
【図Ⅲ-2-6-① 性別・年齢別 子どもが学習塾に通っている理由】



(7) 自分や子ども、地域に対する意識

問 次の設問について、あなたはどのように思いますか。(設問ごとにあてはまるもの1つに○)

【図Ⅲ-2-7 自分や子ども、地域に対する意識】



自分や子ども、地域に対する意識についてたずねた。

「そう思う」が最も高いのは、「⑫子どもにもひとりの人間としての権利がある」(67.9%)であり、次いで「⑪子どもの安全は地域で守るものだ」(48.3%)、「②自分の住んでいるまちが好きだ」(46.7%)となっており、「やや思う」をあわせた肯定的意見も「⑫子どもにもひとりの人間としての権利がある」(92.2%)が最も高く、次いで「⑪子どもの安全は地域で守るものだ」(89.3%)、「②自分の住んでいるまちが好きだ」(86.5%)となっている。

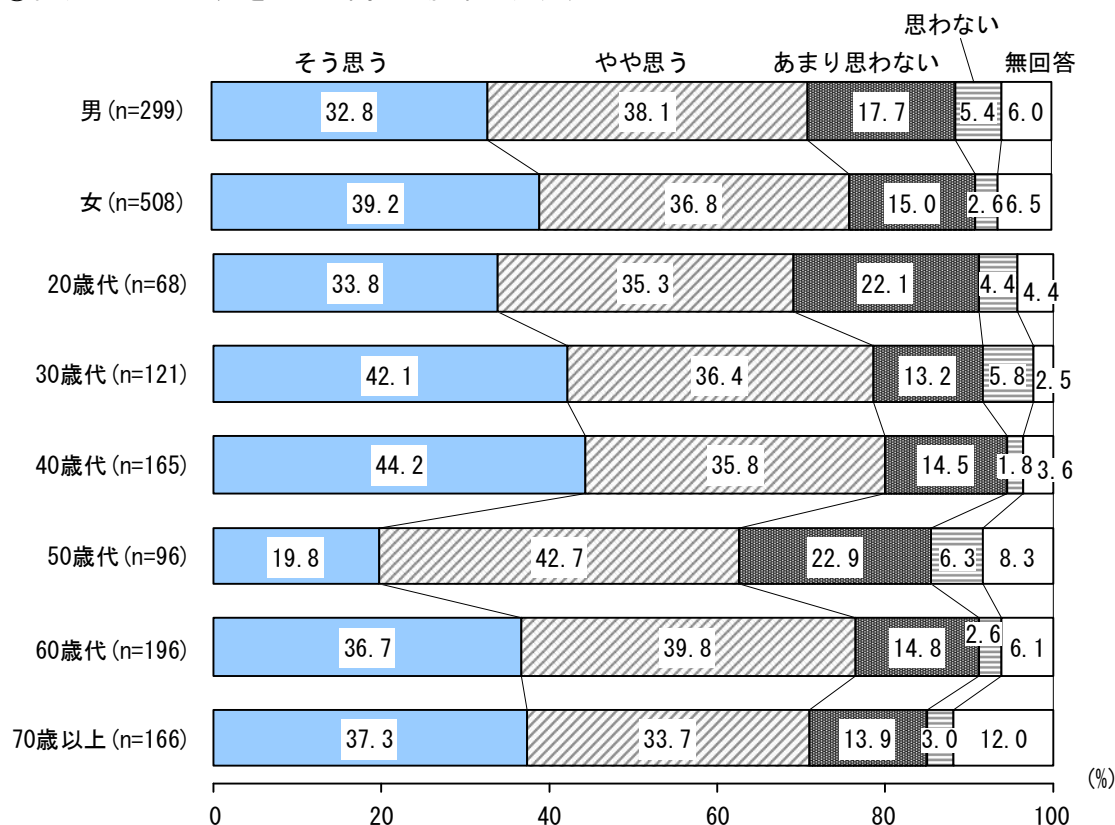
一方、否定的意見（「あまり思わない」と「思わない」をあわせた割合）は、“⑭地域で子どもが通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない”が76.6%で最も高く、次いで“⑦子どもは今勉強をがんばれば将来は楽になる”が42.6%、“⑬自分の地域は災害に対して安全である”が38.0%となっている。（図Ⅲ-2-7）

性別でみると、“①行政は子どもの声をもっと聞いて施策に反映すべきだ”、“③地域の将来を考えることに子どもが参加した方がよい”、“⑧学習塾での勉強は進学のために必要だ”、“⑬自分の地域は災害に対して安全である”の肯定的意見の割合は男性に比べて女のほうが5ポイント以上高くなっている。

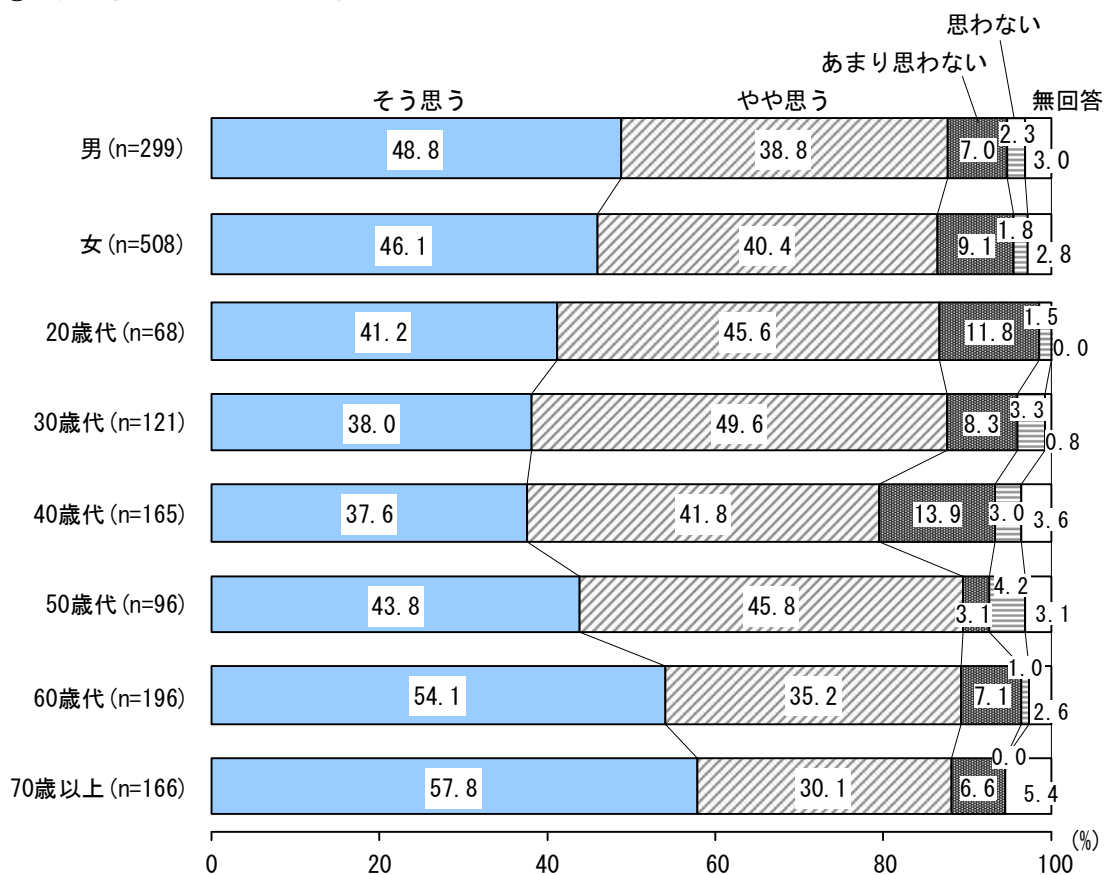
年齢別でみると、“⑧学習塾での勉強は進学のために必要だ”の肯定的意見は40歳代を境に減少傾向にあり、70歳以上（56.1%）が最も低くなっている。一方、“⑭地域で子どもが通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない”の肯定的意見は70歳以上が35.5%で最も高くなっている。（図Ⅲ-2-7-①、①～⑦）

【図Ⅲ-2-7-① 性別・年齢別 自分や子ども、地域に対する意識①】

①行政は子どもの声をもっと聞いて施策に反映すべきだ

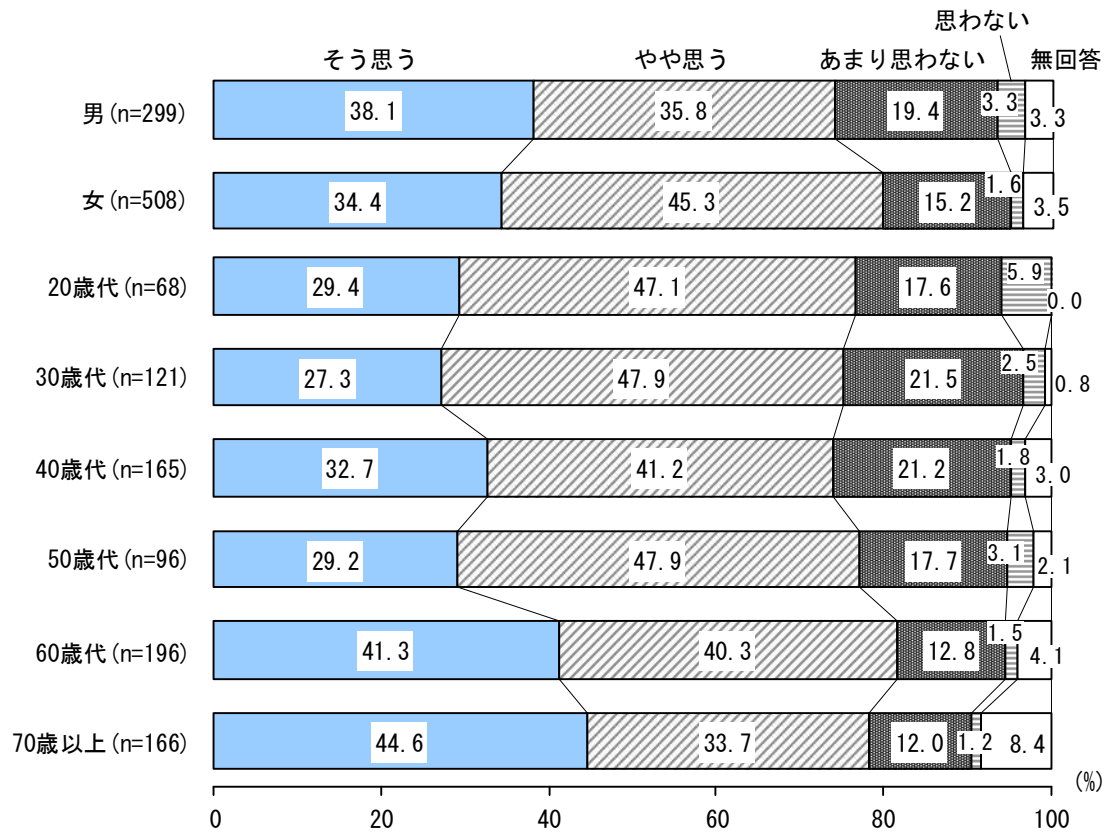


②自分の住んでいるまちが好きだ

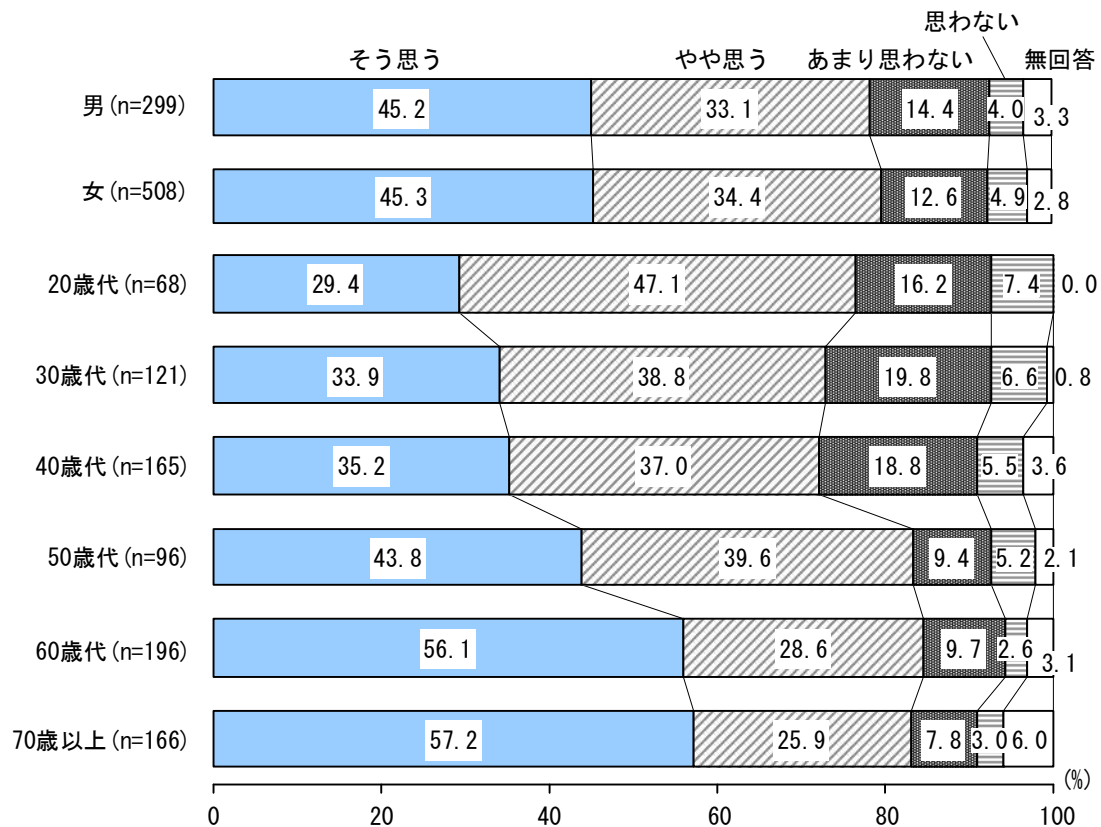


【図Ⅲ-2-7-① 性別・年齢別 自分や子ども、地域に対する意識②】

③地域の将来を考えることに子どもが参加した方がよい

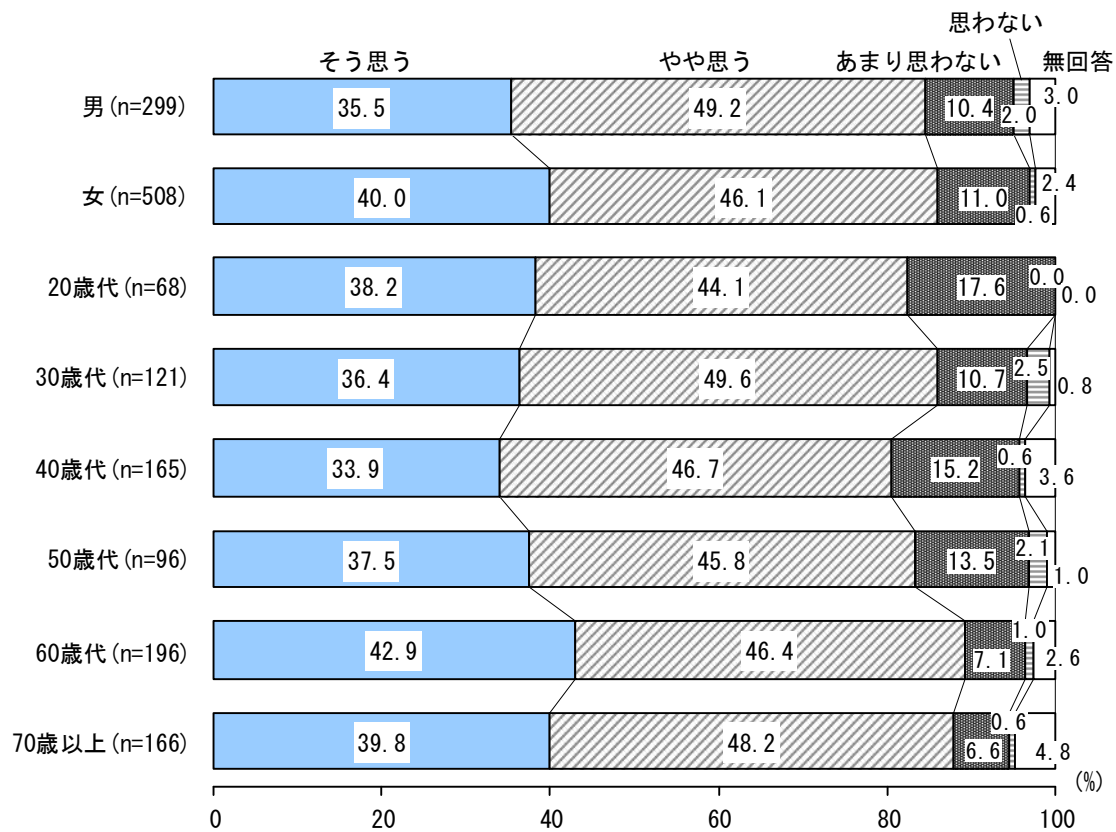


④将来もこのまちに住んでいたい

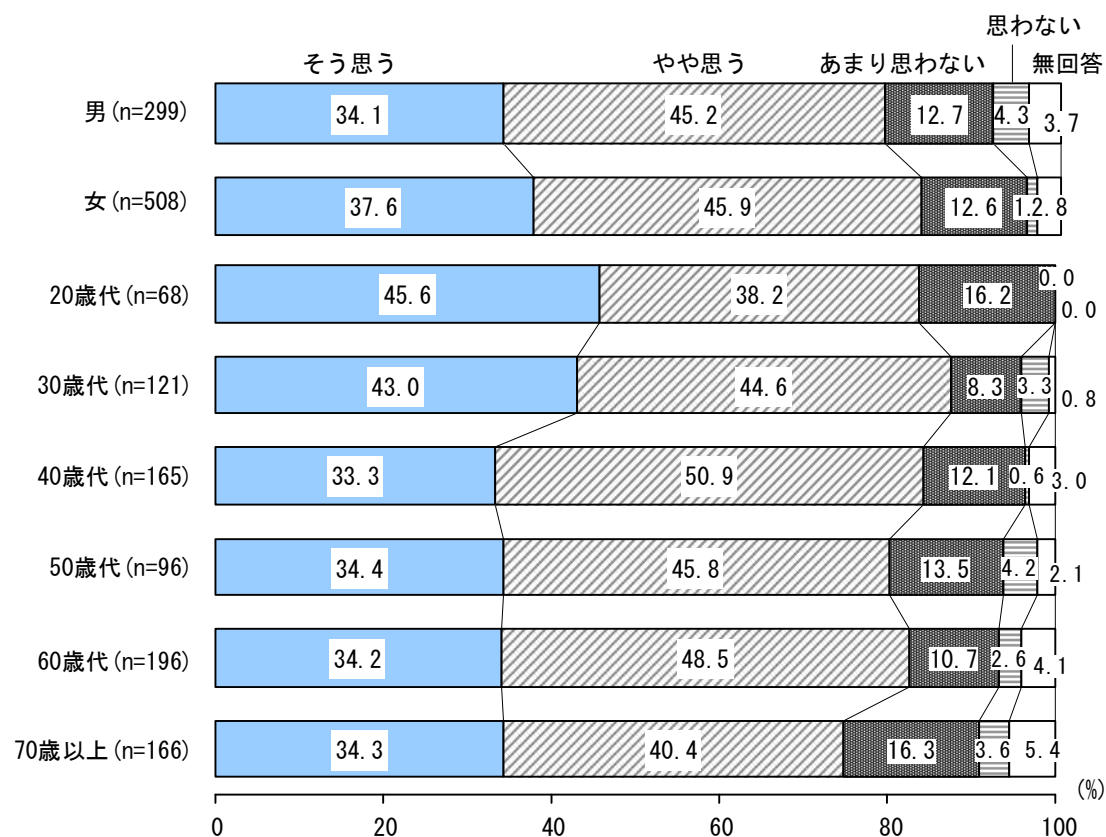


【図Ⅲ-2-7-① 性別・年齢別 自分や子ども、地域に対する意識③】

⑤塾や習い事よりも子どもには思いっきり遊ぶ自由な時間が必要だ

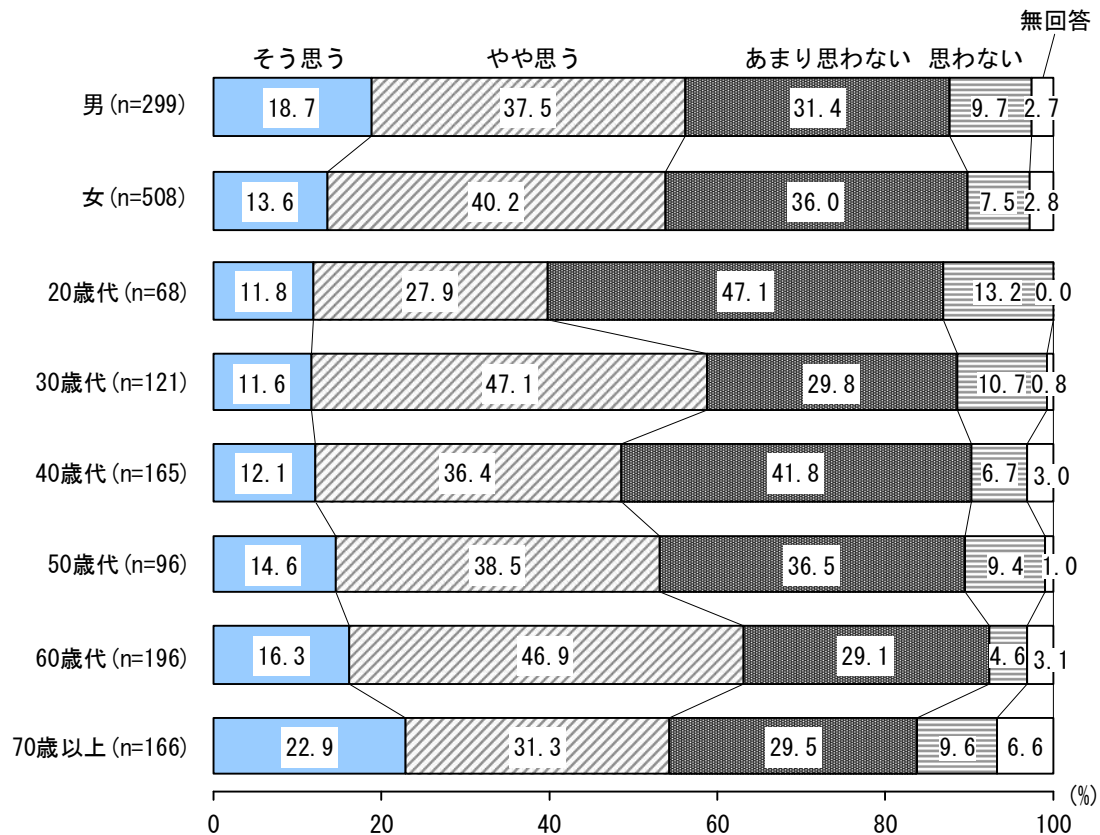


⑥子どもの生き方は子ども自身で決めるものだ

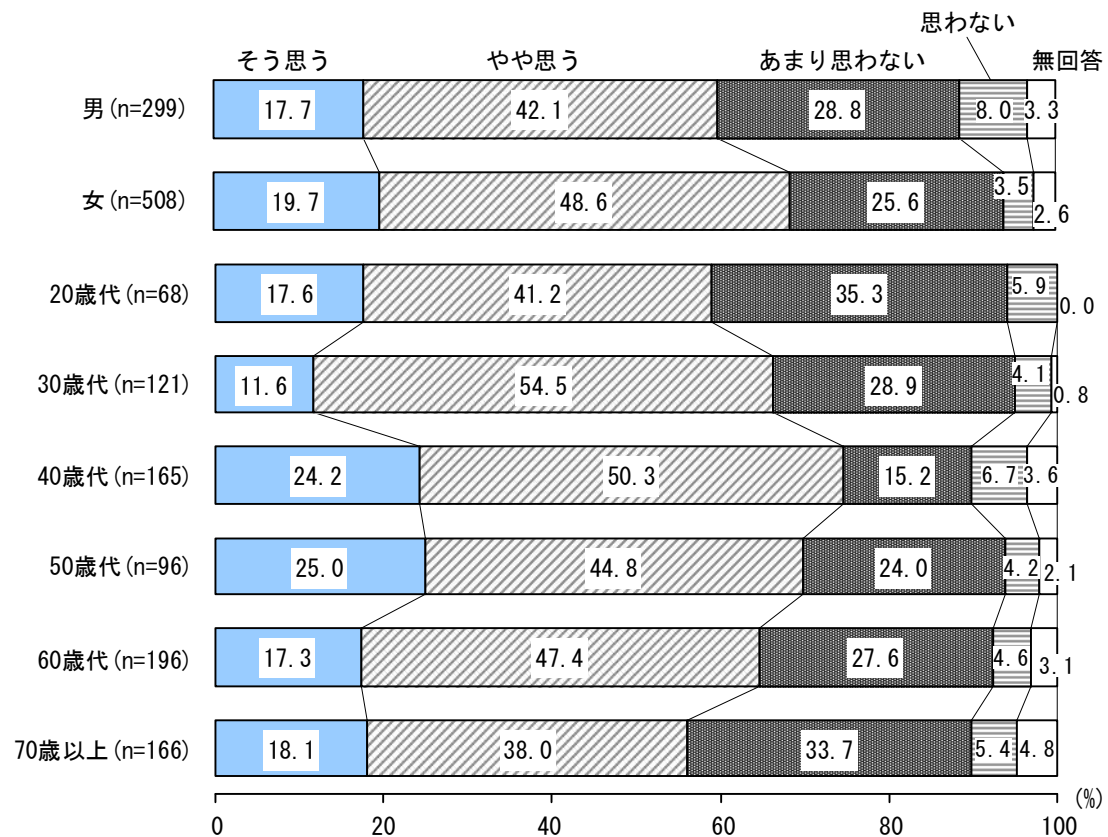


【図Ⅲ-2-7-① 性別・年齢別 自分や子ども、地域に対する意識④】

⑦子どもは今勉強をがんばれば将来は楽になる

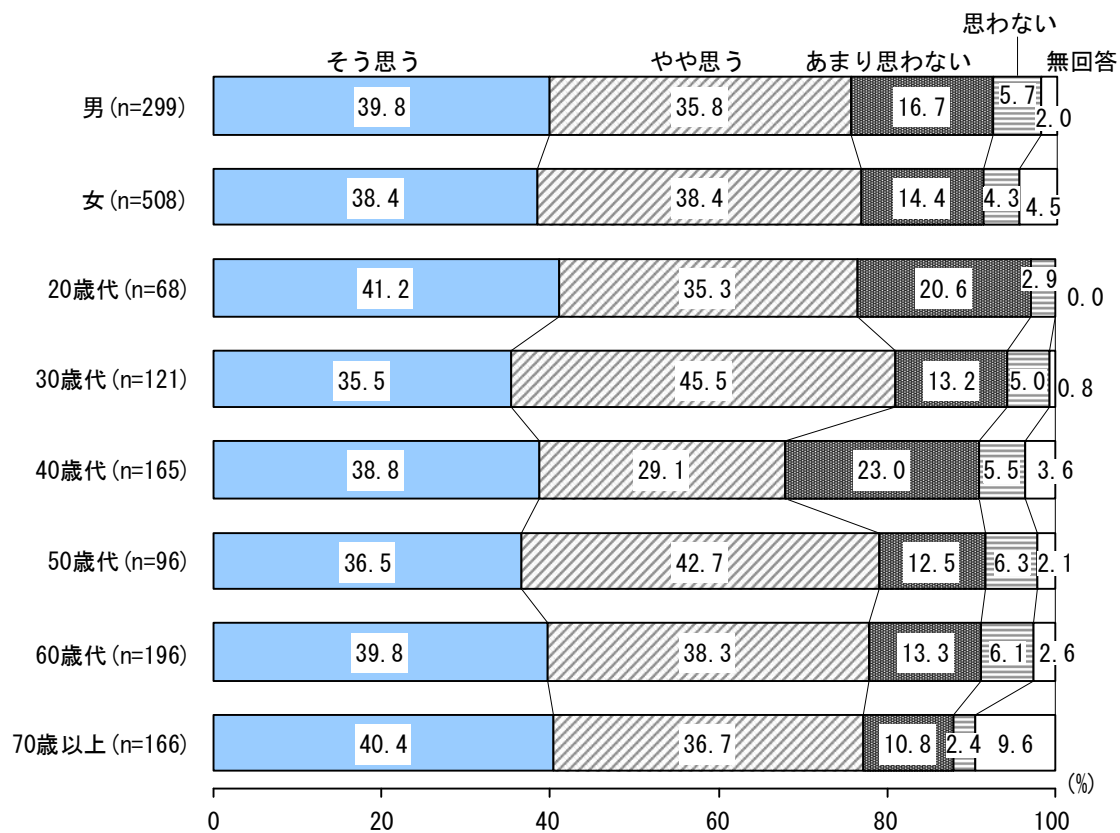


⑧学習塾での勉強は進学のために必要だ

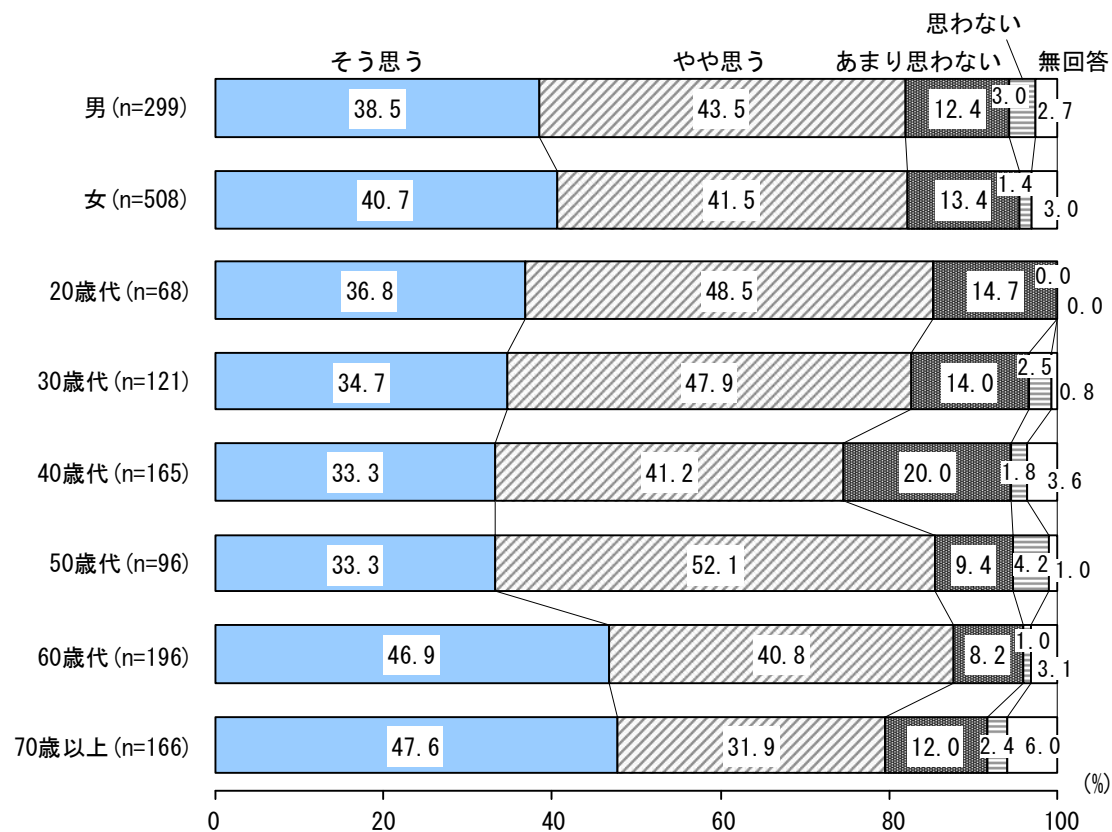


【図Ⅲ-2-7-① 性別・年齢別 自分や子ども、地域に対する意識⑤】

⑨学習塾等に行かなくても学校だけで勉強が足りればよい

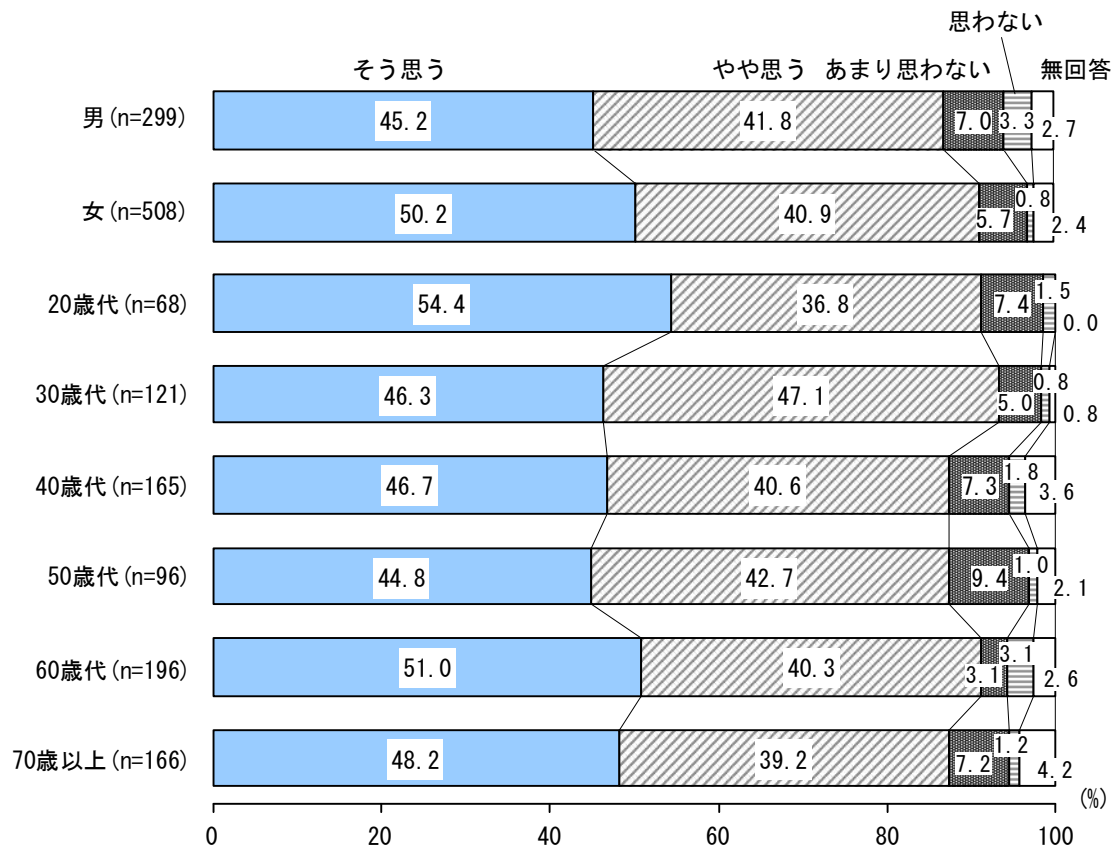


⑩家庭や学校だけではなく地域も子どもの育成に責任がある

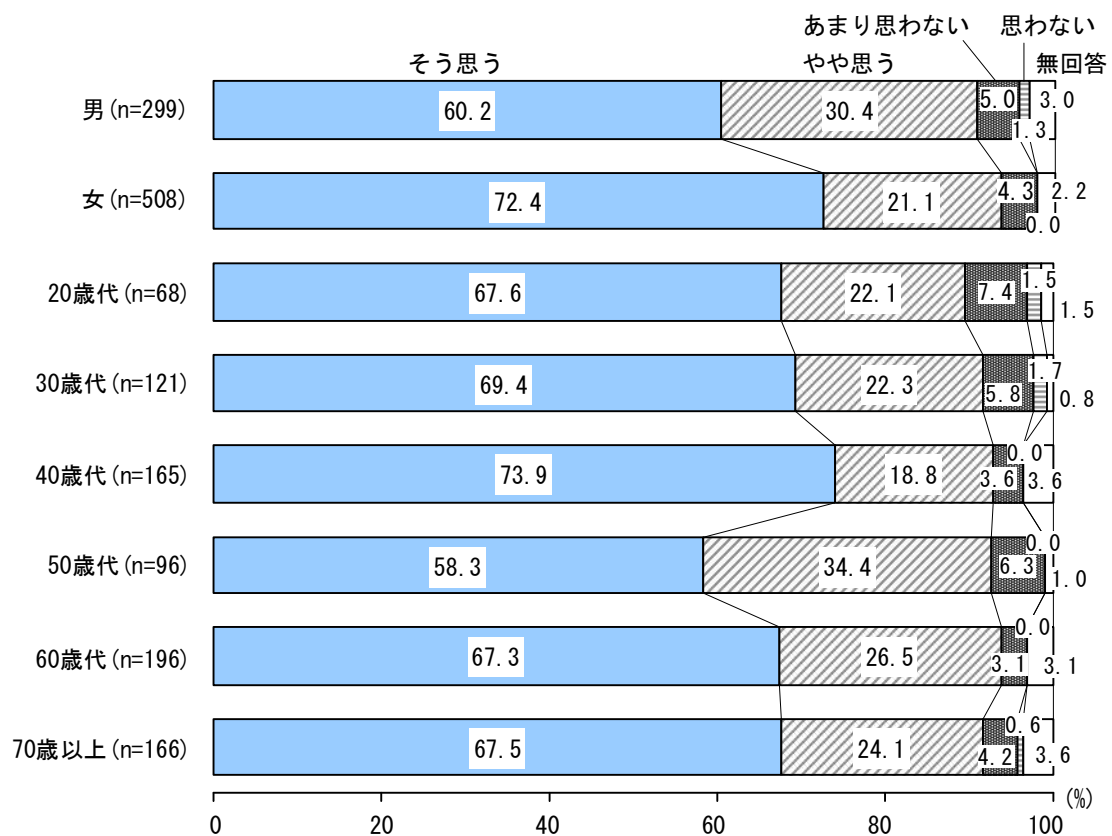


【図Ⅲ-2-7-① 性別・年齢別 自分や子ども、地域に対する意識⑥】

⑪子どもの安全は地域で守るものだ

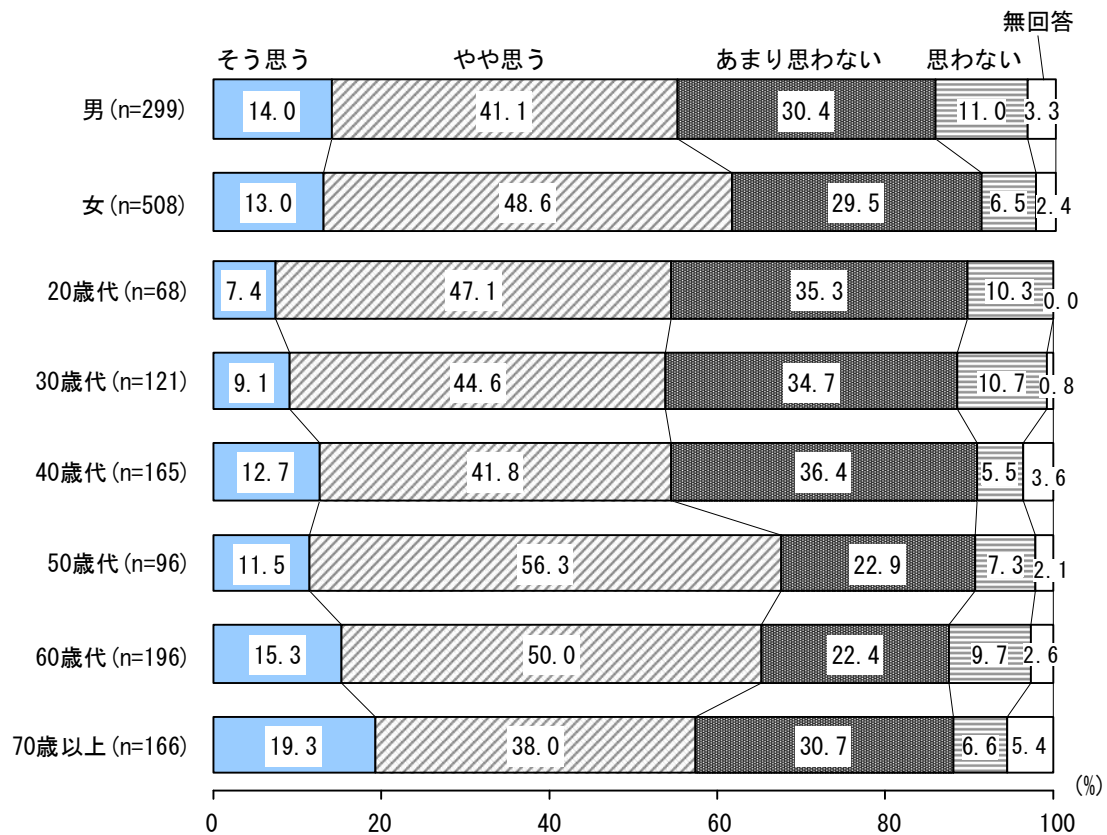


⑫子どもにもひとりの人間としての権利がある

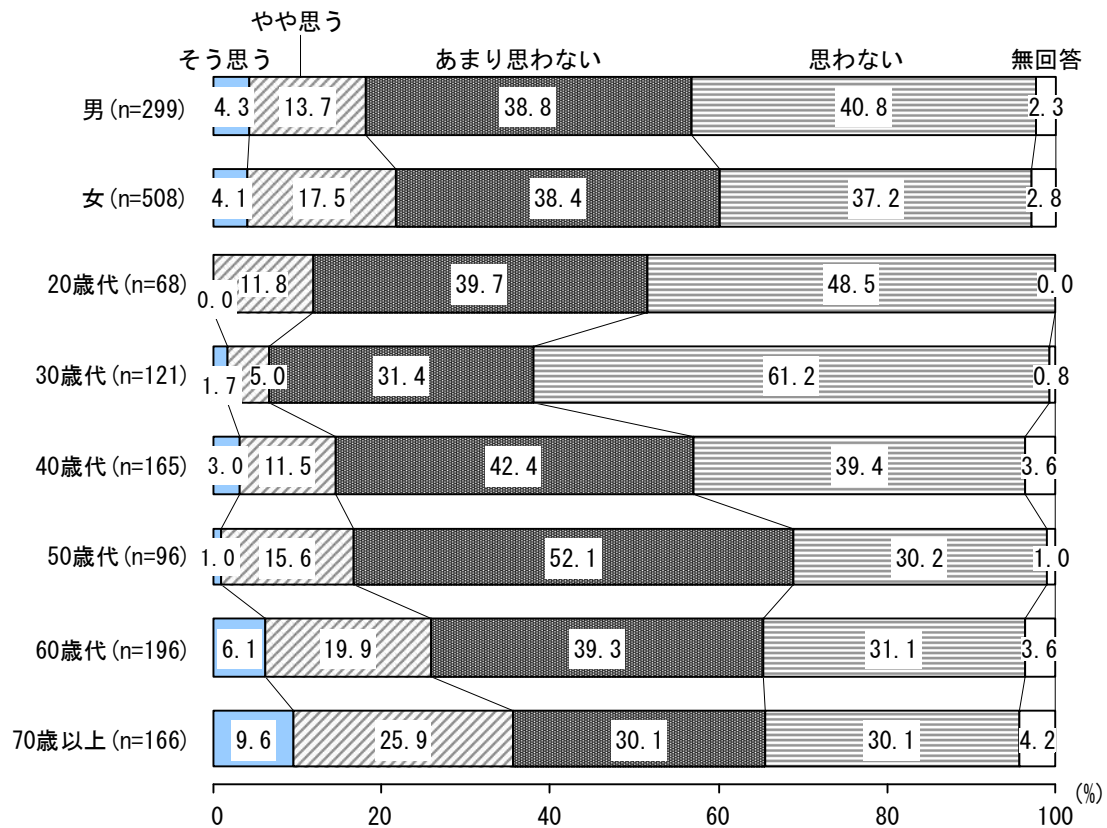


【図Ⅲ-2-7-① 性別・年齢別 自分や子ども、地域に対する意識⑦】

⑬自分の地域は災害に対して安全である



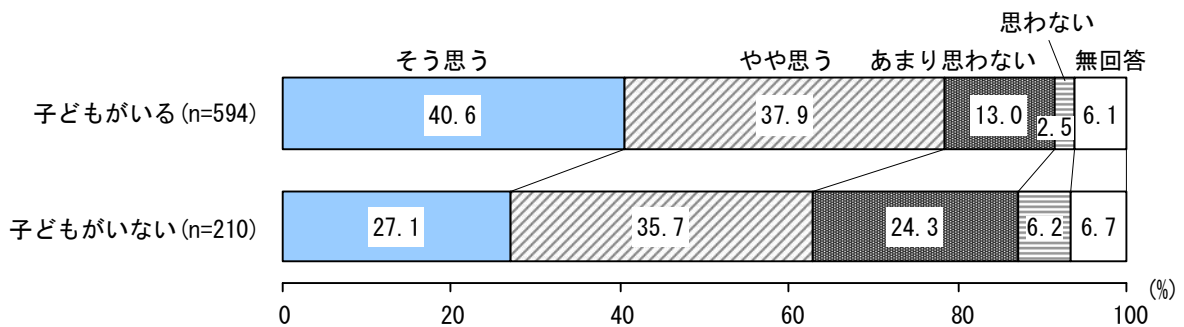
⑭地域で子どもが通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない



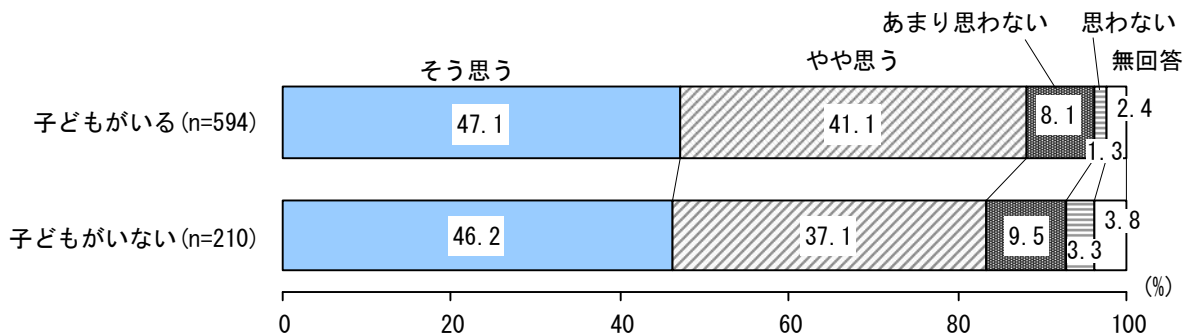
子どもの有無別でみると、“⑭地域で子どもが通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない”以外の項目で子どもがいる人のほうが肯定的意見が高くなっている。そのうち、差が大きいのは、“①行政は子どもの声をもっと聞いて施策に反映すべきだ”（15.7ポイント差）、“⑧学習塾での勉強は進学のために必要だ”（15.7ポイント差）、“⑫子どもにもひとりの人間としての権利がある”（10.7ポイント差）、“⑬自分の地域は災害に対して安全である”（8.4ポイント差）となっている。（図Ⅲ-2-7-②、①～④）

【図Ⅲ-2-7-② 子どもの有無別 自分や子ども、地域に対する意識①】

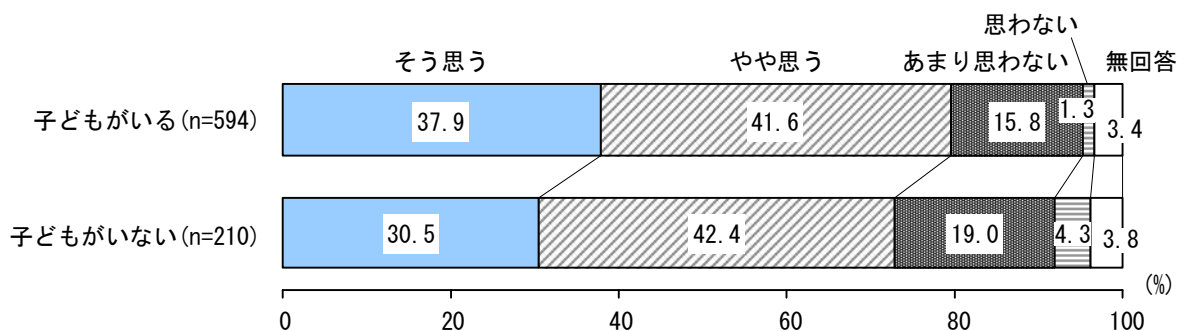
①行政は子どもの声をもっと聞いて施策に反映すべきだ



②自分の住んでいるまちが好きだ

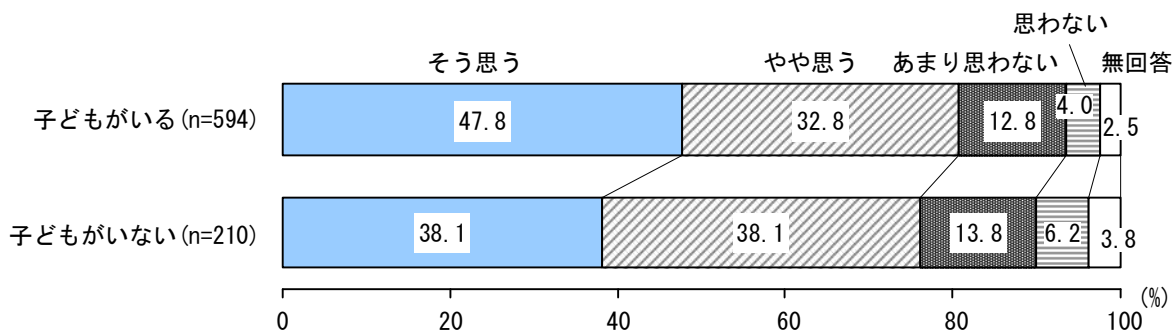


③地域の将来を考えることに子どもが参加した方がよい

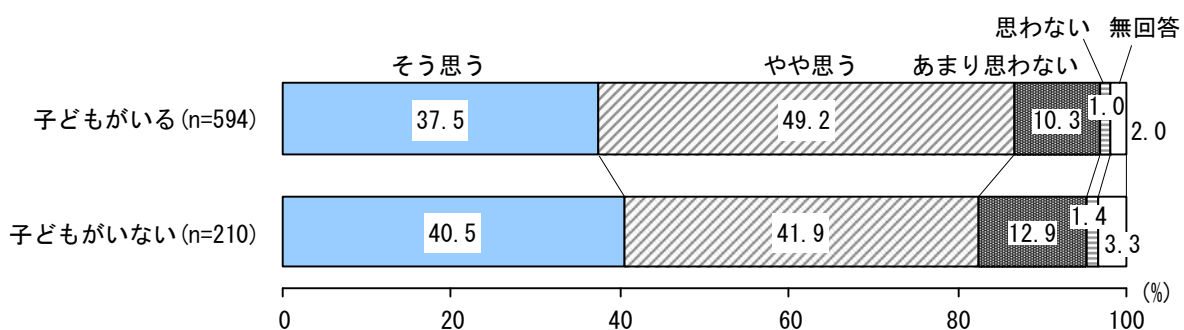


【図Ⅲ-2-7-② 子どもの有無別 自分や子ども、地域に対する意識②】

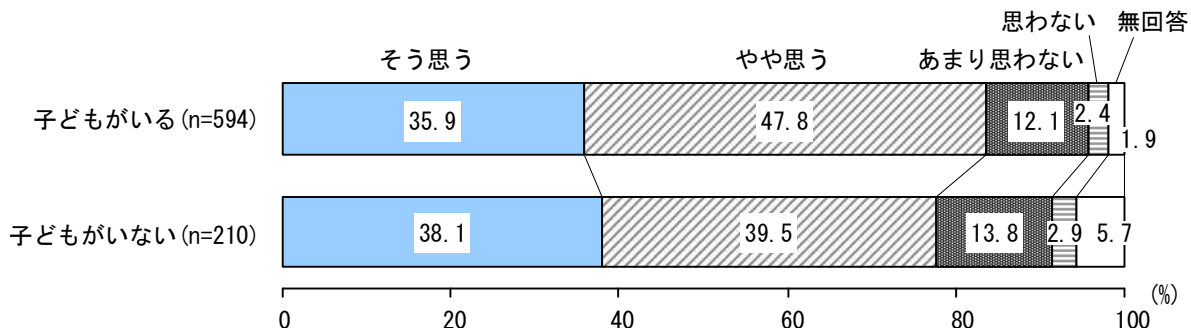
④将来もこのまちに住んでいたい



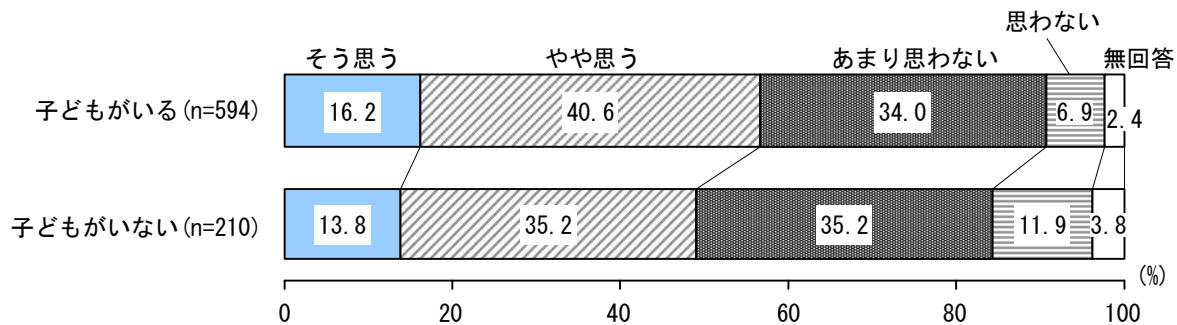
⑤塾や習い事よりも子どもには思いっきり遊ぶ自由な時間が必要だ



⑥子どもの生き方は子ども自身で決めるものだ

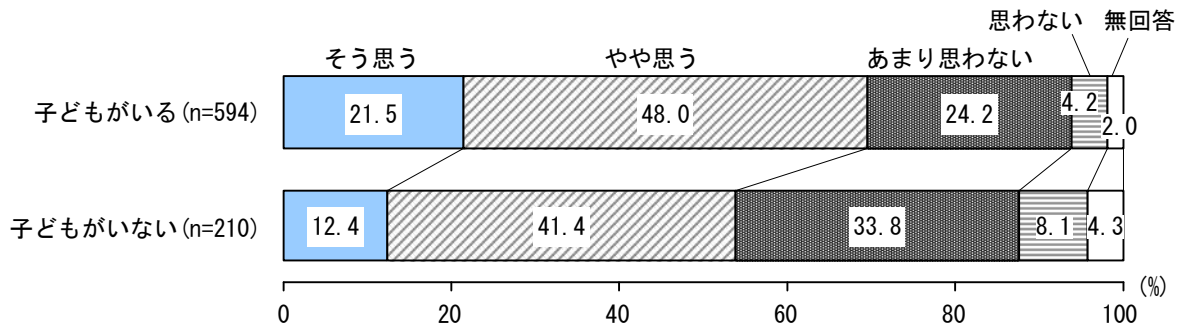


⑦子どもは今勉強をがんばれば将来は楽になる

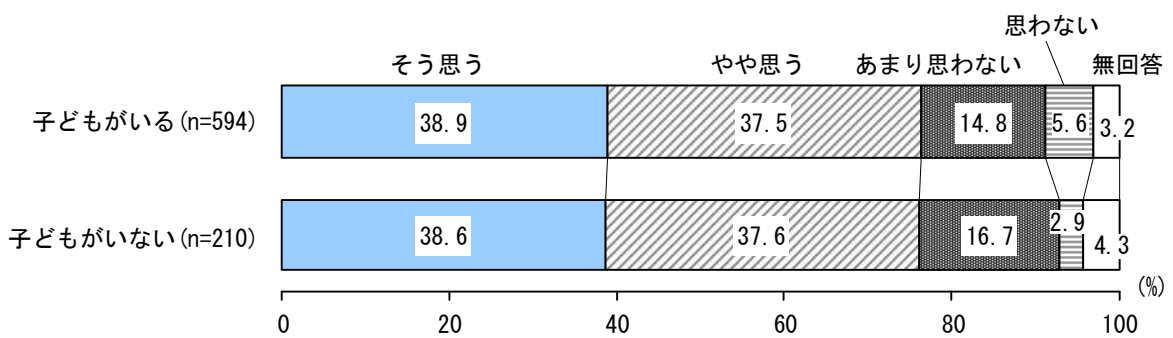


【図Ⅲ-2-7-② 子どもの有無別 自分や子ども、地域に対する意識③】

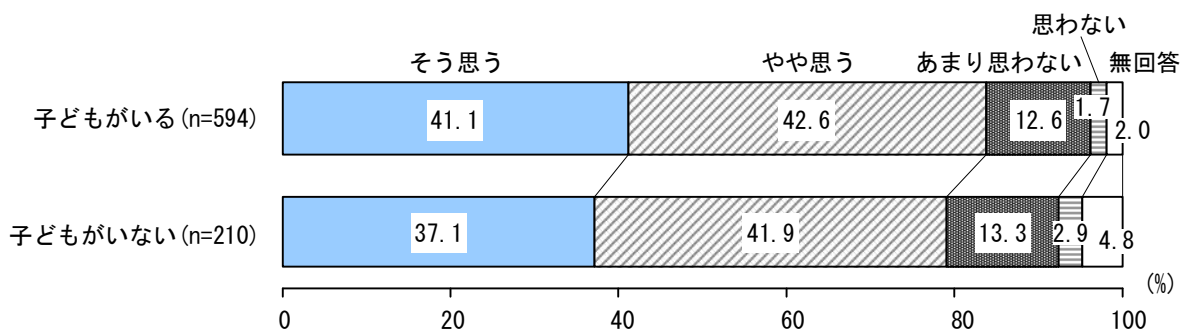
⑧学習塾での勉強は進学のために必要だ



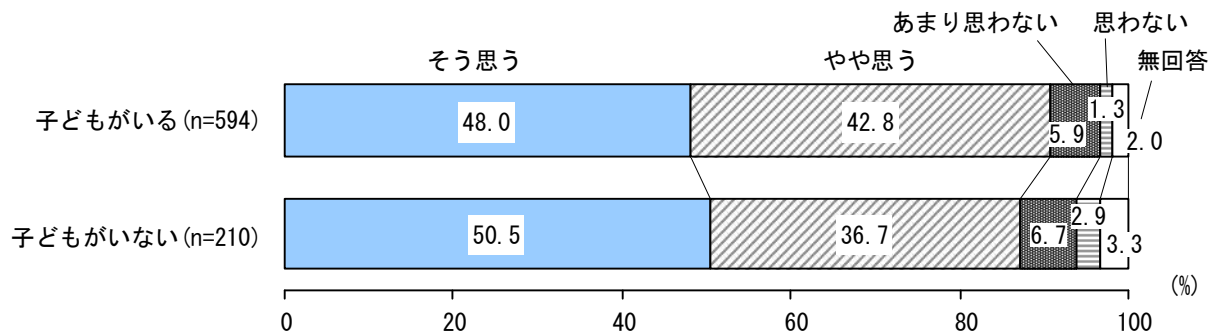
⑨学習塾等に行かなくても学校だけで勉強が足りればよい



⑩家庭や学校だけではなく地域も子どもの育成に責任がある

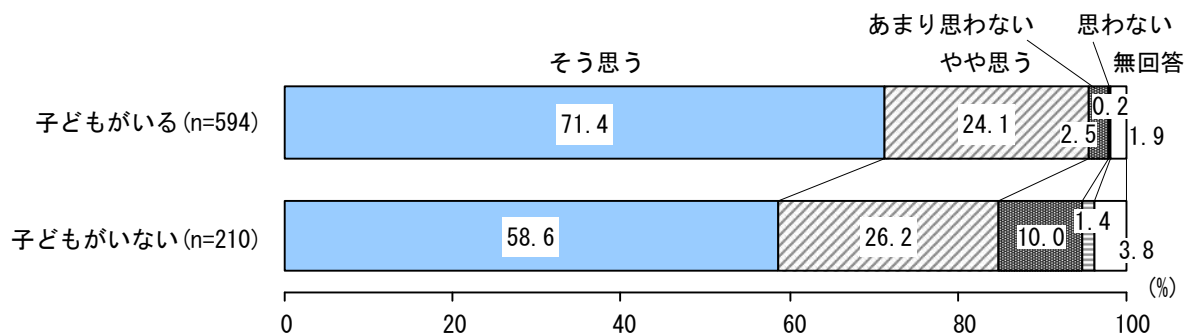


⑪子どもの安全は地域で守るものだ

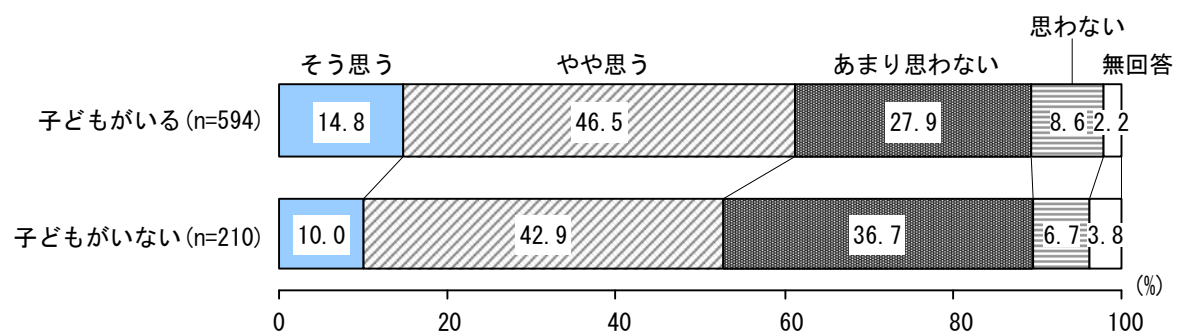


【図Ⅲ-2-7-② 子どもの有無別 自分や子ども、地域に対する意識④】

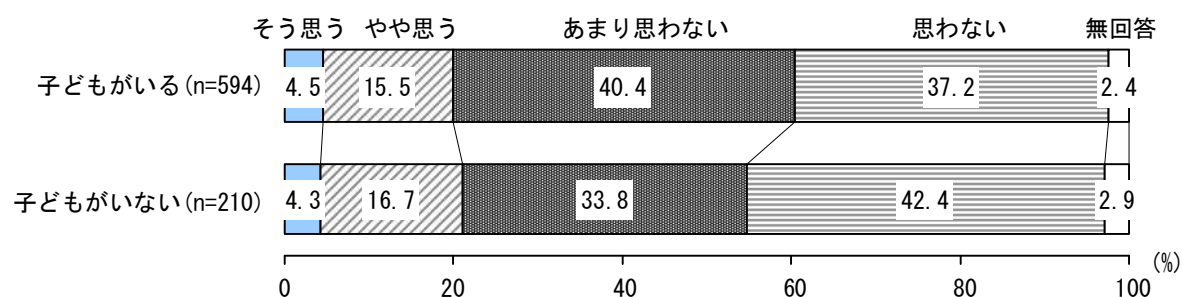
⑫子どもにもひとりの人間としての権利がある



⑬自分の地域は災害に対して安全である



⑭地域で子どもが通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない

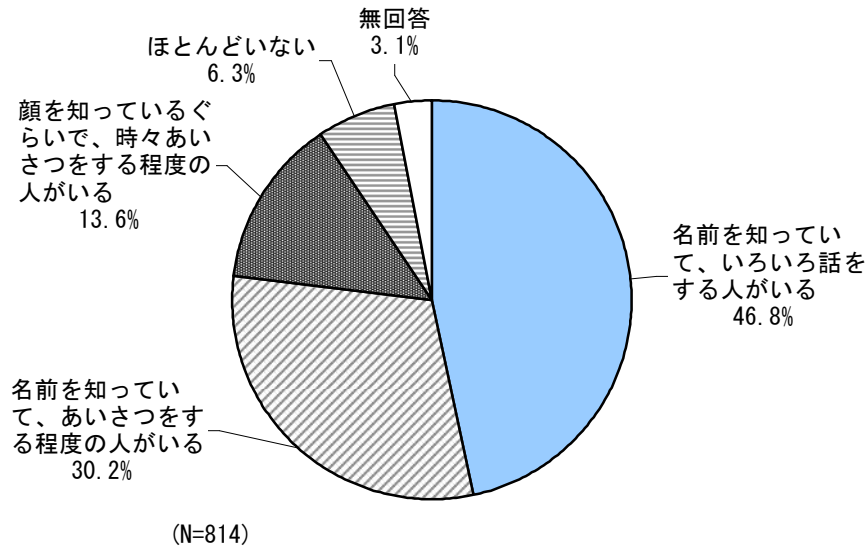


3. 地域での生活状況

(1) 近所に会話をする人の有無

問 あなたは、近所に話をしたりする人はいますか。(最もあてはまるものに○は1つだけ)

【図Ⅲ-3-1 近所で会話をする人の有無】

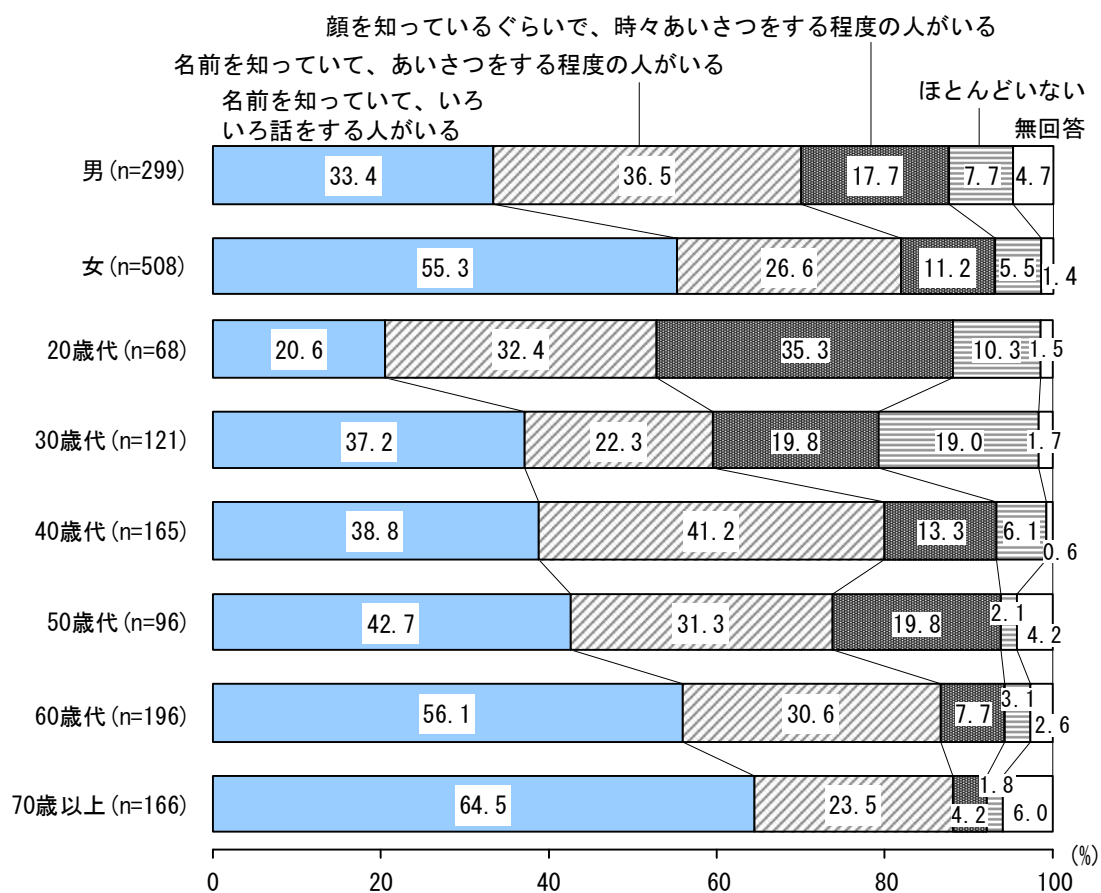


近所で会話をする人の有無については、「名前を知っていて、いろいろ話をする人がいる」が46.8%で最も高く、次いで「名前を知っていて、あいさつをする程度の人がある」が30.2%、「顔を知っているぐらいで、時々あいさつをする程度の人がある」が13.6%となっている。(図Ⅲ-3-1)

性別でみると、男は「名前を知っていて、あいさつをする程度の人がある」(36.5%)が最も高いが、女は「名前を知っていて、いろいろ話をする人がいる」(55.3%)が最も高くなっている。

年齢別でみると、「名前を知っていて、いろいろ話をする人がいる」は年齢が上がるにつれて割合が高くなり、70歳以上(64.5%)で最も高くなっている。一方、20歳代では「顔を知っているぐらいで、時々あいさつをする程度の人がある」(35.3%)が最も高くなっている。また、30歳代では「ほとんどいない」が19.0%と、他の年代に比べて高くなっている。(図Ⅲ-3-1-①)

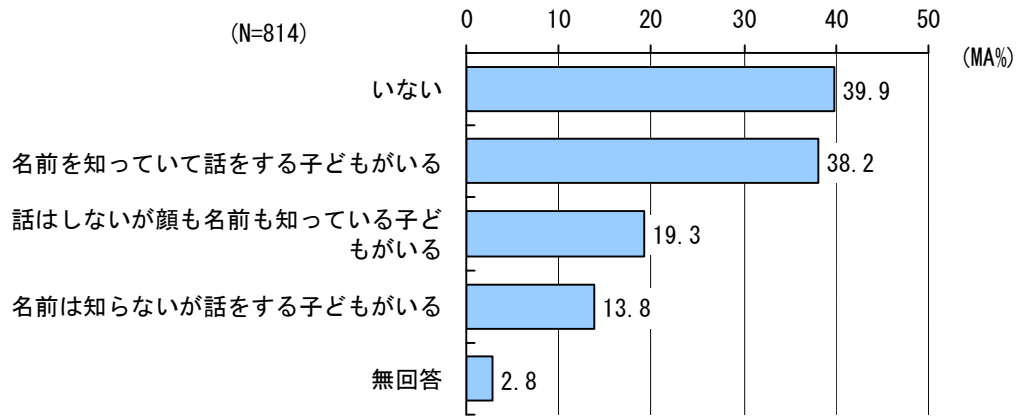
【図Ⅲ-3-1-① 性別・年齢別 近所で会話をしている人の有無】



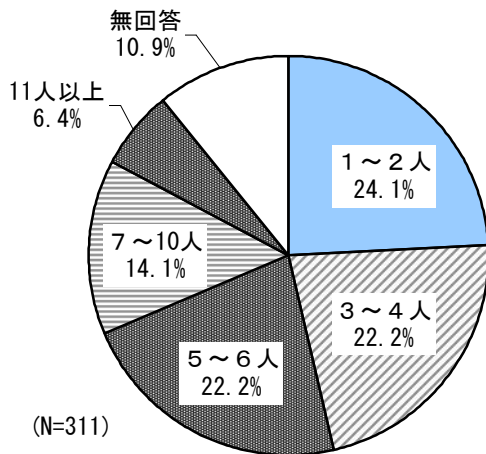
(2) 近所に話をしたりする子どもの有無

問 あなたは、近所に話をしたりする子どもがいますか。(あてはまるものすべてに○)

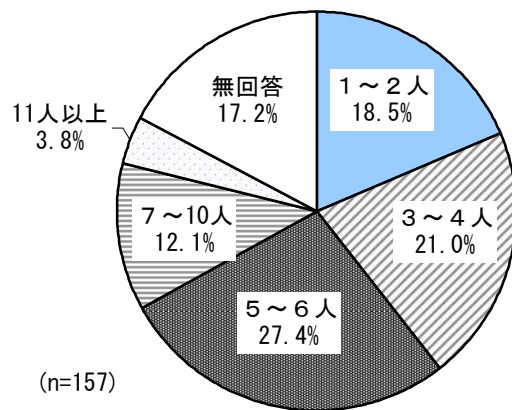
【図Ⅲ-3-2 近所に話をしたりする子どもの有無】



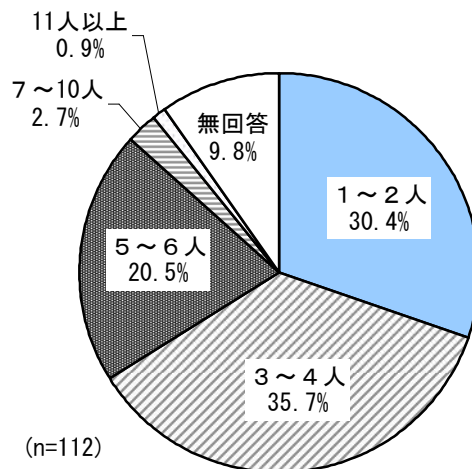
【図Ⅲ-3-2-1 名前を知っていて話をする子どもの人数】



【図Ⅲ-3-2-2 話はしないが顔も名前も知っている子どもの人数】



【図Ⅲ-3-2-3 名前は知らないが話をする子どもの人数】



近所に話をしたりする子どもの有無については、「いない」が39.9%で最も高く、次いで「名前を知っていて話をする子どもがいる」が38.2%、「話はしないが顔も名前も知ってい

Ⅲ-2 20歳以上の調査の結果

「子どもがいる」が19.3%、「名前是不知らないが話をする子どもがいる」が13.8%となっている。(図Ⅲ-3-2)

「名前を知っていて話をする子どもがいる」と回答した人に、その子どもの人数をたずねると、「1～2人」が24.1%で最も高く、次いで「3～4人」と「5～6人」(共に22.2%)であり、平均人数は5.6人となっている。(図Ⅲ-3-2-1)

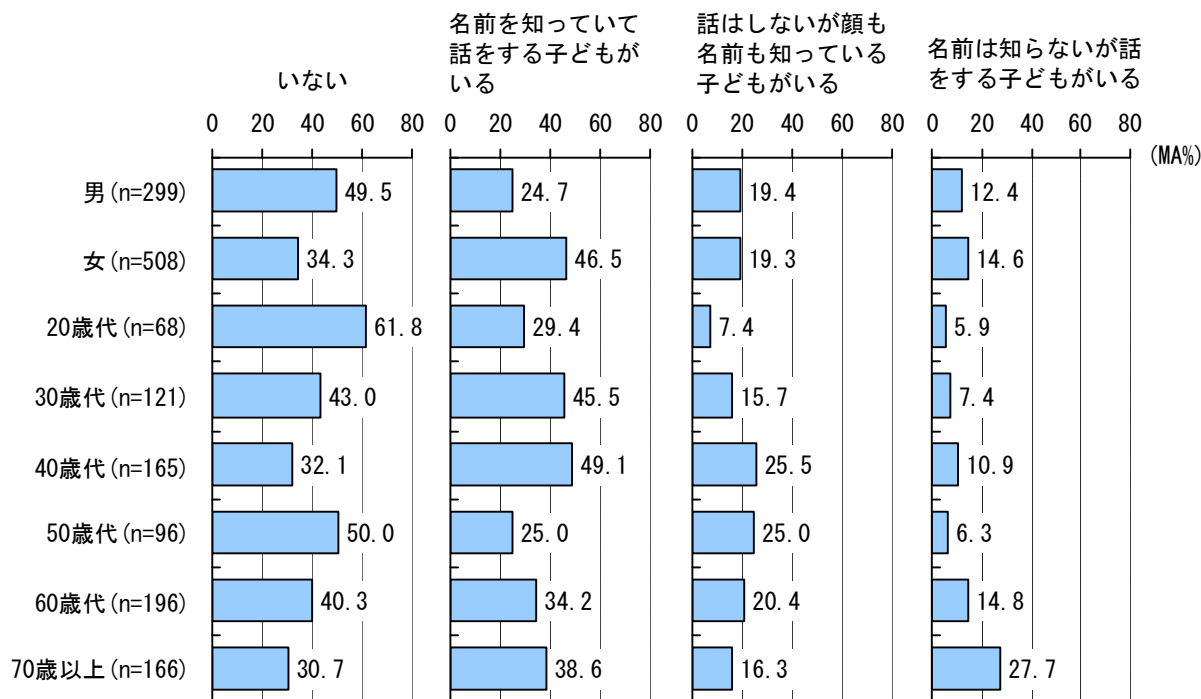
「話是不しないが顔も名前も知っている子どもがいる」と回答した人に、その子どもの人数をたずねると、「5～6人」が27.4%で最も高く、次いで「3～4人」が21.0%、「1～2人」が18.5%であり、平均人数は5.7人となっている。(図Ⅲ-3-2-2)

「名前是不知らないが話をする子どもがいる」と回答した人に、その子どもの人数をたずねると、「3～4人」が35.7%で最も高く、次いで「1～2人」が30.4%、「5～6人」が20.5%であり、平均人数は3.4人となっている。(図Ⅲ-3-2-3)

近所に話をしたりする子どもの有無について性別でみると、「いない」は女(34.3%)より男(49.5%)のほうが15.2ポイント高く、「名前を知っていて話をする子どもがいる」は男(24.7%)より女(46.5%)のほうが21.8ポイント高くなっている。

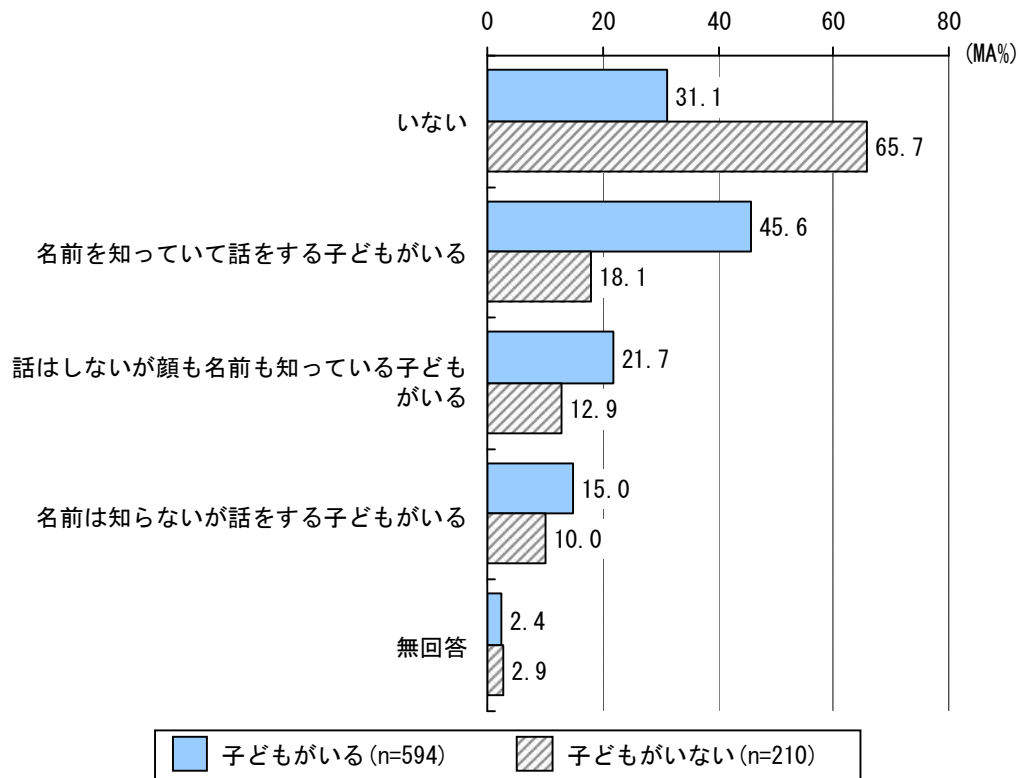
年齢別でみると、20・50・60歳代は「いない」が最も高く、30・40歳代、70歳以上は「名前を知っていて話をする子どもがいる」が最も高くなっている。(図Ⅲ-3-2-①)

【図Ⅲ-3-2-① 性別・年齢別 近所に話をしたりする子どもの有無】



子どもの有無別でみると、近所に話をしたりする子どもが「いない」の割合は、子どもがいる人（31.1％）に比べて、いない人（65.7％）のほうが34.6ポイント高くなっている。それ以外の項目の割合は、子どもがいる人のほうが高くなっている。（図Ⅲ-3-2-②）

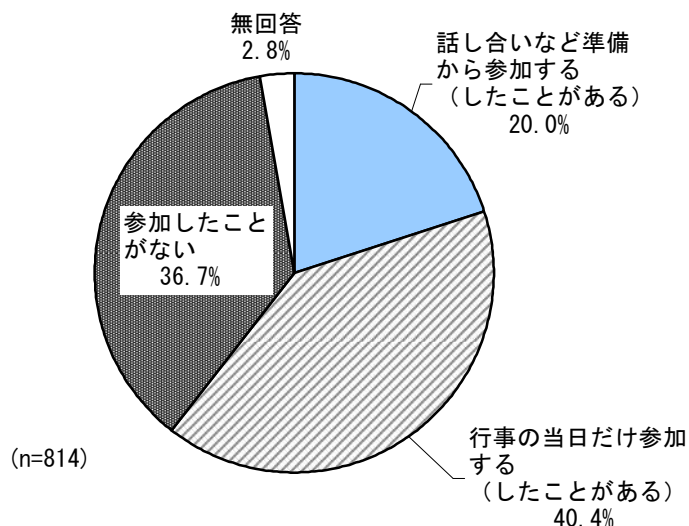
【図Ⅲ-3-2-② 子どもの有無別 近所に話をしたりする子どもの有無】



(3) 祭りやイベント等への参加状況

問 あなたはお祭り等の地域の行事に参加しますか。(○は1つ)

【図Ⅲ-3-3 祭りやイベント等への参加状況】

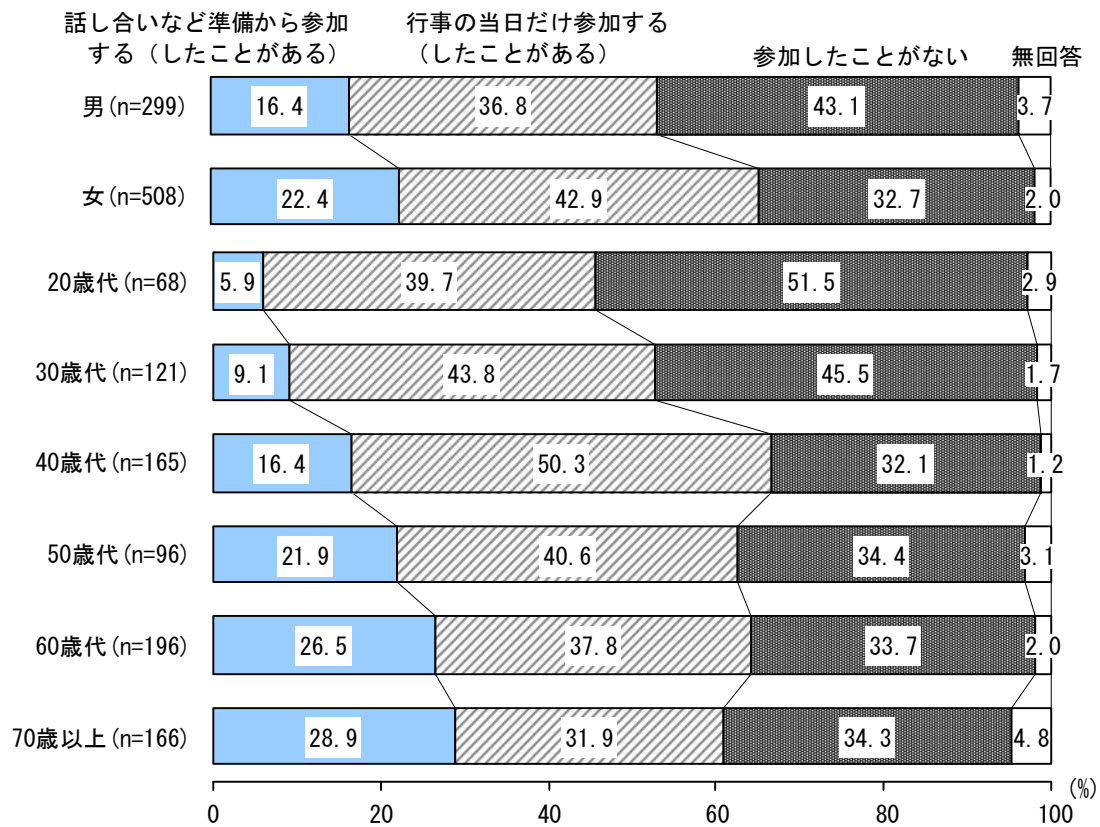


祭りやイベント等への参加状況については、「行事の当日だけ参加する (したことがある)」が40.4%で最も高く、次いで「参加したことがない」が36.7%、「話し合いなど準備から参加する (したことがある)」が20.0%となっている。(図Ⅲ-3-3)

性別でみると、男は「参加したことがない」(43.1%)が最も高いが、女は「行事の当日だけ参加する (したことがある)」(42.9%)が最も高くなっている。

年齢別でみると、「話し合いなど準備から参加する (したことがある)」の割合は、年齢とともに高くなっており、70歳以上(28.9%)が最も高くなっている。一方、「参加したことがない」は20～30歳代で最も高く、30歳代(45.5%)に比べて20歳代(51.5%)のほうが高くなっている。(図Ⅲ-3-3-①)

【図Ⅲ-3-3-① 性別・年齢別 祭りやイベント等への参加状況】

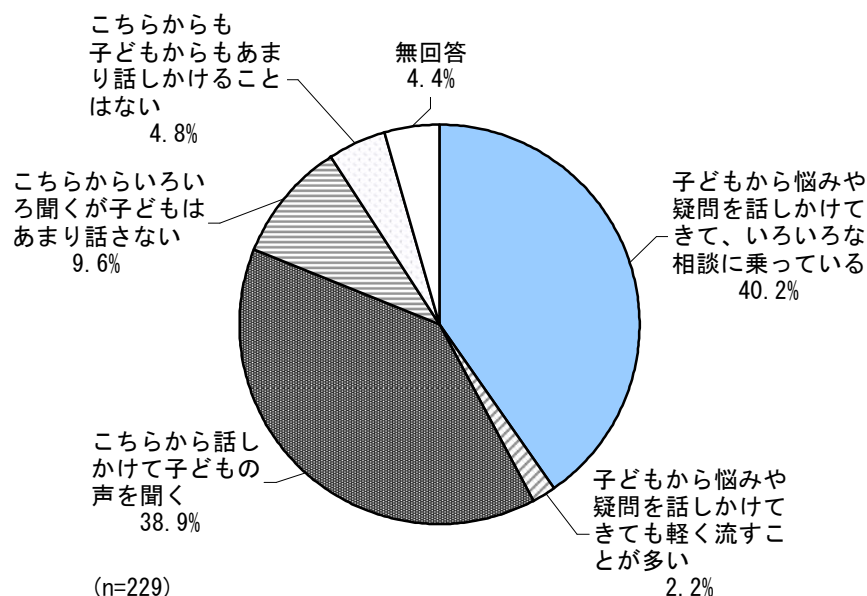


4. 相談について

(1) 子どもからの相談への対応状況

問 あなたはお子さんの悩みや疑問などの相談に乗りますか。(○は1つ)

【図Ⅲ-4-1 子どもからの相談への対応状況】

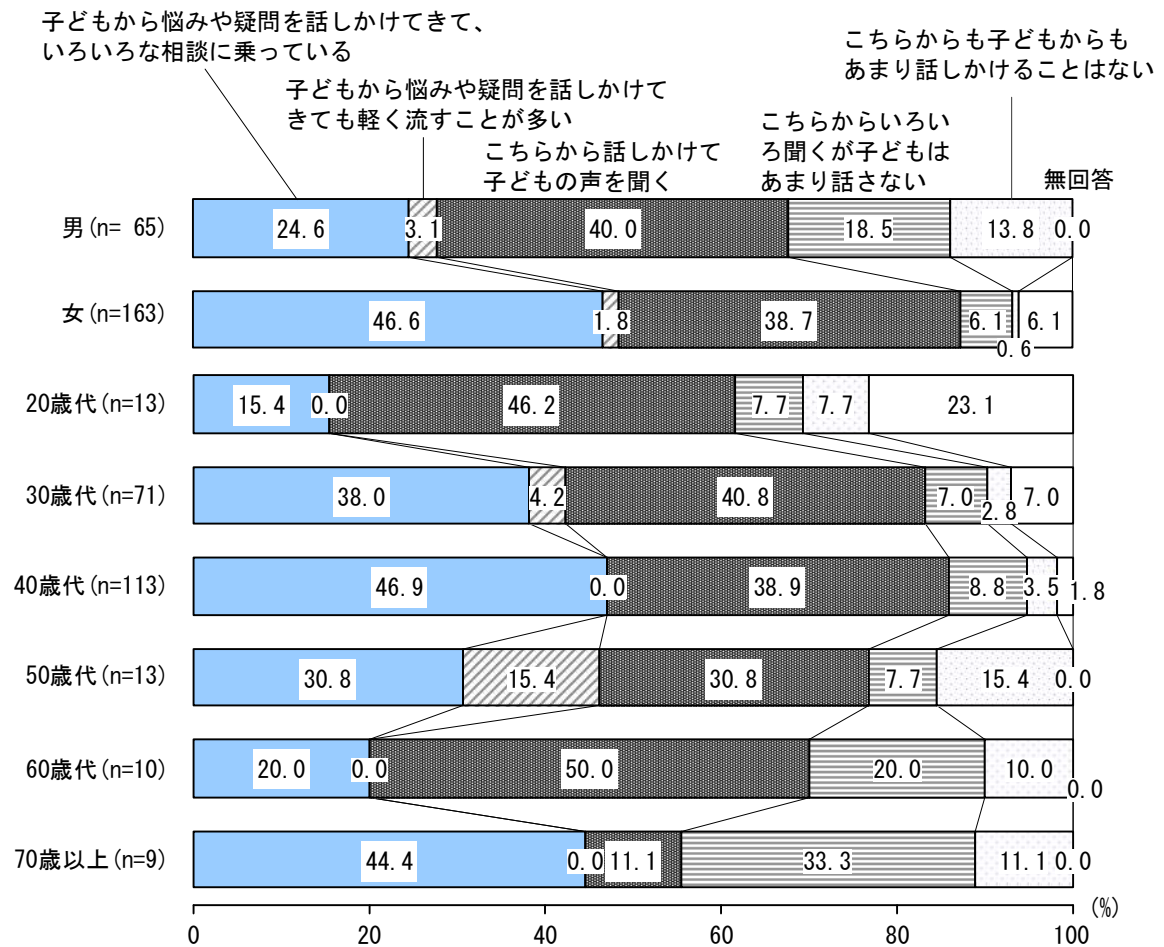


子どもからの相談への対応状況については、「子どもから悩みや疑問を話しかけてきて、いろいろな相談に乗っている」が40.2%で最も高く、次いで「こちらから話しかけて子どもの声を聞く」が38.9%、「こちらからいろいろ聞くが子どもはあまり話さない」が9.6%となっている。(図Ⅲ-4-1)

性別でみると、男は「こちらから話しかけて子どもの声を聞く」(40.0%)が最も高いが、女は「子どもから悩みや疑問を話しかけてきて、いろいろな相談に乗っている」(46.6%)が最も高くなっている。また、「こちらからいろいろ聞くが子どもはあまり話さない」と「こちらからも子どもからもあまり話しかけることはない」は、男のほうが高い割合となっている。

年齢別でみると、40歳代、70歳以上では「子どもから悩みや疑問を話しかけてきて、いろいろな相談に乗っている」が最も高くなっている。また、50歳代はこれに加えて、「こちらから話しかけて子どもの声を聞く」も高くなっている。「こちらからいろいろ聞くが子どもはあまり話さない」は60歳以上の年代で2割以上を占めている。(図Ⅲ-4-1-①)

【図Ⅲ-4-1-① 性別・年齢別 子どもからの相談への対応状況】

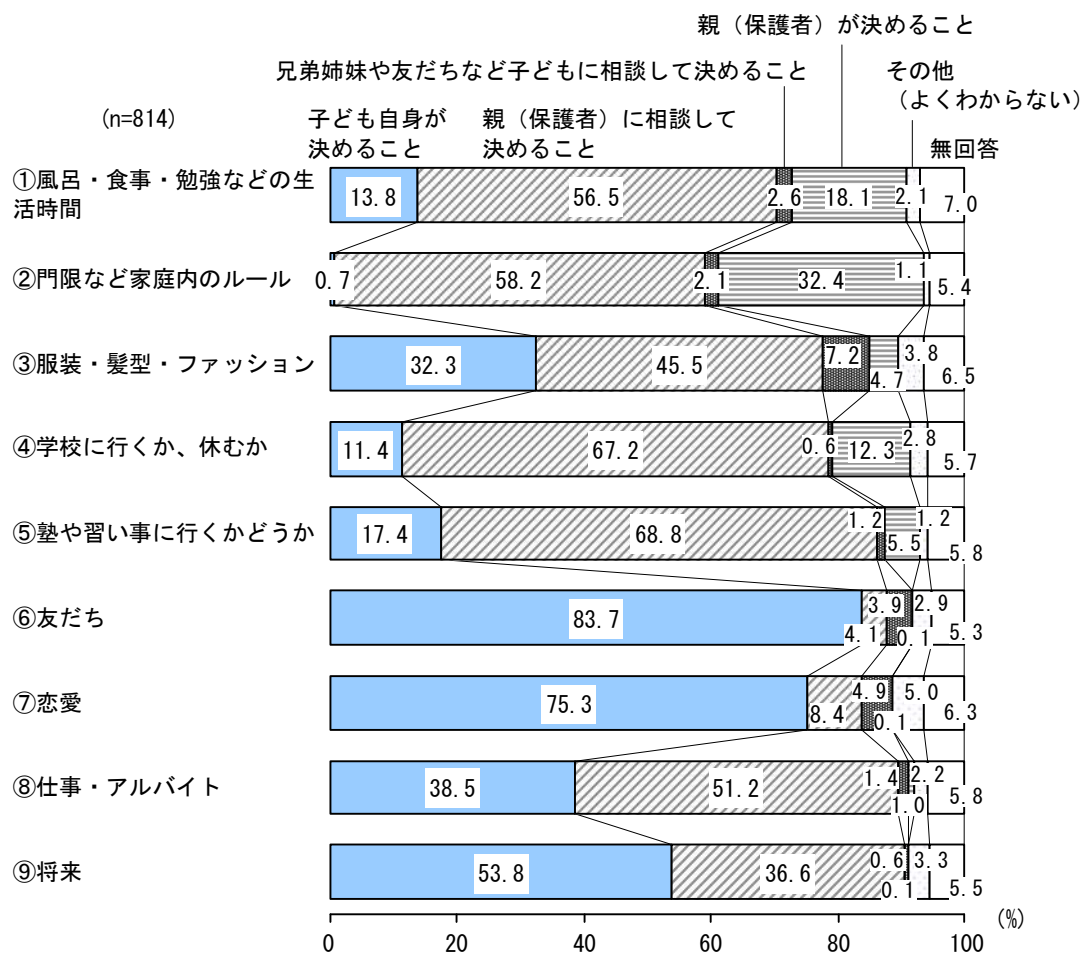


5. 自己決定について

(1) 子どもの自己決定の状況

問 次の設問について、あなたはどのように思いますか（設問ごとにあてはまるもの1つに○）

【図Ⅲ-3-5 子どもの自己決定の状況】



子どもの自己決定の状況についてたずねた。

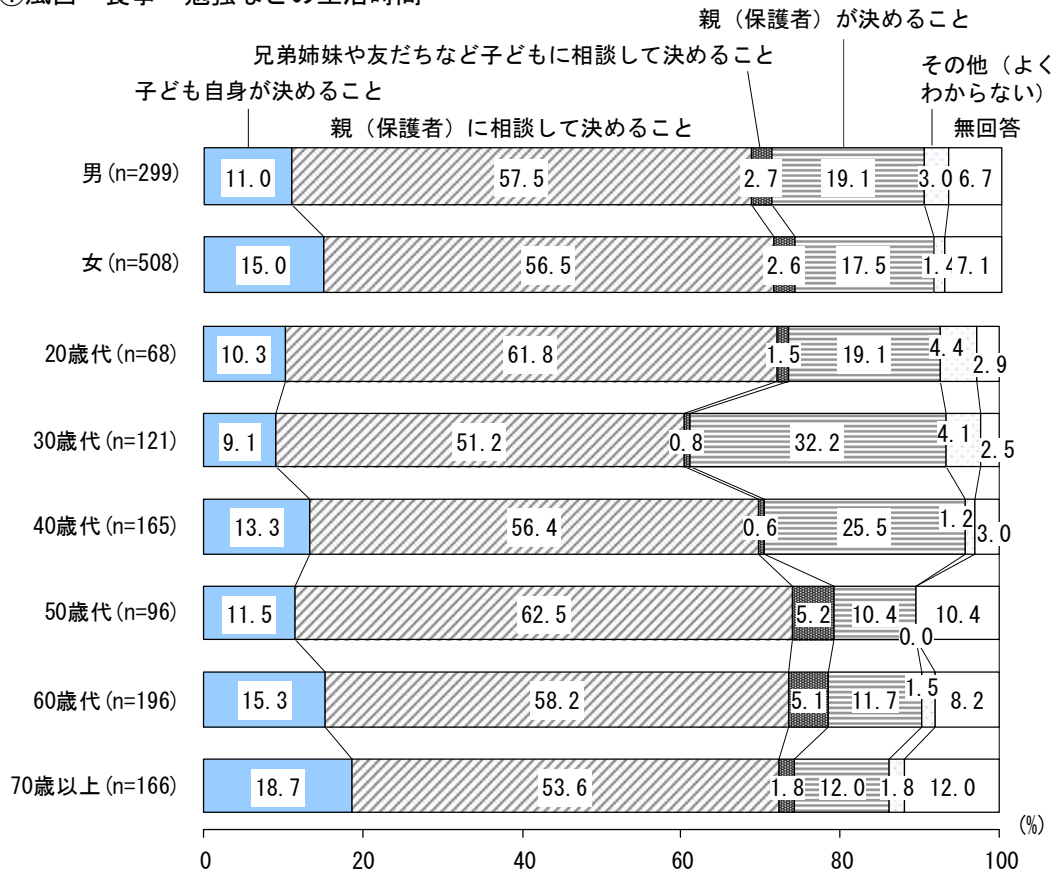
「子ども自身が決めること」は“⑥友だち”（83.7%）が最も高く、次いで“⑦恋愛”（75.3%）、“⑨将来”（53.8%）となっている。「親（保護者）に相談して決めること」は“①風呂・食事・勉強などの生活時間”（56.5%）、“②門限など家庭内のルール”（58.2%）、“④学校に行くか、休むか”（67.2%）、“⑤塾や習い事に行くかどうか”（68.8%）、“⑧仕事・アルバイト”（51.2%）が過半数を占めている。「親（保護者）が決めること」は“②門限など家庭内のルール”が32.4%と他の項目に比べて高くなっている。（図Ⅲ-3-5）

性別でみると、“①風呂・食事・勉強などの生活時間”と“③服装・髪型・ファッション”、“④学校に行くか、休むか”、“⑥友だち”、“⑧仕事・アルバイト”、“⑨将来”では「子ども自身が決めること」の割合が男に比べて女のほうが高くなっている。また、“②門限など家庭内のルール”、“④学校に行くか、休むか”、“⑤塾や習い事に行くかどうか”、“⑦恋愛”、“⑨将来”では、「親（保護者）に相談して決めること」の割合も女のほうが高くなっている。

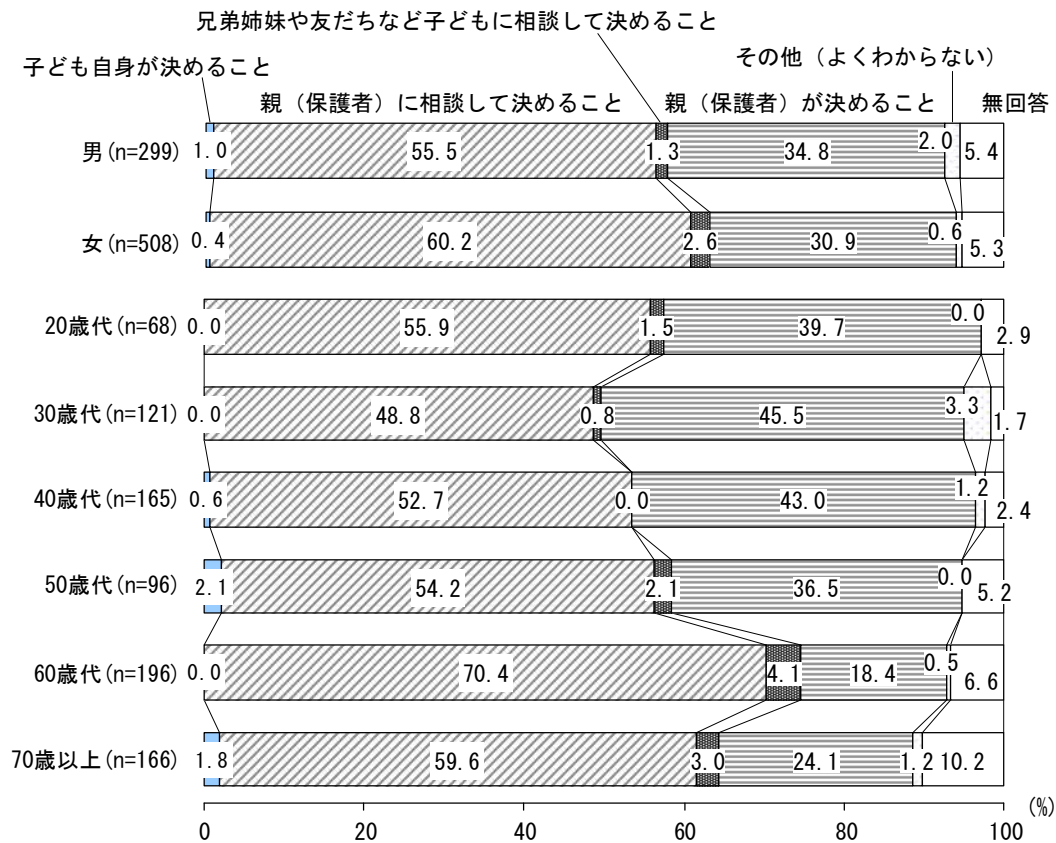
年齢別では、「子ども自身が決めること」の割合は“服装・髪型・ファッション”と“将来”は20歳代が最も高く、年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。“友だち”は20～50歳代で約9割を占め、“恋愛”、“仕事・アルバイト”は20・30歳代の割合が高くなっている。（図Ⅲ3-5-①、①～⑤）

【図Ⅲ-3-5-① 子どもの自己決定の状況①】

①風呂・食事・勉強などの生活時間

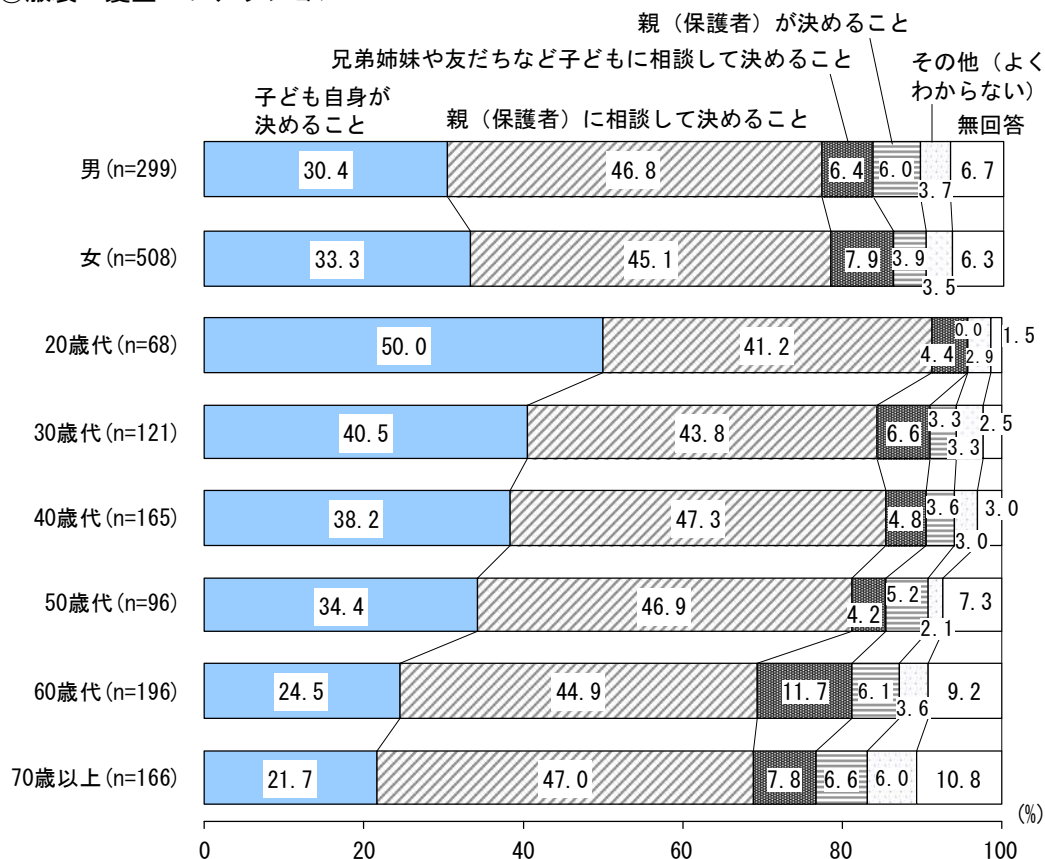


②門限など家庭内のルール

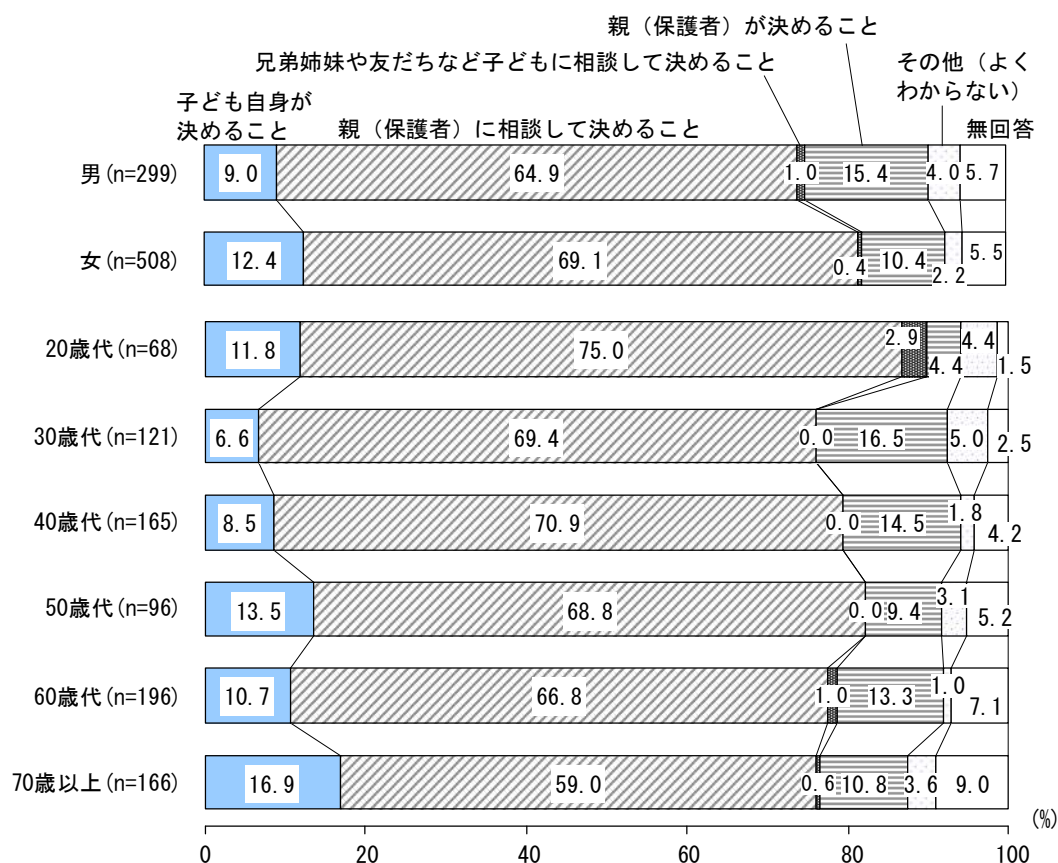


【図Ⅲ-3-5-① 子どもの自己決定の状況②】

③服装・髪型・ファッション

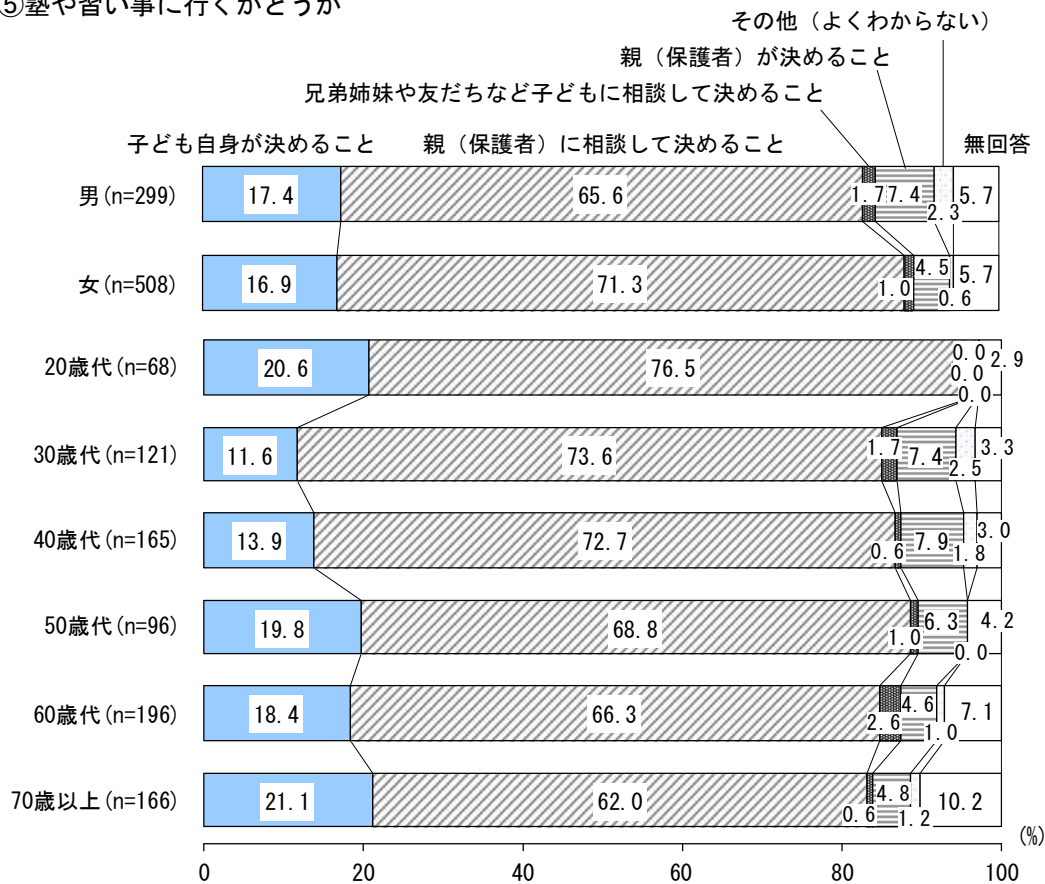


④学校に行くか、休むか

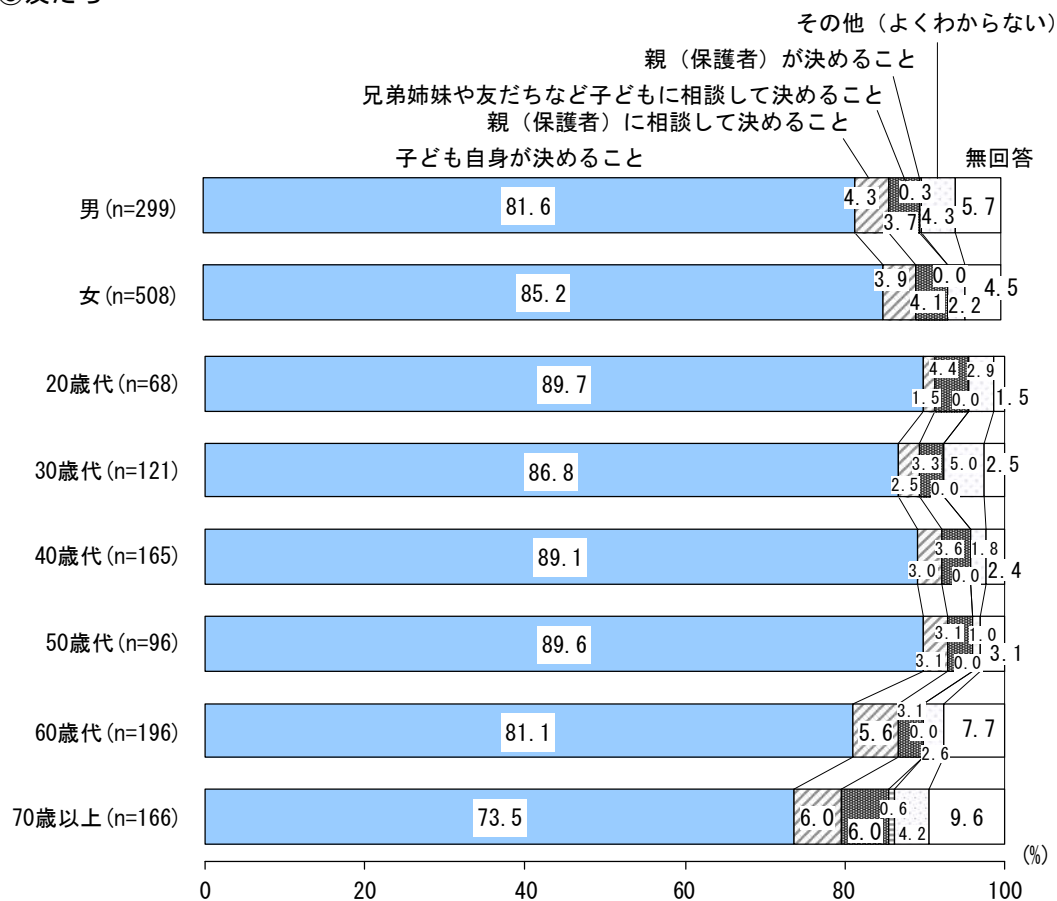


【図Ⅲ-3-5-① 子どもの自己決定の状況③】

⑤塾や習い事に行くかどうか

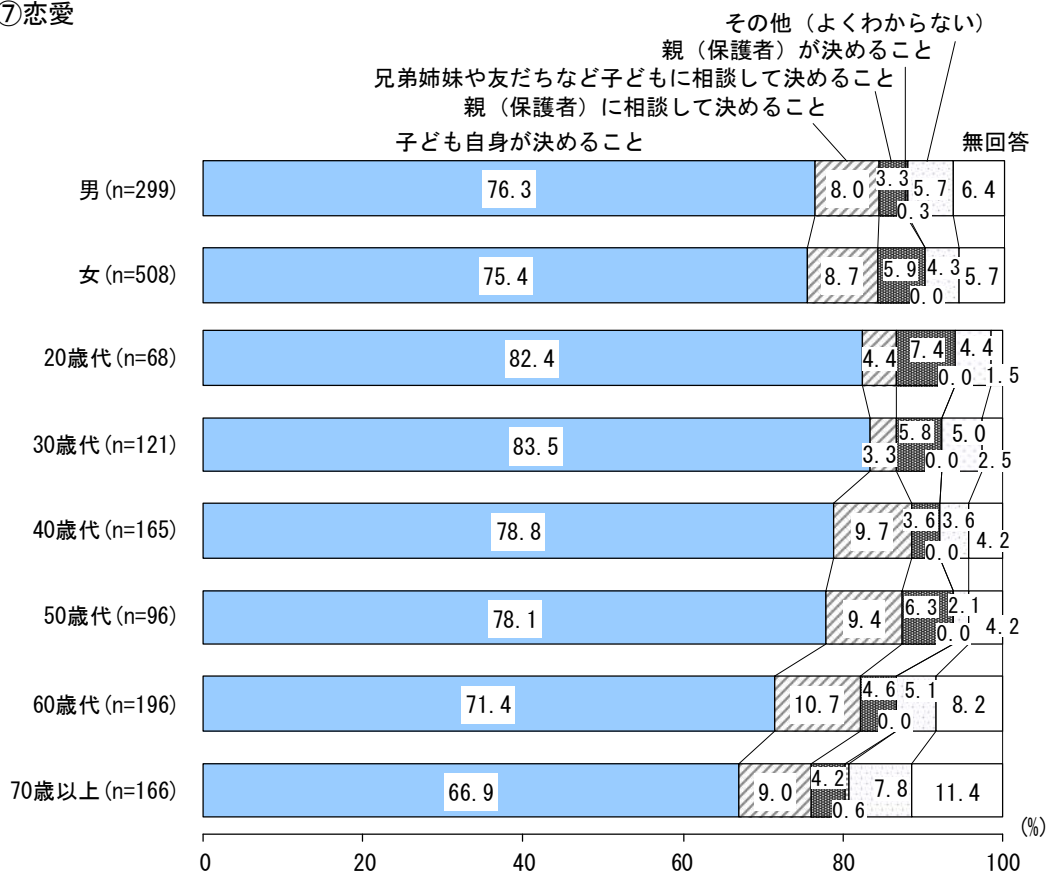


⑥友だち

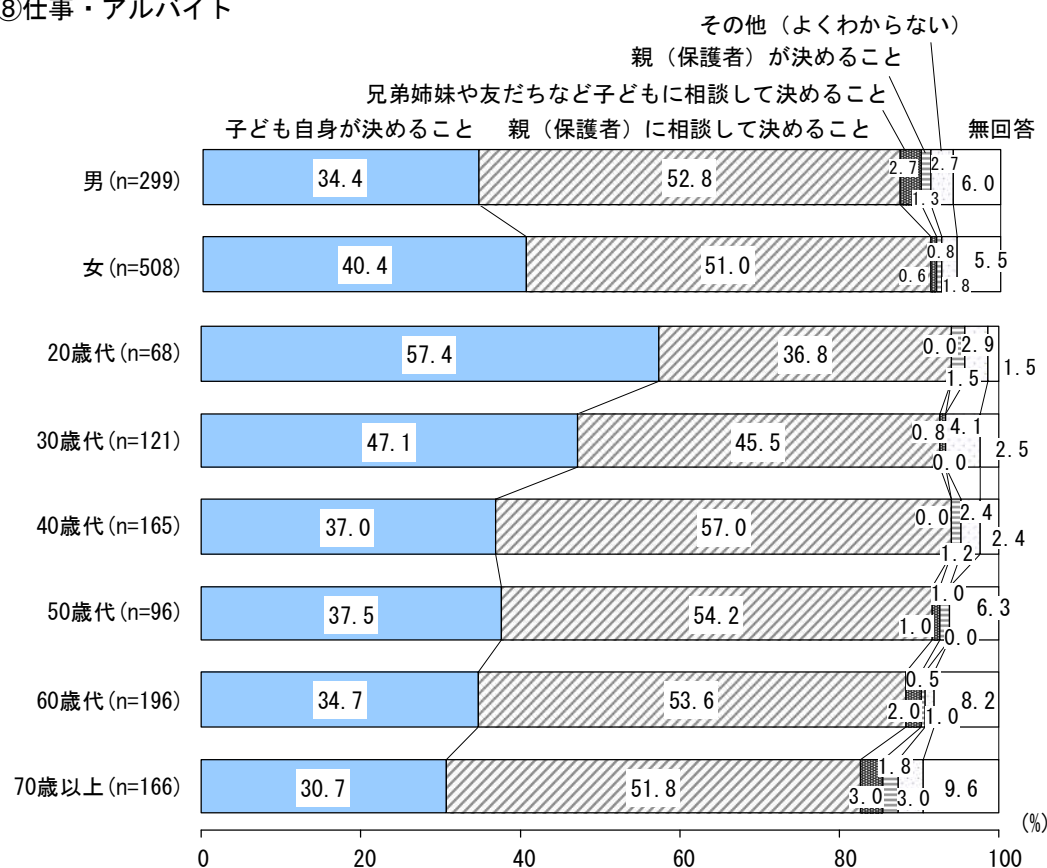


【図Ⅲ-3-5-① 子どもの自己決定の状況④】

⑦恋愛

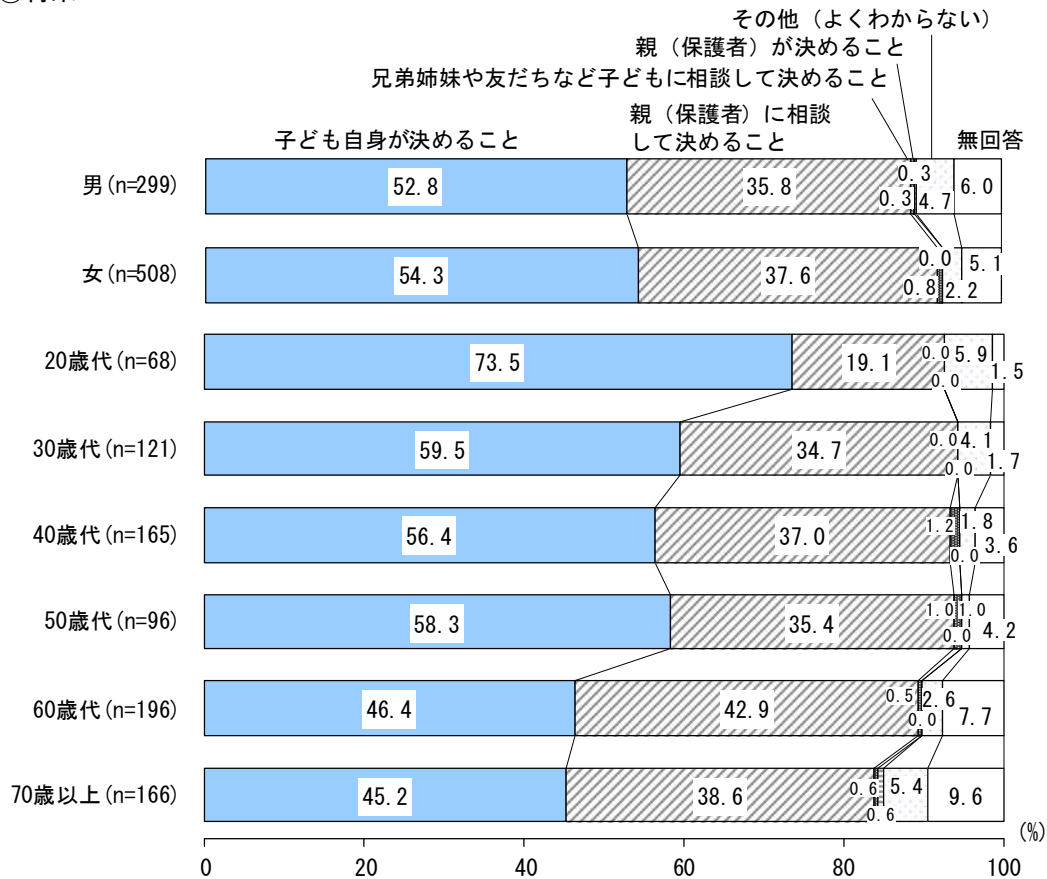


⑧仕事・アルバイト



【図Ⅲ-3-5-① 子どもの自己決定の状況⑤】

⑨将来



６．自由意見

調査票の最後の自由意見欄には、延べ313件の回答が寄せられた。記入内容別の件数を表にまとめると、以下のとおりである。

問14 奈良市の子どもに対する施策についてご意見やご要望がありましたらご自由にご記入ください。	件数
出産、子育ての支援や補助を充実させてほしい	32
公園など遊び場所が少ない、増やしてほしい、整備してほしい	25
地域全体が子どもに関心を持ち、見て見ぬ振りをしない	24
親がしっかりと子どもを教育する環境を整備してほしい	22
子育てのしやすい安心で明るい地域づくりを考えていきたい	20
通学路を整備する、登下校時は安全にしてほしい	20
学校の設備、取り組みなどを充実させてほしい	20
託児所、保育園や学童保育などを増やしてほしい、整備してほしい	12
学力向上の為に施策をたててほしい	12
アンケートについての疑問、不満、意見等	11
保育園、幼稚園などのサービスを向上してほしい	10
児童館などの施設などを増やしたり、整備してほしい	10
いじめをなくすための施策をたててほしい	10
アンケートは、子どもの年齢の幅があり、回答が難しい	9
条例、施策についてよくわからない	8
行事や施策などの情報を大きく周知、広報してほしい	8
子どもの安全を強化してほしい	7
子どもがいない、子育てが終わったからわからない	7
施策以外の疑問、要望、意見など	6
他市と比べて奈良市は遅れている	6
子どもに関するその他の疑問、要望、意見など	6
私立中学高校への助成	5
公立学校の教師の質の向上	4
地域の子どもの行事が少ない	4
市は地域の実態を把握してほしい	4
共働き世帯への子育ての支援	3
条例への要望、意見	2
その他、わからない、回答できないなど	2
子どもに権利を与えるなら、少年犯罪の年齢も考えるべきだ	1
子どもが職種体験したり、職場の体験学習などあってもいいのでは	1
健全な子どもだけでなく、いろいろな子どもが平等に保育、教育が受けられるようにしてほしい	1
教育センターを有効活用し、伝統文化や行事への学習を充実させる	1
計	313